NIHON UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF ART 2018-2019

GSA

GSA

www.art.nihon-u.ac.jp

日本大学大学院芸術学研究科

NU
Nihon University College of Art
Art

NIHON UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF ART 2018-2019

芸術の新たな地平を切り拓く。

近年の芸術は、各分野がそれぞれ深化し、より高度な専門性が要求されるようになってきています。
同時に、各分野のクロスオーバーする部分も大きくなるとともに、これまでの芸術の各領域を超えてマルティプル化しています。単独の分野の研究を超えて、各分野が複雑にかかわり合うようになってきており、単独の芸術の深化をはかるだけでは十分といえない領域が多くなってきています。
本研究科は、以上のような芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門および学際的課題を含む応用領域の研究を行うことを目的としています。
このような理念を基に、博士前期(修士)課程は昭和26年に設置した文芸学専攻に加えて、平成５年に映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の４専攻を設置し、芸術の理論と高度な表現力を涵養することを主眼に構成しています。また、平成７年に開設された博士後期課程芸術専攻では、さらに自立した研究活動と高度な活動に従事するのに必要な表現能力と豊かな学識を持った人材の育成を目標としています。

Recently each field of art has become increasingly specialized, and students must acquire a higher level of knowledge and skills.
At the same time, each field of art has spread beyond its traditional range and borders between fields have become blurred.
The graduate school of art provides an opportunity to study the theory and history of art and to develop creativity while also developing skills in other applied areas.
Based on these ideas, the Literary Arts Master Course started in 1951 and the four other master courses (Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts, and Performing Arts) became available in 1993.The doctoral course that started in 1995 offers an even higher level of research and study, and educates students to acquire deep knowledge and artistic expression.

【芸術学研究科　教育研究上の目的】
21 世紀の芸術は、すべての領域における融合を必然としている。芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門及び学際的課題を含む応用領域の研究を行っている。専門分野の更なる研究と創作等を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することで、幅広い知識と技術を持った、次代の芸術をリードする人材を養成する。

The Message from **Masashi Kimura, Head of the Graduate School of Art**

木村　政司
日本大学大学院芸術学研究科長

学ぶ人たちへのメッセージ

日本大学大学院芸術学研究科は、昭和２６年の文芸学専攻に始まり、平成５年の映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の増設へと、芸術研究の領域を広げてきました。そして平成７年には、博士後期課程芸術専攻を創設し、当研究科が目的とする総合的な芸術研究の場を整えました。

今、芸術は、時代とジャンルを超え、共存と融合をはかりながら進化し続けています。映像的な認識が言語表現に深く関わり、言語自体もまた、映像文化の中で増殖を繰り返すという、そんな時代を迎えているのです。写真、映画、美術、音楽、文芸、演劇、放送、デザインの学部８学科を基礎とする芸術学研究科は、その意味で２１世紀の芸術を担うにふさわしい研究・創作の場といえるでしょう。

創作の場に身を置いての芸術理論の探求。理論的な裏づけを視野に入れての芸術作品の創造。芸術学研究科が皆さんに提供するのは、そういった総合的な研究・創作の場です。皆さんの一人ひとりが、次代の芸術をリードすることを心から期待します。

The Graduate School of Art, Nihon University began with a Master's degree program in the Literary Arts Course in 1951.In 1993, the Master's degree programs in Image Arts, Fine Arts and Design, Music and Performing Arts were established to offer more comprehensive, interdisciplinary approaches to research for arts. In 1995, the university established a doctoral course of the arts to extend this program.

Now various forms of art continue to evolve, assimilate and disperse. We are in the middle of an age when imagery recognition has a close relationship with expression by language and the two fields influence each other.

The Graduate School of Art, based on the eight departments of photography, cinema, fine arts, music, literary arts, theatre, broadcasting and design, is suitable for seeking theories of art based on practical works and for creating works based on a certain theoretical view.

The Graduate School of Art offers well-organized programs for theory and creation. I hope that every artist in the Graduate School of Art will lead the next generation of artists.

66年の歴史を持つ芸術系総合大学院

66年の歴史を重ねる日本大学大学院芸術学研究科は、昭和26年に修士課程文芸学専攻からスタートしました。専門分野の更なる研究と創作を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することを目的として、平成5年度より映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を増設し、学部8学科を基礎とした大学院として大きな一歩を踏み出しました。更に、平成7年度からは、博士後期課程芸術専攻を開設し、芸術系総合大学院として幅広い知識と技術を持った人を育成しています。

C O N T E N T S

芸術学部 College of Art	芸術学研究科 Master Course	芸術学研究科 Doctoral Course	芸術学研究科 Graduate School of Art	
学部【8学科】	博士前期課程【5専攻】	博士後期課程【1専攻】		
文芸	文芸学		文芸学専攻 Literary Arts	4
写真 映画 放送	映像芸術		映像芸術専攻 Image Arts	5
美術 デザイン	造形芸術		造形芸術専攻 Fine Art and Design	6
音楽	音楽芸術		音楽芸術専攻 Musical Arts	7
演劇	舞台芸術		舞台芸術専攻 Performing Arts	8
		芸術	芸術専攻 The Arts	9
			教員 Faculty Members	10〜49
			校舎等案内図 Guide Maps & INDEX	50

（平成29年10月現在）

Literary Arts Course

新しい創造力は、広い視野から生まれる。

【文芸学専攻　教育研究上の目的】
現代文学を研究・創作の両面から考え、隣接ジャンルとの関係で幅広くとらえて文学の未来を探らせる。文学のみならず広義の文化研究の領域でも新研究を求めていく。そのためのあらゆる試みを可能にして、文壇・論壇・学界の新しい担い手を養成する。

文芸学専攻

This course was founded in 1951 and many talented people have graduated from it over the past half century. The course offers not only artistic theory and philosophy, but also the study of literature and literary theory. Moreover, students can also study journalism, communication, and creative writing.

文芸学専攻は、他の4専攻設置の科目を含め、幅広い視点から、創作・評論・文芸学・ジャーナリズムに関する研究を行うことが可能です。

授業科目	授業担当
A　理論部門	
文芸学特論Ⅰ	相川　宏
	尾高修也
文芸学特論Ⅱ	石﨑　等
哲学特論	藤田一美
芸術心理学特論	野村康治
文芸情報学特論	山本雅男
マスコミュニケーション論	唐須教光
メディア論	此経啓助
	松本　洸
文芸史特論	立石弘道
芸術社会学特論	唐須教光
	三宅理一
文芸表現特論	山本雅男
	尾高修也
B　研究・創作部門	
外国文芸特殊研究	植月惠一郎
	堀　邦維
	山本雅男
日本文芸特殊研究	相川　宏
	上田　薫
	清水　正
	山下聖美
文芸創作特殊研究	佐藤洋二郎
	楊　逸
外国文芸特論Ⅰ	植月惠一郎
	堀　邦維
	山内　淳
	山本雅男
	須藤温子
	久保陽子
	立石弘道
外国文芸特論Ⅱ	植月惠一郎
	堀　邦維
	山内　淳
	須藤温子
	立石弘道
日本文芸特論Ⅰ	相川　宏
	上田　薫
	清水　正
	山下聖美
	中村文昭
日本文芸特論Ⅱ	相川　宏
	上田　薫
	山下聖美
	中村文昭
文芸創作特論Ⅰ	佐藤洋二郎
	楊　逸
	青木敬士
	中村文昭
文芸創作特論Ⅱ	佐藤洋二郎
	楊　逸
	中村文昭
C　関連領域部門	
芸術学特論	鷲見洋一
	前田富士男
	村山匡一郎
リサーチ特殊研究Ⅰ	鈴木保彦
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本　洸
映画史特論	村山匡一郎
	田島良一
放送史特論	上滝徹也
日本美術史特論Ⅰ	大熊敏之
	金子啓明
日本美術史特論Ⅱ	大熊敏之
	金子啓明
西洋美術史特論Ⅰ	木村三郎
	髙橋幸次
西洋美術史特論Ⅱ	木村三郎
	髙橋幸次
日本音楽史特論※	
西洋音楽史特論	芦川紀子
演劇史特論	織田紘二
D　連携研究部門	
連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品	

※は平成29年度開講せず

文芸学専攻は、昭和26年に設置され、半世紀あまりの間に多くの人材を送り出しています。
文芸学専攻は、芸術学や芸術哲学を基礎とし、文学や文芸理論の研究、文芸作品の研究、作家研究を中心としたカリキュラムが組まれているのが特徴です。さらに、ジャーナリズムやコミュニケーションを対象とした研究・教育を行うとともに、創作実践および創作研究も取り入れていることは、他の文学専攻と異なった特徴のひとつです。

Image Arts Course

柔軟な感性、深い探究心が、映像芸術の新時代をとらえる。

【映像芸術専攻　教育研究上の目的】
今日の情報環境の中で役割が拡大してきている写真、映画、ＴＶ等各専門領域・専門分野の深化・総合化を図る。映像の各分野の歴史研究や作品研究、さらに各メディアの総合化の実験、他の芸術領域との統合を図るなど、高度な創作活動、理論的研究を通じて、より新しく専門的な表現実験に意欲的に取り組む人材、専門的な教育研究に従事する人材の養成と新たな総合的研究領域の形成を図る。

映像芸術専攻

Today image arts are becoming increasingly important forms of artistic expression and sources of information. Not only changes in the media such as photography, film and television, but also a fushion of digital image processing technologies and communication technologies have expanded the scope of possibilities in audio-visual space. This course aims to develop an overall conceptual framework for image arts, encompassing these image-based media.
The main concept of this course is that each image is essential for various media, and artistic images connect people with society. Image is regarded as a technological artistic expression and at the same time as a form of communication. Therefore, education and research in this major requires knowledge of and techniques in natural science and professional techniques as well as creative activities.

今日の芸術表現および情報環境の中で、映像の持つ役割は大きくなっています。写真、映画、テレビ、PDAなどのメディアの変化とデジタル映像処理技術や通信技術との融合で視聴覚空間は拡大してきています。
映像芸術専攻は、こうした映像のさまざまなメディアを総合化した理念でとらえようとしています。また、それぞれのメディア領域の本質は映像であるということを基調とし、人と社会をつなぐ芸術メディアとしてデザインする研究と創作活動を通じて専門的知識を追究することを目的としています。ことに映像は、技術によって成立する芸術表現であると同時に、社会的機能つまり伝達特性を持つところから、本専攻では、科学的知識、専門的表現技術および創作研究をも重要視しています。

写真・映画・放送の各領域に映像メディアを加え、芸術創造の研究機関の役割を果たすという構想のもと、映像メディアの本質の構造的研究と創作を行っています。

授業科目	授業担当
A　理論部門	
映像特論	小笠原隆夫
写真史特論	小泉定弘
映画史特論	村山匡一郎
	田島良一
放送史特論	上滝徹也
映像構成特論	仲倉重郎
	月岡貞夫
映像技術特論 ※	
映像音響特論	橋本勝次
映像教育研究 ※	
B　演習・実習部門	
映像表現研究Ⅰ	浅井　譲
	鈴木孝史
	齊藤裕人
	上倉　泉
	鳥山正晴
	松島哲也
	宮沢誠一
写真特殊研究Ⅰ	高橋則英
映画特殊研究Ⅰ	古賀　太
	田島良一
放送特殊研究Ⅰ	兼高聖雄
映像メディア特殊研究Ⅰ	奥野邦利
	宮崎正弘
映像作品特殊研究Ⅰ	西垣仁美
	鳥山正晴
	鈴木康弘
	中町綾子
	星野　裕
	森中愼也
映像技術特殊研究Ⅰ	甲田謙一
	上倉　泉
	玉木則順
	落合賢一
映像表現研究Ⅱ	浅井　譲
	鈴木孝史
	上倉　泉
	大谷尚子
	松島哲也
	宮崎正弘
	増田治宏
	原　直久
	阪本善尚
	広沢文則
	南部英夫
	山田顕喜
	青木研次
写真特殊研究Ⅱ	高橋則英
映画特殊研究Ⅱ	村山匡一郎
	古賀　太
	橋本勝次
放送特殊研究Ⅱ	兼高聖雄
映像メディア特殊研究Ⅱ	奥野邦利
	宮崎正弘
	瀬島久美子
	横田正夫
映像作品特殊研究Ⅱ	西垣仁美
	佐藤英裕
	兼高聖雄
	中町綾子
	野田慶人
	星野　裕
	森中愼也
	金　龍郎
	小笠原隆夫
	寺脇　研
	野末敏明
	横川眞顕
映像技術特殊研究Ⅱ	甲田謙一
	上倉　泉
	玉木則順
	落合賢一
	増田治宏
	松田義弘
	広沢文則
C　関連領域部門	
芸術学特論	鷲見洋一
	前田富士男
	村山匡一郎
リサーチ特殊研究Ⅰ	鈴木保彦
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本　洸
文芸学特論Ⅰ	相川　宏
	尾高修也
文芸学特論Ⅱ	石﨑　等
哲学特論	藤田一美
芸術心理学特論	野村康治
文芸情報学特論	山本雅男
マスコミュニケーション論	唐須教光
メディア論	此経啓助
	松本　洸
文芸史特論	立石弘道
芸術社会学特論	唐須教光
	三宅理一
造形特論	栄久庵祥二
	大西若人
建築造形特論	三宅理一
デザイン史特論Ⅰ	藤戸幹雄
	小林昭世
デザイン史特論Ⅱ	藤戸幹雄
	小林昭世
建築デザイン史特論Ⅰ	河東義之
建築デザイン史特論Ⅱ	河東義之
日本美術史特論Ⅰ	大熊敏之
	金子啓明
日本美術史特論Ⅱ	大熊敏之
	金子啓明
西洋美術史特論Ⅰ	木村三郎
	髙橋幸次
西洋美術史特論Ⅱ	木村三郎
	髙橋幸次
音楽芸術特論Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	平野　昭
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	芦川紀子
情報音楽特論	川上　央
音楽心理学特論	土野研治
舞台芸術特論	丸茂祐桂
演劇史特論	織田紘二
民俗芸能特論	宮尾慈良
舞踊史特論	丸茂祐佳
	貫　成人
古典劇特論	小田幸子
映像文献原典購読	横川眞顕
D　連携研究部門	
連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文･作品･制作	

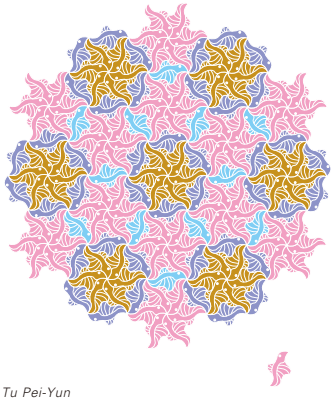
※は平成29年度開講せず

Fine Art and Design Course

知識の蓄積は、創造の可能性を広げる。

【造形芸術専攻　教育研究上の目的】
デザイン、美術、美学美術史の分野における専門家を養成する。創作研究、作品分析研究、歴史研究を多角的に追求し、平面、立体、映像等表現の伝統的及び現代的技法を習得する。芸術の根源的な営為への想像力を馳せる力を養う一方で、文献学の基礎的方法も学ぶ。国際的な視野を持ち、社会との連携も視野に入れつつ、ＩＴ時代に即応した先端的表現領域や、造形関連分野境界領域での表現の独創性も追求する。

造形芸術専攻



Tu Pei-Yun

The primary goal of this course as an extension of the undergraduate course is to foster artistic as well as intellectual ability. It is assumed that the former is strengthened and given direction by the latter. Although training students in skills and technical knowledge in their respective fields of painting, sculpture, printmaking and design disciplines including communication, industrial and architectural designs -- along with the theory of plastic art that encompasses them -- is important, creative interactions among these fields is also strongly encouraged. This course aims to endow students with sensitivity to traditional culture as well as to the age of information and globalism, a prerequisite for the creation of visual culture in the future.

造形芸術専攻では、造形芸術に関する知識の修得とともに、高度な専門領域の研究と技術の修得を行います。

授業科目	授業担当
A　理論部門	
造形特論	栄久庵祥二
	大西若人
建築造形特論	三宅理一
日本美術史特論 Ⅰ	大熊敏之
	金子啓明
日本美術史特論 Ⅱ	大熊敏之
	金子啓明
西洋美術史特論 Ⅰ	木村三郎
	髙橋幸次
西洋美術史特論 Ⅱ	木村三郎
	髙橋幸次
デザイン史特論 Ⅰ	藤戸幹雄
	小林昭世
デザイン史特論 Ⅱ	藤戸幹雄
	小林昭世
建築デザイン史特論 Ⅰ	河東義之
建築デザイン史特論 Ⅱ	河東義之
美術教育研究 Ⅰ	金澤健一
美術教育研究 Ⅱ	金澤健一

Chie Kakinuma

研究活動を通じて育まれた「知」と、「知」に支援された「感性」の両者を合わせもつ人材の育成こそが、学部課程の発展形としての博士前期課程の主たる教育目標です。より高度な専門性の涵養をめざす一方では、造形専攻を構成する絵画･彫刻･版画･造形理論･及びコミュニケーション、インダストリアル、建築のデザイン各分野が、領域をこえて、創造的な交流をはかるための多様な機会も用意されています。
伝統の知恵と、情報化･国際化という時代の趨勢を、独自のテーマ設定と方法論の構築を通じいかにして創造の糧として取り込むか。ここに、視覚文化の優れた担い手の養成をめざす造形芸術専攻の不断の目標があります。

B　演習･実習部門	
造形芸術研究 Ⅰ（絵画･版画）	有地好登
	大庭英治
	笹井祐子
	福島唯史
造形芸術研究 Ⅰ（彫刻）	大槻孝之
	鞍掛純一
造形芸術研究 Ⅰ（デザイン）	木村政司
	熊谷廣己
	桑原淳司
	肥田不二夫
	森　香織
造形理論研究 Ⅰ	木村三郎
	髙橋幸次
	桑原淳司
造形芸術研究 Ⅱ（絵画･版画）	有地好登
	大庭英治
	笹井祐子
	福島唯史
	木下　晋
	櫻井孝美
造形芸術研究 Ⅱ（彫刻）	鞍掛純一
	寺内曜子
造形芸術研究 Ⅱ（デザイン）	木村政司
	熊谷廣己
	桑原淳司
	肥田不二夫
	森　香織
	中島安貴輝
	清水敏成
	佐藤　徹
	西川　潔
造形理論研究 Ⅱ	木村三郎
	髙橋幸次
	桑原淳司
	栄久庵祥二
絵画特殊研究 Ⅰ	赤木範陸
絵画特殊研究 Ⅱ	吉岡正人
版画特殊研究 Ⅰ	笹井祐子
版画特殊研究 Ⅱ ※	
彫刻特殊研究 Ⅰ	鞍掛純一
	小倉洋一
彫刻特殊研究 Ⅱ	海崎三郎
デザイン特殊研究 Ⅰ	中島安貴輝
	深谷基弘
デザイン特殊研究 Ⅱ	深谷基弘
	西川　潔
	清水敏成
デザイン特殊研究 Ⅲ	土田　修
絵画作品研究 Ⅰ	髙橋幸次
絵画作品研究 Ⅱ	吉岡正人
版画作品研究 Ⅰ	河野　実
版画作品研究 Ⅱ	河野　実
彫刻作品研究 Ⅰ	鷹尾俊一
彫刻作品研究 Ⅱ	大槻孝之
デザイン作品研究 Ⅰ	熊谷廣己
	肥田不二夫
デザイン作品研究 Ⅱ	熊谷廣己
	土田　修
デザイン作品研究 Ⅲ	藤戸幹雄
	小林昭世
デザイン作品研究 Ⅳ	森　香織
デザイン実務研究	熊谷廣己
C　関連領域部門	
芸術学特論	鷲見洋一
	前田富士男
	村山匡一郎
リサーチ特殊研究 Ⅰ	鈴木保彦
リサーチ特殊研究 Ⅱ	松本　洸
文芸学特論 Ⅰ	相川　宏
	尾高修也
哲学特論	藤田一美
文芸情報学特論	山本雅男
映像特論	小笠原隆夫
写真史特論	小泉定弘
映画史特論	村山匡一郎
	田島良一
放送史特論	上滝徹也
音楽芸術特論 Ⅰ	笠羽映子
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	芦川紀子
情報音楽特論	川上　央
音楽心理学特論	土野研治
舞台芸術特論	丸茂祐佳
演劇史特論	織田紘二
民俗芸能特論	宮尾慈良
古典劇特論	小田幸子
芸術心理学特論	野村康治
芸術社会学特論	唐須教光
	三宅理一
造形文献原典購読	木村三郎
	栄久庵祥二
D　連携研究部門	
連携理論研究 Ⅰ	
連携理論研究 Ⅱ	
連携表現研究 Ⅰ	
連携表現研究 Ⅱ	
学位論文･作品･制作	

※は平成29年度開講せず

Musical Arts Course

時代に先駆けた音楽人を目指す。

【音楽芸術専攻　教育研究上の目的】
音楽は、芸術文化の中で重要な部分を形成するばかりでなく、社会がますます複雑化し、多様化するにつれて、演劇、舞踊、映画、放送などといった諸分野との結びつきも、さらに密接になってきている。文化の国際化にともなう、まったく新しい形の活動も、めざましい。現実を見据え、いっそう高度な演奏、創作、研究を実践し、あるいは教育に当たることのできる人材を養成する。

音楽芸術専攻

This course is grounded in the artistry built up over time through the many accomplishments of the College of Art in various fields. It aims at a scientific approach to the study of the essence and psychological aspects of music so that the students can attain higher levels of musical sensitivity and methodology. Goals are to conduct research on musical theories and train students to be capable of responding flexibly to the increasingly diverse needs of society.

多様化するニーズに応えるため、より高度な音楽的感性と、技法の向上を具体的に研究することを目的とした授業を行っています。

授業科目	授業担当
A　理論部門	
音楽芸術特論 Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論 Ⅱ	平野　昭
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	芦川紀子
情報音楽特論	川上　央
音楽教育特論	澤崎眞彦
音楽心理学特論	土野研治
B　演習・実習部門	
作曲特殊研究	伊藤弘之
声楽特殊研究	池田直樹
	斉田正子
器楽特殊研究	今泉　久
	萩原貴子
	田代幸弘
	楊　麗貞
音楽学研究	伊藤弘之
音楽教育研究	土野研治
情報音楽研究	川上　央
音楽理論研究 Ⅰ	伊藤弘之
	清水泰博
	川上　央
音楽理論研究 Ⅱ	伊藤弘之
音楽表現研究 Ⅰ	池田直樹
	伊藤弘之
	今泉　久
	斉田正子
	田代幸弘
	萩原貴子
	楊　麗貞
	稲川榮一
	佐々木　伸
	四戸世紀
	寺田悦子
	古澤　泉
	堀江真理子
	三浦章宏
音楽表現研究 Ⅱ	池田直樹
	斉田正子
	田代幸弘
	萩原貴子
	楊　麗貞
	稲川榮一
	四戸世紀
	佐々木　伸
	髙木雄司
	堀江真理子
	三浦章宏
	守山光三
音楽作品研究	今泉　久
	丹羽勝海
	上原興隆
指揮研究 ※	
C　関連領域部門	
芸術学特論	鷲見洋一
	前田富士男
	村山匡一郎
リサーチ特殊研究 Ⅰ	鈴木保彦
リサーチ特殊研究 Ⅱ	松本　洸
造形特論	栄久庵祥二
	大西若人
映像特論	小笠原隆夫
映像構成特論	仲倉重郎
	月岡貞夫
映像音響特論	橋本勝次
放送史特論	上滝徹也
演劇史特論	織田紘二
舞踊史特論	丸茂祐佳
	貫　成人
民俗芸能特論	宮尾慈良
日本美術史特論 Ⅰ	大熊敏之
	金子啓明
日本美術史特論 Ⅱ	大熊敏之
	金子啓明
西洋美術史特論 Ⅰ	木村三郎
	髙橋幸次
西洋美術史特論 Ⅱ	木村三郎
	髙橋幸次
文芸史特論	立石弘道
哲学特論	藤田一美
音楽文献原典購読	北岡晃子
D　連携研究部門	
連携理論研究 Ⅰ	
連携理論研究 Ⅱ	
連携表現研究 Ⅰ	
連携表現研究 Ⅱ	
学位論文・作品・制作	

音楽小ホール

音楽芸術専攻は、芸術学部の各領域の歴史的な蓄積による芸術性を根幹に据えながら、音楽の持つ芸術的本質および心理的側面を科学的に把握し、より高度な音楽的感性と技法の向上を目指します。同時に、理論的な研究を行うことを主眼として、多様化する社会的要求にも柔軟に対応できる人材の育成を目的としています。

※は平成29年度開講せず

Performing Arts Course

舞台芸術を学び、創造力を育成する。

【舞台芸術専攻　教育研究上の目的】
演劇の実践教育及びその芸術表現を基盤に，戯曲，演出，舞台美術の空間表現と，演技，舞踊など身体表現の教育研究を主眼とする。ことに，映像メディアを活用した身体表現や創作実験の場の提供による表現など創造的研究を行う。従来の西洋演劇を中心にした学問体系のみならず日本の伝統芸能，民族芸術等を基盤として，これらの歴史研究，調査研究を実施し，高度な専門知識と実践的能力を有する人材を養成する。

舞台芸術専攻

The field of "performing arts" covers every artistic form using the human body as a medium of expression. This major gives students opportunities to learn the practical methods of, and to research, dramatic literature, directing, stage design, ethnic/folk performances, and the educational / therapeutic use of the performing arts. It is powerful, authentic expression from the heart that moves people and deepens research. This major welcomes students with brave, frontier spirits.

舞台芸術におけるより高度な研究には、固定概念に捉われず常に社会を観察する洞察力が必要です。先人たちが何を理想とし、また何を創造してきたのか、内外の歴史を知りそれを広く自らの研究領域に活用しなければなりません。言わば「温故知新」の姿勢が必要です。確固たる理論の研究や歴史への理解に加え、常に開拓者の精神で望む創造への挑戦は、理論研究であれ、それに基づく実践的研究であっても本質的に何も違いはありません。社会のニーズにあった研究者の育成はもちろん、専攻での研究成果を活かした様々なシーンで活躍できる優れた表現者の育成も行っています。

舞台芸術における、高度な理論および創造の研究・教育を目標に置いた授業を行っています。

授業科目	授業担当
A　理論・歴史部門	
舞台芸術特論	丸茂祐佳
演劇史特論	織田紘二
舞踊史特論	丸茂祐佳 貫　成人
民俗芸能特論	宮尾慈良
古典劇特論	小田幸子
応用演劇特論 ※	
アート・マネージメント特論	戸田宗宏
B　演習・実習部門	
舞台表現研究	藤崎周平 加藤みや子
舞踊特殊研究	丸茂祐佳 范　旅
戯曲特殊研究	穴澤万里子
舞台演出特殊研究	神永光規 藤崎周平
舞台美術特殊研究	大久保惠児 千早正美
古典演劇特殊研究	原　一平
民俗芸能特殊研究	小林直弥
応用演劇特殊研究 ※	
C　関連領域部門	
芸術学特論	鷲見洋一 前田富士男 村山匡一郎
リサーチ特殊研究Ⅰ	鈴木保彦
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本　洸
メディア論	此経啓助 松本　洸
映像特論	小笠原隆夫
造形特論	栄久庵祥二 大西若人
音楽芸術特論Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	平野　昭
映画史特論	村山匡一郎 田島良一
放送史特論	上滝徹也
映像音響特論	橋本勝次
音楽心理学特論	土野研治
演劇文献原典購読	植月惠一郎
D　連携研究部門	
連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品・制作	

※は平成29年度開講せず

The Arts Course

芸術専攻

研究心は、さらに高度な芸術を求める。

【芸術専攻　教育研究上の目的】
近年の芸術は，異なった分野・領域の芸術が，先端的なメディア等を介在しながらクロスし，さらに密接な関係が成立している。専門の分野をより深く研究することを目的としつつ，どの分野からでも自らの研究に必要な他分野も研究し，新たな表現と理論の開発にも有効に機能するよう，芸術の学問と創作研究を確立し，自立した研究活動と高度な専門的活動に従事するに必要な高度な表現研究能力と豊かな学識を持った人材を養成する。

In recent artistic circumstances, fields of art have expanded beyond their traditional domains and are closely related through advanced media. The five master courses (Literary Arts, Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts and Performing Arts) are united into one doctoral course. Students are able to study more specialized fields and interrelated fields as necessary. In the doctoral course students are encouraged to develop new artistic expression and theories. This course also offers working people the chance to study for doctoral degrees based on Act fourteen of the special law for the establishment of the graduate school. Working people can study during the day or in the late evening. Graduates from the master courses and doctoral course are engaged in educational and research institutions. Some of them continue their research in highly specialized fields, and others develop new fields.

近年の芸術環境は、異なった分野・領域の芸術が、先端的なメディア等を介在させながらクロスオーバーしており、互いに密接な関係を結んでいます。博士後期課程の専攻を1専攻とし、博士前期課程の文芸学専攻、映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の5専攻を総合化したのは、そういった現代の芸術環境があってのことです。そして、それは自らの専門分野の探究を目的としながら、他分野の研究を視野に入れて、新たな創造理論を構築する場として機能しています。社会人の入学枠を設け（大学院設置基準第14条による教育方法の特例）、昼夜開講制を取り入れたことも大きな特色です。
すでに博士前期または修士課程を修了し、教育・研究機関や企業に従事しながら、より高度な芸術の専門領域について研究を継続したり、フィールドを越えて新たな芸術研究に取り組もうとする新進の研究者への門戸がここに開かれています。

授業科目	授業担当
A　理論・歴史研究領域	
芸術学特殊研究	鷲見洋一
	藤田一美
映像理論特殊研究	古賀　太
	村山匡一郎
写真史特殊研究	高橋則英
	小泉定弘
映画史特殊研究	田島良一
	小笠原隆夫
写真技術特殊研究 ※	
映像技術特殊研究	上倉　泉
	玉木則順
	山田顕喜
造形理論特殊研究	髙橋幸次
	小林昭世
	西川　潔
	山中敏正
美術史特殊研究	木村三郎
	大熊敏之
	前田富士男
デザイン史特殊研究	栄久庵祥二
文芸理論特殊研究	上田　薫
	植月惠一郎
	堀　邦維
	山内　淳
文芸史特殊研究	石﨑　等
舞台芸術理論特殊研究 ※	
演劇史特殊研究 ※	
メディア・コミュニケーション特殊研究	此経啓助
	松本　洸
	横川眞顕
音楽理論特殊研究	土野研治
	赤澤立三
	平野　昭
	綿村松輝
音楽史特殊研究	笠羽映子
芸術教育特殊研究	鈴木保彦
	澤崎眞彦
	寺脇　研
B　表現研究領域	
映像表現特別研究	奥野邦利
	齊藤裕人
	鳥山正晴
	松島哲也
	鈴木康弘
	中町綾子
	野田慶人
	上滝徹也
	広沢文則
造形表現特別研究	大槻孝之
	鞍掛純一
	木村政司
	熊谷廣己
	桑原淳司
	肥田不二夫
	森　香織
	中島安貴輝
	深谷基弘
文芸表現特別研究	佐藤洋二郎
	楊　逸
	中村文昭
	尾高修也
	立石弘道
舞台表現特別研究	藤崎周平
音楽表現特別研究	萩原貴子
	楊　麗貞
	板倉駿夫
	稲川榮一
	峰村澄子
C　特定研究領域	
芸術研究特別演習	上田　薫
	植月惠一郎
	佐藤洋二郎
	清水　正
	堀　邦維
	山本雅男
	楊　逸
	浅井　譲
	鈴木孝史
	西垣仁美
	奥野邦利
	上倉　泉
	齊藤裕人
	田島良一
	古賀　太
	玉木則順
	鳥山正晴
	松島哲也
	宮沢誠一
	鈴木康弘
	兼高聖雄
	中町綾子
	大槻孝之
	鞍掛純一
	大庭英治
	髙橋幸次
	木村政司
	熊谷廣己
	森　香織
	肥田不二夫
	池田直樹
	伊藤弘之
	川上　央
	斉田正子
	田代幸弘
	土野研治
	萩原貴子
	千早正美
	原　一平
	藤崎周平
学位論文	

※は平成29年度開講せず

Literary Arts

青木敬士　専任

生年月日
昭和45年8月15日生

略歴
平成05年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成11年04月
日本大学芸術学部文芸学科助手
平成17年04月
日本大学芸術学部文芸学科専任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部文芸学科准教授
平成29年04月
日本大学芸術学部文芸学科教授

研究領域
メディア芸術論・SF小説論：印刷された「紙面」と表示される「画面」の二面においてテキスト表現の進化を研究している。また、人工音声合成技術が肉体のしくみに依拠しない声を発するにもかかわらず、人がそこにキャラクターを感じてしまう現象を可視化する創作も行う。人類が自らを含む環境を把握するために、環境から切り離すことができた最初のテクノロジーを「文字」とするならば、ボーカロイド等の人工音声文化の広がりは、一見「声の文化」的な姿をみせつつも「文字の文化」の本質を具象化するものであり、今後の文学にSF的な世界観の広がりを付与することになると考えられる。その行く末を見据えた研究を続けている。

研究業績
「SF小説論講義――SFが現実に追い越されたって本当ですか」江古田文学会、2016年
「世界はゴミ箱の中に」現代図書、2005年
「アミドロイド～合成音声による「朗読」に架空の肉体を与える装置」芸術学部紀要創作編38

社会活動
江古田文学会常任理事
デジタルアーカイブ学会会員
人工知能学会会員

上田　薫　専任

生年月日
昭和39年04月07日生

略歴
昭和63年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成02年03月
日本大学芸術学部芸術研究所修了
平成03年04月
日本大学芸術学部文芸学科副手
平成07年04月
日本大学芸術学部文芸学科助手
平成10年04月
日本大学芸術学部文芸学科専任講師
平成17年04月
日本大学芸術学部文芸学科助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部文芸学科准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部文芸学科教授

研究領域
思想・哲学（アラン論、森有正論、一遍上人論）
ライフワークとしてのアラン研究を続けながら、森有正の「経験と体験」や、一遍上人の「遍歴」というテーマで研究している。

研究業績
著書
「布切れの思考―アラン哲学に倣いて―」
「感性の哲学　アラン」
「コギトへの思索―森有正論―」
共著
「一遍上人と遊行の旅」

社会活動
江古田文学会常任理事

植月惠一郎　専任

生年月日
昭和31年01月22日生

略歴
昭和54年03月
神戸大学理学部地球科学科卒業
昭和57年03月
千葉大学人文学部人文学科卒業
昭和60年03月
立教大学大学院文学研究科博士前期課程修了
昭和63年03月
学習院大学大学院博士後期課程満期退学
平成元年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成07年04月
日本大学芸術学部助教授
平成13年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
イギリス文学の自然文化誌を研究対象にしている。特にイギリス・ルネサンスからロマン派までの200年くらいの間に書かれた韻文を中心に、そこに描かれた自然観の変遷、庭園・楽園表象、動物・植物表象、エコロジカルな観念などを中心に分析している。文学ジャンルで言えば、牧歌、農耕詩、地誌詩なども含む。最近は児童文学も視野に入れて研究を進めている。キース・トマスの『人間と自然界―近代イギリスにおける自然観の変遷』を超えることが目標である。

研究業績
『博物誌の文化学―動物篇』共著、弓プレス、2003年。
『英文学のディスコース』共著、北星堂、2004年。
『農耕詩の諸変奏』共著、英宝社、2008年。
『文学と歴史の曲がり角』共著、英光社、2014年。
『ロマン主義エコロジーの詩学』共著、鶴見書店、2015年。

社会活動
イギリス・ロマン派学会理事
欧米言語文化学会会長
所沢市図書館協議会委員

佐藤洋二郎（佐藤洋二）　専任

生年月日
昭和24年06月28日生

略歴
昭和49年03月
中央大学経済学部国際経済学科卒業
平成10年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成14年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
人間だけが持つ多様な思考と複雑な感情を文章でとらえるのが文学だと思っている。また、人間の一生は孤独を癒す作業ではないかとも考えている。その人間の生きていく孤独や哀しみをテーマに小説作品を発表しつづけている。学部では「文芸創作論」や「私小説論」を教えているが、大学院では教えることよりも育てることに重点をおき、どういうふうに小説を書くかの技術を伝えたい。

研究業績
「夏至祭」　講談社　野間文芸新人賞受賞
「岬の蛍」　集英社　芸術選奨文部大臣新人賞受賞
「イギリス山」　集英社　木山捷平文学賞受賞
「猫の喪中」　集英社　芥川賞候補
「ミセス順」　文藝春秋社
「未完成の反情」　講談社
「妻籠め」　小学館

社会活動
日本文芸家協会常務理事
日本近代文学館常務理事
日中文化交流会常任理事
大仏次郎研究会会員
文芸誌「季刊文科」編集委員
日大文芸賞選考委員
日大付属高等学校コンクール審査委員
舟橋聖一文学賞及び青年文学賞選考委員

清水　正　専任

生年月日
昭和24年02月08日生

略歴
昭和46年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
昭和55年04月
日本大学芸術学部助手
昭和57年03月
日本大学芸術学部専任講師
昭和63年04月
日本大学芸術学部助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
ドストエフスキーの全作品、宮沢賢治の童話作品を研究、批評してきた。近年はつげ義春、浦沢直樹、望月峯太郎、業田良家、白土三平、日野日出志などの漫画作品に関する批評、また北野武、今村昌平、宮崎駿などの映画作品に関する批評、暗黒舞踏家土方巽についての批評、グリム童話や阿部定に関する批評も展開してきた。最近興味をもっている日本の作家に遠藤周作・志賀直哉・萩原朔太郎・椎名麟三、林芙美子などがいる。これらの作家をドストエフスキーとの比較において論じている。

研究業績
「清水正・ドストエフスキー論全集」Ｄ文学研究会
「つげ義春を読む」現代書館
「宮沢賢治とドストエフスキー」創樹社
「今村昌平を読む」鳥影社
「ウラ読みドストエフスキー」清流出版

社会活動
Ｄ文学研究会主宰
日本文芸家協会会員

堀　邦維　専任

生年月日
昭和29年07月13日

略歴
昭和55年03月
早稲田大学第一文学部英文学科卒業
昭和57年03月
早稲田大学文学研究科英文学専攻修士課程修了
昭和61年03月
早稲田大学文学研究科英文学専攻博士課程満期退学
昭和63年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
西洋文学・現代ユダヤ文化
現代の欧米文学全般を広く研究。ここ15年ほどはユダヤ系知識人を中心に近現代文化の変遷を追う。その傍ら、比較文学の視点から戦後日本文学を研究している。

研究業績
『ユダヤ人と大衆文化』（単著）ゆまに書房
『ニューヨーク知識人――ユダヤ的知性とアメリカ文化』（単著）彩流社
『マージナリア――隠れた文学／隠された文学』（共著）鶴見書店
『ノルベルト・エリアスと21世紀』（共著）成文堂
『現代の英米作家100人』（共編著）鷹書房弓プレス

社会活動
米国言語学会（MLA）会員
比較思想学会会員
日本ユダヤ学会会員
三田文学会会員

山内　淳　専任

生年月日
昭和26年10月29日生

略歴
昭和51年03月
早稲田大学第一文学部仏文科卒業
昭和60年12月
ディジョン大学（現ブルゴーニュ大学）文学部大学院博士課程修了（文学博士号取得）
昭和63年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
長い間フランスは、自らのアイデンティティをローマに求めてきたが、一方ではケルトの民としての伝統は途切れることなく受け継がれてきた。たとえばトリスタンとイズー、アーサー王、蛇姫メリュジーヌなどをはじめとするケルト系の伝説は、シャトーブリアン、ノディエ、ネルヴァルなどのロマン派をはじめ、20世紀のプルースト、ブルトン、グラックなどを深く魅了した。現代に続くケルトの精神を、フランス人作家の作品の中に見ていきたい。

研究業績
Le Peuple chez Charles Nodier（Université de Dijon（Bourgogne））
啓蒙のユートピア（共訳）法政大学出版局
フランス民話　ブルターニュ幻想集（共訳）社会思想社
フランス怪奇民話集（共訳）社会思想社
二つのケルト　その個別性と普遍性（編著）世界思想社

社会活動
日本フランス語フランス文学会
日本フランス語教育学会
日本18世紀学会
比較文明学会

Literary Arts

山下聖美 専任

生年月日
昭和47年08月26日生

略歴
平成07年03月
日本女子大学文学部英文学科卒業
平成12年04月
日本大学芸術学部文芸学科副手
平成13年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了。博士（芸術学）取得
平成14年04月
日本大学芸術学部文芸学科助手
平成19年04月
日本大学芸術学部文芸学科専任講師
平成23年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
・宮沢賢治、夏目漱石を中心とした日本近代文学
・林芙美子、樋口一葉、平塚らいてう、尾崎翠、野上弥生子、群ようこなどを中心とした近現女性作家研究
・文学における共感覚
特に最近は林芙美子の研究に専念している。

研究業績
『女脳文学特講　芙美子・翠・晶子・らいてう・野枝・弥生子・みすゞ』　三省堂
『新書で入門　宮沢賢治のちから』　新潮新書
『賢治文学「呪い」の構造』　三修社
『一〇〇年の坊っちゃん』　D文学研究会
『検証・宮沢賢治の詩(2)』鳥影社
『宮沢賢治を読む』　D文学研究会

社会活動
日本近代文学会会員

山本雅男 専任

生年月日
昭和25年07月25日生

略歴
昭和49年03月
中央大学文学部哲学科卒業
昭和51年03月
日本大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和55年03月
日本大学大学院文学研究科博士課程満期退学
昭和55年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成06年04月
静岡県立大学国際関係学部助教授（大学院兼任）
平成09年10月
日本大学芸術学部助教授
平成14年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現代のイギリス社会や文化の核心部分は18世紀に形づくられたと考えられる。とりわけ社会生活や文化活動の末端にまで浸透している階級性の端緒を、当時のジェントルマン層の動向に焦点を当てつつイギリス文化の全体像を見通そうとしている。
文化の現象と基層を貫く基本的構造の分析が当面の課題である。近代文化の批判的考察を通し、文化基礎論の構築を目指す新たな視点を模索中である。

研究業績
『ヨーロッパ「近代」の終焉』　講談社
『ダービー卿のイギリス』　PHP研究所
『競馬の文化誌』　松柏社
『近代文化の終焉』　彩流社
『イギリス文化と近代競馬』　彩流社
『倫敦路地裏犯科帖』（翻訳）　東洋書林
『英国競馬事典』（編訳）　競馬国際交流協会

社会活動
日本シェイクスピア協会会員
日本スポーツ社会学会会員
日本ウマ科学会会員
（社）日英協会会員
日本文藝家協会会員
日本中央競馬会委員会委員
（公財）競馬国際交流協会評議員

楊　逸（百木逸楊） 専任

生年月日
昭和39年06月18日生

略歴
平成07年03月
お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業
平成21年04月
関東学院大学文学部客員教授
平成24年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成27年04月
日本大学芸術学部特任教授
平成28年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
創作・日中比較文学
言語と生活習慣などによる「異」は、価値感や思想にどう影響を与え、またどう表現されるべきかについて研究し、異文化を一つのディテールとして創作活動をしている。授業では「外向けの目」を重視して指導している。

研究領域
「ワンちゃん」　文藝春秋社　文学界新人賞受賞
「時が滲む朝」　文藝春秋社　芥川賞受賞
「孔子さまへの進言」　文藝春秋社
「楊逸が読む『聊斎志異』」　明治書院
「すき・やき」　新潮社
「流転の魔女」　文藝春秋社
「蚕食鯨呑」　岩波書店
「エーゲ海に強がりな月が」　潮出版社

社会活動
日本ペンクラブ会員
日本文芸家協会会員
お茶の水地理学会会員
潮アジア・太平洋ノンフィクション賞選考委員
江古田文学賞選考委員

久保陽子 専任

生年月日
昭和48年07月07日

略歴
平成08年03月
学習院大学文学部英米文学科 卒業
平成10年03月
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士前期課程 修了
平成13年03月
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士後期課程単位取得満期退学
平成13年04月
東京理科大学 非常勤講師
平成14年04月
中央大学 兼任講師
平成17年04月
学習院大学文学部英米文学科 助教
平成20年04月
日本大学芸術学部 准教授

研究領域
イギリスとアイルランドの文学・文化。主に18世紀以降の女性たちの執筆活動や教育活動、芸術的関わりを含む社会活動について研究。ジェイン・オースティンを始めとするイギリスの家庭小説や結婚を描いた作品、フランス革命に影響を受けたジャコバン派の女性作家の作品、カントリー・ハウスでの地主の生活を描いた作品など。フェミニズムやジェンダー思想、及びアイルランド表象の様々な形を芸術作品に読み込むことを試みている。

研究業績
『ジェイン・オースティン研究の今　同時代のテクストも視野に入れて』（共著）、彩流社、2017年。
『イギリスを知るための50章』（コラム執筆）、明石書店、2016年。
『イギリスの今　文化的アイデンティティ［第四版］』（共訳）、世界思想社、2013年。
『ヘルメスたちの饗宴　英語英米文学論文集』（共著）、音羽書房鶴見書店、2012年。
『二つのケルト　その個別性と普遍性』（共著）、世界思想社、2011年。

社会活動
イアシル・ジャパン（国際アイルランド文学協会日本支部）運営委員
日本アイルランド協会 会員
日本オースティン協会 会員

須藤温子（香田温子）　専任

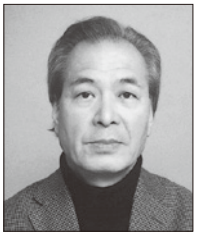
生年月日
昭和47年12月09日生

略歴
平成08年03月
千葉大学文学部文学科独語独文学専攻卒業
平成09年10月
文部省留学推進制度にてゲッチンゲン大学ドイツ文献学科（ドイツ）留学
平成12年04月
日本学術振興会特別研究員DC2（千葉大学）
平成14年10月
ドイツ学術交流会奨学金制度にてボーフム大学ドイツ言語文化研究所（ドイツ）留学
平成17年03月
千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程修了（博士（文学））
平成17年04月
日本学術振興会特別研究員PD（東京大学）
平成22年04月
立教大学専任講師
平成23年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
表象文化論・文学理論、精神分析、比較文学。主にヨーロッパにおける視覚的イメージの変遷、シンボル、表象と文学テキストとの関連に注目し、研究と教育を行う。専門領域は、20世紀のドイツ語圏ユダヤ人作家エリアス・カネッティとヴェーザ・カネッティの文学と思想の研究および翻訳。

研究業績
Figuren des Transgressiven - das Ende und der Gast.（共著）iudicium（2009）
Übersetzung - Umformungsprozesse in/von Texten, Medien, Kulturen.（共著）Königshausen & Neumann（2010）
『ドイツ語の時間――読解編〈読めると楽しい！〉』（共著）朝日出版社（2011）
『エリアス・カネッティ伝記』上・下巻（共訳）SUP上智大学出版（2013）
『ウィーン1945-1966　オーストリア文学の「悪霊」たち』（共著）日本独文学会（2016）

社会活動
日本独文学会会員
日本オーストリア文学会会員
桜門ドイツ文学会理事



石﨑　等　非常勤

生年月日
昭和16年01月12日生

略歴
昭和44年03月
早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了
昭和48年03月
早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程満期退学
昭和58年10月
跡見学園短期大学教授
平成元年04月
立教大学文学部教授（～平成18年03月）
現在、立教大学名誉教授

研究領域
夏目漱石とその門下生を中心に、近・現代文学および文化を幅広く研究する。最近は、植民地文学やマイノリティ文学の領域についても関心を抱き、東アジアへの関わりを示した明治以降の文学テクストについて、〈戦争〉〈植民地〉〈他者〉〈異境〉〈移動〉〈報道〉〈検閲〉などの観点から読み解く作業をしている。

研究業績
「夏目漱石遺墨集第1巻〈書蹟篇〉」（共著）　求龍堂
「漱石の方法」　有精堂
「夏目漱石　テクストの深層」　小沢書店
「夏目漱石博物館　絵で読む漱石の明治」（共著）　彰国社
DVD版「夏目漱石」　監修　紀伊國屋書店

社会活動
日本近代文学館評議員
日本近代文学会会員

此経啓助　非常勤

生年月日
昭和17年07月02日生

略歴
昭和41年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
昭和45年04月
日本大学芸術学部助手
昭和51年08月
インド国ビハール州立マガダ大学大学院講師
昭和60年05月
宗教考現学研究所所長
平成13年04月
日本大学芸術学部文芸学科非常勤講師
平成15年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
ジャーナリズム研究。とくにジャーナリズムの現場である「いま・ここ」の研究方法をさぐる。そのために、今和次郎の「考現学」と葬式や墓参りなどの「生活仏教」で用いられている民間学の方法論を重点におき、前者ではその方法論の研究を、後者では具体的な事例の採集を実践している。目的は「いま・ここ」における事件性や個別性を客観的に記述することである。

研究業績
学術論文
「明治時代の葬列とその社会的象徴性」
日本大学芸術学部紀要第40号
「明治時代の文化政策と宗教政策」
日本大学芸術学部紀要第41号
「神道式墳墓とは何か」（一）～（十四）
日本大学芸術学部紀要第42号～55号
出版
『明治人のお葬式』
現代書館発行
『日本人のお墓』（共著）
日本石材産業協会発行

立石弘道　非常勤

生年月日
昭和16年07月04日生

略歴
昭和40年03月
東北大学文学部英文学科卒業
昭和45年03月
慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和46年04月
日本医科大学専任講師
昭和50年～52年
ケンブリッジ大学大学院（クレア・ホール）
同大学東洋学科日本語スーパーバイザー（講師）
昭和55年04月
日本医科大学助教授
昭和63年04月
日本大学芸術学部教授
平成23年7月
日本大学定年退職

研究領域
D.H.ロレンスを中心にした現代イギリス文学、比較文化・文学を文学理論をもとにして研究。トポス（空間）という概念をキーワードにして英・米・日本の文化・文学を広い視点で研究。

研究業績
『現代イギリス文学と場所の移動』（共編著）2010
『D.H.ロレンスとアメリカ／帝国』（共編著）慶応義塾大学出版会 2008
『階級社会の変貌』（共編著）金星堂 2006
"D.H.Lawrence: Literature Culture, History"（英文編著）国書刊行会 2005
『D.H.ロレンスと新理論』（編著）国書刊行会 1999
『現代イギリス文学と同性愛』（共著）金星堂 1996
『D.H.ロレンスと現代』国書刊行会 1995
『D.H.ロレンス「狐」とテクスト』国書刊行会 1994

社会活動
日本英文学会会員
日本ロレンス協会元会長・現顧問
国際D.H.ロレンス学会会長（第9回）
北米ロレンス協会会員
20世紀英文学研究会会員（元会長）
ケンブリッジ大学クレア・ホール日本同窓会会長

Literary Arts

中村文昭 非常勤

生年月日
昭和19年12月18日生

略歴
昭和42年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和62年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成04年04月
日本大学芸術学部助教授
平成10年04月
日本大学芸術学部教授
平成27年01月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
近代詩と言葉（カラダ）の関係を探る。これは、必然的に日本語（国語）が歴史的に蓄積してきた表現能力と価値を根本から検討することである。１世紀頃、文字をもたなかった日本語に中国大陸から漢字とその文化が入ってきた。悪戦苦闘の果てに、日本語（国語）は12世紀頃、「漢字まじり仮名文」という日本語（国語）の不動の文体をつくりあげた。この文体が、明治以後から大正・昭和という流れの中で、いかに文学的な成熟をとげたかを問う。

研究業績
「現代詩研究」第１巻明治篇・第２巻大正篇・第３巻昭和篇・第４巻現代篇　ノーサイド企画室
「舞踏の水際」　思潮社
「童話の宮沢賢治」　洋々社
「中原中也の経験」　冬樹社
「「土方巽」研究序説」　ノーサイド企画室

社会活動
江古田詩人会）（えこし会）主宰
「歴程」同人
日本ペンクラブ会員
日本文芸家協会会員
江古田文学会理事

唐須教光 非常勤

生年月日
昭和17年04月30日生

略歴
昭和40年03月31日
慶應義塾大学文学部哲学科卒業
昭和44年03月31日
東京大学教養学部教養学科卒業
昭和47年06月01日
ブラウン大学大学院修士課程修了
昭和49年04月01日
イェール大学大学院博士課程修了
昭和49年04月01日
聖心女子大学文学部客員講師
昭和51年04月01日
玉川大学文学部専任講師
昭和52年03月01日
広島大学総合科学部専任講師
昭和55年04月01日
慶應義塾大学文学部助教授
昭和60年04月01日
慶應義塾大学文学部教授
平成20年04月01日
日本大学芸術学部教授

研究領域
意味論、社会言語学、言語人類学、記号論、具体的には、認知意味論的視点からみた、語の多義性、バイリンガリズム、言語の起源を中心とした言語人類学、文化や芸術の記号論に関心を持っています。

研究業績
『文化記号論への招待』（共）講談社学術文庫 1983
『文化への言語学』頸草書房　1988
『バイリンガルの子供達』丸善　1992
『言語学Ⅱ』（編著）研究社　2001
『何故こどもの英語なのか』NHKブックス 2003
『英語と文化』慶応出版　2006
『開放系言語学への招待』（編著）慶應出版 2009

社会活動
地球ことば村顧問
日本英語学会会員
日本記号論学会会員
日本言語学会会員
三田哲学会会員

野村康治 非常勤

生年月日
昭和41年03月28日生

略歴
昭和63年03月
日本大学文理学部心理学科卒業
平成02年03月
日本大学大学院文学研究科博士前期課程修了
平成08年03月
日本大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
平成09年04月
日本大学文理学部助手
平成13年04月
日本大学文理学部非常勤講師
平成22年09月
沖縄県立芸術大学非常勤講師
平成27年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成29年04月
松蔭大学講師

研究領域
認知心理学ならびに感覚・知覚心理学的なアプローチにより主に映像表現に関する研究を専門とする。アマチュアの写真撮影に関する実態と意識調査、アニメーションに関する印象評定調査などを行ってきた。現在は映像に限らず、広く芸術表現に関する心理学的諸問題に関心を持っている。

研究業績
著書
「アニメーションの事典」（共著）朝倉書店
（「アニメーションの発達心理学（2）子供向けアニメーション」，「友情と恋愛のアニメーション」，「アニメーションにおける「動き」表現の検討」執筆担当）
論文
「ビデオ撮影時における時間評価」心理学研究　第68巻第３号
「写真撮影時の記憶について－静物を被写体として－」（共著）日本大学心理学研究　第23号
「アニメーションにおける「歩き」表現の検討」（共著）アニメーション研究　第６巻第１号

社会活動
日本アニメーション学会理事

藤田一美 非常勤

生年月日
昭和19年07月20日生

略歴
昭和43年03月
東京大学法学部政治学科卒業
昭和47年03月
東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退
昭和47年04月
東京大学文学部助手（美学）
昭和49年04月
南山大学文学部講師（哲学）
昭和53年04月
南山大学文学部助教授（哲学）
昭和55年10月
東京大学文学部助教授（美学）
平成03年12月～平成19年03月
東京大学文学部教授（美学）

研究領域
西洋古典古代から現代に及ぶ哲学・美学、中国古代から宋代にかけての経学・詩論、日本の歌論・能楽論・俳論、明治初期啓蒙思想（特に西周）。方法的には、東西の思想を、世界学と人間学の双方を包括する動的な全体としての〈存在〉の解釈という観点から、認識論、存在論、価値論、芸術論（とくに文芸論）を相関させてゆく。

研究業績
＊藝術の存在論、多賀出版、1995年
＊存在論としての価値論１-３、科学研究費報告、美学藝術学研究13，14号，'95-'96年
＊カロカガティア系譜考１-２、美学藝術学研究20，21号，'02-'03年
＊啓蒙思想における〈為国家之用〉の論理、美学藝術学研究22，23号，'05-'06年
＊詩論の系譜、美学藝術学研究24号，'07年
＊詩作術の正当性と詩学の位置
ギリシア哲学セミナー2010
＊ニーチェの「他様にも解釈されうる」について、藝文攷2012
＊ディオニュソス的なるものの変貌ー藝術衝動から哲学概念へ（一）（二）、藝文攷2013，2014
＊存在と意味をめぐってー美的現象としての世界の是認、哲学132号、2014年

社会活動
哲学会、美学会、西洋古典学会、現象学会等会員、学術振興会専門委員、福祉活動従事

松本　洸　非常勤

生年月日
昭和22年01月16日生

略歴
昭和44年03月
日本大学文理学部心理学科卒業
昭和46年03月
日本大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和49年03月
日本大学大学院文学研究科博士課程満期退学
昭和49年04月
社団法人社会開発統計研究所主任研究員
昭和52年08月
日本大学芸術学部専任講師
平成02年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
クオリティ・オブ・ライフ（QOL）における指標化が主要なテーマである。心理学研究法、環境心理学が専門分野であるため、芸術作品の印象測定、癒しの心理尺度化などに取りくんでいる。これまでの研究領域として環境心理学サイドからの住民意識と自治体行政との関連分析を長く研究していたため、社会調査法、コミュニケーション論などへのアプローチも行なっている。

研究業績
「社会開発政策」（共著）青林書院新社
「老年心理学」（共著）朝倉書店
「クオリティ・オブ・ライフ」（編著）福村出版
「人間関係と生徒指導」（共著）学術図書出版
「発達と学習」（共著）八千代出版
「応用心理学事典」（『映像コミュニケーション』、『ロハス』項目執筆）丸善

社会活動
日本心理学会会員
日本応用心理学会会員
日本老年社会科学会会員（論文査読委員）
日本芸術療法学会会員
臨床心理士

三宅理一　非常勤

生年月日
昭和23年12月23日

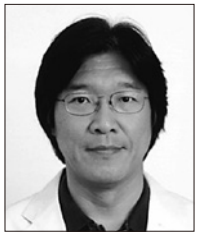
略歴
昭和47年05月
東京大学工学部建築学科卒業
昭和49年03月
東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
昭和54年12月
パリ・エコール・デ・ポザール卒業
昭和56年03月
東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
（工学博士）
平成02年04月
芝浦工業大学工学部教授
平成11年09月
慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授
平成20年10月
パリ国立工芸院教授
平成24年04月
藤女子大学副学長
平成29年04月
東京理科大学客員教授

研究領域
建築史・地域計画・デザイン理論
建築デザインの美学を中心とした芸術理論が専門である。主に西洋の環境デザインが中心であるが、西洋から日本、そして中東と世界的な規模で、社会・環境・都市の中における芸術表現を研究している。

研究業績
「世紀末建築」（全6巻）講談社
「エピキュリアンたちの首都」学藝書林
「都市と建築コンペティション」（全7巻）講談社
「次世代街区への提案」鹿島出版会
「秋葉原は今」芸術新聞社
「パリのグランド・デザイン」中央公論新社
「限界デザイン」TOTO出版

社会活動
日仏工業技術会学務理事
瀋陽市栄誉市民
日本エチオピア協会理事
日本建築学会建築博物館幹事
日本建築文科保存協会理事

Image Arts



浅井　譲　専任

生年月日
昭和31年11月02日生

略歴
1980年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
1980年04月
(株)ポーラ化粧品入社　宣伝部制作室フォトグラファー
1995年10月
(株)ポーラ化粧品　宣伝部制作アートディレクター(フォトグラファー兼務)
2002年04月
日本大学芸術学部写真学科　非常勤講師
2004年01月
ポーラ化成工業(株)デザイン研究所　転籍
2004年03月
ポーラ化成工業(株)デザイン研究所　退社
2004年04月
日本大学芸術学部写真学科　助教授
2007年04月
日本大学芸術学部写真学科　准教授(呼称変更)
2009年04月
日本大学芸術学部写真学科　教授

研究領域
写真表現研究・広告写真研究

研究業績
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へ
銀座コダックフォトサロン2004·5/26～6/1
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へ―Ⅱ
銀座コダックフォトサロン2007·6/6～12
・浅井譲写真展
「take a picture」愉しむ写真へ
富士フィルムフォトサロン(東京)
2011・4/22-/28
・Jing展(共同)
桜・夏・いろ色・特別展　年3～4回
Space Jing(渋谷・神宮前)2015·3～
・日本大学芸術学部紀要〈創作篇〉29～33号・35号～39号・41号

社会活動
公益社団法人日本広告写真家協会　正会員
日本写真芸術学会

甲田謙一　専任

生年月日
昭和24年12月16日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和60年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
カラーデジタル写真技術研究
写真制作は技術的理解無しには語れない。20世紀末にピークを迎えた銀塩写真によるカラー写真を凌駕し、21世紀に本格化した若いデジタル写真の技術を中心に、写真技術及び画質の追求による、高度な写真作品制作を目標に置く。

研究業績
個展
「野の花・足もとの妖精たち」ミュゼオ・ピクトリコ
「野の花・足もとの妖精たち2」アイデムフォトギャラリー「シリウス」
出版
「デジタル写真学入門」電波新聞社
「デジタル写真の基礎」コロナ社
「Photoshop Elements で始めるデジタルカメラ写真入門」MDNコーポレーション
「ディジタル写真入門」コロナ社

社会活動
日本写真学会会員
日本写真芸術学会会員

佐藤英裕　専任

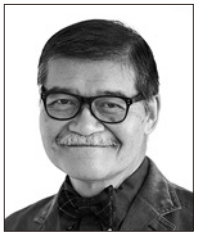
生年月日
昭和37年12月04日生

略歴
1985年03月
早稲田大学法学部卒業
1996年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了
1999年03月
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻満期退学
2000年04月
日本大学芸術学部写真学科助手
2004年04月
日本大学芸術学部写真学科専任講師
2008年04月
日本大学芸術学部写真学科准教授
2014年04月
日本大学芸術学部写真学科教授

研究領域
現代写真表現研究、及び写真の表現構造研究

研究業績
・写真に於ける視覚経験の構造に関する一考察　日本写真芸術学会誌第6巻第1号
・写真における作者の存在とその機能に関する一考察　日本写真芸術学会誌第10巻第2号
・写真表現における記憶の機能に関する一考察　日本写真芸術学会誌第17巻第1号
・現代写真作品表現にみる「リアル」と「オリジナル」の変容に関する一考察　日本写真芸術学会誌第21巻第1号
・写真史及び写真論におけるモダニズムとポストモダニズムの相違に関する一考察　日本写真芸術学会誌第22巻第1号

社会活動
日本写真芸術学会理事
日本映像学会会員



鈴木孝史　専任

生年月日
昭和25年10月23日生

略歴
昭和49年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和55年04月
日本大学芸術学部助手
昭和59年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成03年04月
日本大学芸術学部助教授
平成09年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
画像による表現のひとつである写真術の表現領域の拡大と従来の写真術の表現の可能性を作品制作・発表を通して研究している。研究分野は写真の特殊表現と呼ばれるものであるが、銀塩写真(黒白・カラーを問わず)だけではなくデジタル技術と様々なオルタナティヴプロセスも利用して作品制作をする。

研究業績
展覧会
「SUBWAY TERMINALS」
京セラコンタックスサロン銀座
「Takafumi Suzuki: PHOTOGRAPHS」
I SPACE, イリノイ大学シカゴギャラリー
「アーティストとともに25年」(共同)
池田20世紀美術館
「I AM PHOTO-GRAPHING」
京セラコンタックスサロン東京
「コンテンプレイション-黙想-」
ギャラリーストークス、東京
「Celebrating: Fine Art Photo Exhibit展」(共同)Ashok Jain Gallery, NYC

社会活動
国画会会員
日本写真芸術学会(理事)
日本映像学会会員
日本写真学会会員

高橋則英　専任

生年月日
昭和28年12月09日生

略歴
昭和53年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和61年04月
日本大学芸術学部助手
平成02年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助教授
平成14年04月
日本大学芸術学部教授
平成26年04月
東京大学史料編纂所画像史料解析センター共同研究員

研究領域
写真芸術学、写真史および画像保存。
19世紀の発明から今日へと至る歴史的経過の分析を通じて写真の芸術性を研究する。写真史は日本および欧米の写真史全般であるが、とくに幕末の導入期から明治における発展期に至る日本初期写真史に重点を置く。またコロジオン湿板法や鶏卵紙など、初期写真技法の復元再生の研究も実施。同時に記録や芸術作品として歴史的に貴重な写真画像を次世代に確実に継承するため、その保存方法や保存環境、修復などの研究を継続して行う。

研究業績
『文化財としてのガラス乾板－写真が紡ぎなおす歴史像』（編著）　勉誠出版、2017年
『写真技法と保存の知識　デジタル以前の写真－その誕生からカラーフィルムまで』（翻訳監修）　青幻舎、2017年
『レンズが撮らえた　日本人カメラマンの見た幕末明治』（編著）　山川出版社、2015年
『レンズが撮らえた　幕末の写真師　上野彦馬の世界』（共著）　山川出版社、2012年
「E・ブラウン・ジュニアのタゲレオタイプ」（研究論文）『日本写真芸術学会誌』、1998年
『写真の保存・展示・修復』（日本写真学会画像保存研究会編著）　武蔵野クリエイト、1996年

社会活動
日本写真芸術学会理事・副会長
日本写真学会代議員・画像保存研究会委員
日本写真家協会・写真保存センター調査委員

西垣仁美　専任

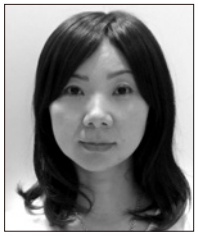
生年月日
昭和36年06月07日生

略歴
昭和59年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和61年03月
日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了
平成02年04月
日本大学芸術学部写真学科助手
平成07年04月
日本大学芸術学部写真学科専任講師
平成14年04月
日本大学芸術学部写真学科助教授（現 准教授）
平成21年04月
日本大学芸術学部写真学科教授

研究領域
近代および現代写真の写真思潮、表現研究。20世紀以降の写真作品の表現と作者の思想研究。過去の作品研究と同時に現代写真を日本の作家を中心に研究している。研究が主であるが創作活動も作家の心を考えるために続けている。

研究業績
〈学術論文〉
・建築家・山脇巌の写真に関する試論（日本大学芸術学部紀要第62号）
・マン・レイの写真作品における現代性の考察（日本写真芸術学会誌第17巻第2号）
〈評論〉
・「2016年写真の動向」11写真芸術
日本写真学会誌第80巻第3号（2005年～2017年毎年執筆）
〈報告〉
・写真表現の可能性－日本における21世紀初頭の現状分析からの予測的考察－（日本写真芸術学会誌第23巻第1号）
〈作品発表〉
・日本大学芸術学部写真学科女子卒業生有志の会 あじさい会写真展に出品（1984年～2017年）
・日本大学芸術学部紀要〈創作篇〉に発表（1987年～2017年）

社会活動
日本写真芸術学会理事
日本写真学会会員
日本映像学会会員



大谷尚子　専任

生年月日
昭和48年11月27日生

略歴
平成09年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成10年04月
日本大学芸術学部映画学科副手
平成15年04月
日本大学芸術学部映画学科非常勤講師
平成22年04月
日本大学芸術学部映画学科准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部映画学科教授

研究領域
映画演技。主に映像と演劇の演技の特徴、相違について俳優の視点から実践に基づき研究している。また、映画俳優論についての研究も行っている。さらには俳優にとって必要不可欠である発声、発音について、人体構造の仕組みに基づき、無理のない発声や発音、滑舌法の研究を行っている。

研究業績
「とことこ所沢探偵社」（ケーブルテレビメディアッティ所沢（現J:COM）太田ひばり役
「土井さんの不幸」（劇場用映画　女子女子over8）幸江役
「それぞれの立場　それぞれの気持ち　～職場で考えるダイバーシティと人権～」（東映教育ビデオ）岡真理子役
「即身仏を訪ねて一涅槃の考古学」ナレーション
トランス☆プロジェクト第6回公演「カミングアウト」出演
劇団おしゃれ大学第8回公演「リア王」ゴネリル役

社会活動
言語聴覚士（病院、福祉施設において言語指導）
日本言語聴覚士協会会員

奥野邦利　専任

生年月日
昭和44年04月18日生

略歴
平成05年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了
平成07年04月
日本大学芸術学部映画学科補助員
平成08年04月
日本大学芸術学部映画学科副手
平成10年04月
日本大学芸術学部映画学科非常勤講師
平成15年04月
日本大学芸術学部映画学科専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部映画学科准教授
平成23年04月
日本大学芸術学部映画学科教授

研究領域
メディアアートを中心とした映像表現
1960年代に登場したビデオアートが、現在のメディアアートへと拡大して行くプロセスに光を当て、エレクトロニクスとアートの関係、マスメディアとパーソナルメディアの関係、コンテクストと物語の関係などを探求している。創作としてはシングルチャンネルのビデオ作品の他、インスタレーションも手掛けており、近年はコンサートや演劇とのコラボレーションにも積極的にアプローチしている。

研究業績
評論
「ビル・ヴィオラ考一思考する映像一」日本大学芸術学部映画学科研究誌映像研究第26号
創作
オムニバス映画「見るということ」（共同監督）
山形国際ドキュメンタリー映画祭・企画上映（2009）
映像作品「喪失の記憶」（監督）
ブルックリン国際映画祭正式上映（2010）
実験映画・ビデオフェスティバル イン ソウル正式上映（2010）

社会活動
日本映像学会理事
日本アニメーション学会会員
日本映画テレビ技術協会会員

Image Arts

上倉　泉　専任

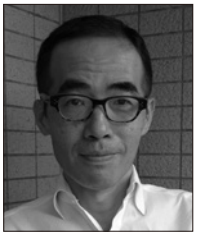
生年月日
昭和47年03月20日生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画技術、おもに映画の録音の研究。各国のエンジニアとディスカッションをしながら映画のアナログサウンドトラック、シアンダイトラックの研究を主に行い、さらに年間数十本の映像作品を制作している。

研究業績
「アナログシアンダイトラックの再生に関する諸問題」(映画テレビ技術誌)
「ふるさとをください」冨永憲治監督　ジェームス三木脚本　文部科学省選定映画　ステレオ／モノミックスミキサー
「喪失の記憶」　録音・ミキサー
「Pray for Japan Film」Stu Levy監督　ミキサー
「Little kyota Neon Hood」Satsuki Okawa監督　ミキサー
「旅するボール」Jリーグ20周年記念特別ショートフィルム　大川五月監督　ミキサー

社会活動
日本映画テレビ録音協会会員
日本映像学会会員
日本映画テレビ技術協会評議員
ISO(国際標準化機構)／TC36国内委員



古賀　太　専任

生年月日
昭和36年06月15日生

略歴
昭和61年03月
九州大学文学部仏文学科卒業
昭和62年03月
早稲田大学文学部大学院芸術学専攻修士課程中退
昭和62年04月－平成05年09月
国際交流基金勤務
平成05年10月－平成21年03月
朝日新聞社勤務(文化事業部企画委員及び文化部記者)
平成09年04月－平成16年03月
東京大学非常勤講師(表象文化論)
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画史の新たな読解をテーマとする。現在は、初期映画の図像学的解釈や海外における日本映画の評価の歴史、ヌーヴェルヴァーグなど海外の映画運動の日本での影響などを調査中。また映画興行や映画祭など映画上映のマネージメント面からの研究をサブテーマとする。

研究業績
主な著書
『映画伝来』(共著)岩波書店
『魔術師メリエス』(翻訳)フィルムアート社
『リュミエール元年』(共訳)筑摩書房
『日本映画史叢書(15)日本映画の誕生』(共著)森話社
そのほか、朝日新聞社において「ジャン・ルノワール、映画のすべて」「イタリア映画祭」「ドイツ時代のラングとムルナウ」など20以上の映画祭を企画・運営し、カタログを編集・執筆。また「朝日新聞」紙面に約150本の署名記事を書く。

社会活動
フランス政府より国家功労勲章シュヴァリエ(騎士)章
イタリア政府より「イタリアの星」勲章カヴァリエーレ(騎士)章

齊藤裕人　専任

生年月日
昭和40年12月25日生

略歴
平成02年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成07年04月
日本大学芸術学部助手
平成10年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程満期退学
平成10年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専門分野:映画演出・映画制作
物語の構成や画面構成、キャメラワークなどにおける映画演出の研究を主として、映画制作の創作的なあり方を研究テーマとしている。また、デジタル技術の発展などにより激変しているインディペンデント映画界の動向に注目しつつ、これからの映像制作法を考察することもテーマの一つである。

研究業績
「酒中日記」劇映画(編集)
「こころ豊かに」PRビデオ(構成・演出・編集)
「幸せの黄色い自転車」広報ビデオ(構成・演出・編集)
「星になったおじいちゃん」ビデオ作品(共同脚本・監督・編集)
「Gyration」ミュージッククリップ(ライブアクションディレクター)
「シネマ・ヨーロッパ#1～6」テレビ番組(日本語版監修)

社会活動
日本映像学会会員
美学会会員

田島良一　専任

生年月日
昭和25年05月15日生

略歴
昭和48年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和51年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
昭和55年04月
日本大学芸術学部助手
昭和59年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成03年04月
日本大学芸術学部助教授
平成09年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻は日本映画史。これまでは戦前の日本映画史の研究に重点を置いてきたが、現在は、映画経済アナリストとして活躍した石巻良夫の再評価に取り組んでいる。

研究業績
「世界映画大事典」日本図書センター(分担執筆)
「日本映画史叢書④時代劇伝説―チャンバラ映画の輝き」森話社(共著)
「日本映画史叢書⑮日本映画の誕生」森話社(共著)
「日本映画の海外進出―文化戦略の歴史」森話社(共著)

社会活動
日本映像学会会員
美学会会員

玉木則順　専任

生年月日
昭和37年07月20日生

略歴
昭和62年03月
京都教育大学教育学部特修理学科卒業
以後、中学校理科教員、プラネタリウム解説員、CG制作会社、ノンリニア編集機メーカー、海外映像機器の輸入代理店を経て、国内の撮影所、放送局、ポストプロダクションのデジタルシステムの構築に関わる
平成23年04月
日本大学芸術学部特任教授
平成23年09月
日本映画大学非常勤講師
平成26年04月
日本大学芸術学部任期制教授

研究領域
ポストプロダクションのデジタル技術全般
フィルムが作り上げた色彩表現の遺産をデジタル技術で引き継ぐとともに、その先の表現の可能性について、カラーマネージメント技術を基盤に人間の知覚特性（記憶色）に適合した手法を考察している

研究業績
東宝スタジオ　新ポストプロダクションセンター構築（映像＆ネットワーク担当）
REDカメラ・RAW現像ソフトウェア
「simple@post」プロトタイプ制作
「Avidでの24p編集と音処理」録音166号
「Avidでの24p編集ー最近の動向ー」録音170号

鳥山正晴　専任

生年月日
昭和36年05月14日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成03年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成12年04月
日本大学芸術学部助教授
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画を主とする映像作品の演出と研究、及びそれに関わるシナリオの創作。古今東西の映画作家たちの映画演出法の共通点を、作家と観客という枠組みの中でアプローチしている。また、映画を専攻しはじめた頃から実験映画／アヴァンギャルドムービーを研究し、それまでの資料等をもとに、それらを系統的に分類し、演出手法・内包するメッセージ等の研究をしている。

研究業績
シナリオ「もりもりぼっくん」
東映テレビ・フジテレビ放映
PRビデオ（19分）「モクネット21　二つ井」
構成脚本・演出
論文
「ジャン・ユスターシュの映画」
（日本大学芸術学部紀要第40号）
「映画少年はなぜ巨匠になり得たか？　～ピーター・ジャクソン論～」
（映像研究第33号）
「現代ファンタジー映画ストーリー考」
（日本大学芸術学部紀要第55号）
・Global Chinese Univ. Student Film and Television Festival（香港）審査員（2009年）
・2009 Taipei Country Film Festival, International Student Film Golden Lion Award（台湾）審査員（2009年）

社会活動
日本映像学会理事
日本映画テレビ技術協会員

松島哲也　専任

生年月日
昭和35年05月11日生

略歴
昭和57年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和57年04月
映画テレビ制作会社ティンダーボックス入社
平成05年03月
フリーとなり、映画、テレビドラマ、ドキュメンタリーの監督、脚本に従事
平成11年04月
日本大学芸術学部映画学科非常勤講師
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画演出及び脚本表現研究
劇場用映画の脚本・監督を行っている。
多様化する映像メディアの作術・演出術を研究しながら、進化を遂げるデジタルシネマの制作も行っている。
テレビドラマの変遷を研究し、新たな企画立案から制作・プロデュースに至る表現研究を行っている。

研究業績
作品
テレビドラマ「ぬくもり」
日本テレビ火曜サスペンス劇場
劇場用映画「新しい風」
松竹全国公開作品　ヒューストン国際映画祭グランプリ
テレビドラマ「親子弁護士の探偵帖」
TBS月曜ドラマスペシャル
劇場用映画「ゴーヤーちゃんぷるー」
東京都写真美術館公開作品
劇場用映画「ソ満国境15歳の夏」
全国公開作品

社会活動
日本映像学会員
日本映画監督協会理事

宮崎正弘　専任

生年月日
昭和30年04月13日生

略歴
昭和53年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
以後フリーの企画・脚本・演出家、スーパーバイザーとして映画、ビデオ、イベント、博覧会、マルチメディア等の映像作品の制作に従事
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：映像
映画・ビデオ・TV・展示映像、そしてインターネットを含むデジタル映像などのメディア研究をとおして映像コンテンツの創造及び表現について研究を進めている。現在、デジタルによるアナログ的表現について考察している。

研究業績
鈴木自動車　85'モーターショウ　16面マルチ映像、コンセプトカーイメージ映像
日産自動車　安全広報映像「豊かさと楽しさを支える安全思想」（経団連　映像コンクール入賞）
電源開発株式会社創立40周年記念映画企画・脚本
94'世界リゾート博覧会　和歌山市パビリオン3D映像「THYMOS」企画・脚本
CD-ROM　徳永英明「Tony's Village」企画・脚本・演出

社会活動
映像情報メディア学会

Image Arts

宮沢誠一　専任

生年月日
昭和24年08月18日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成06年04月
日本大学芸術学部教授
平成17年09月
日本大学芸術学部次長

研究領域
映画監督・製作・編集を行なっているが、特に創作が中心である。 創作領域は、劇場用劇映画・ドキュメント・PR・CM・TV・ミュージッククリップなど広範囲にわたり、デジタルシネマの製作にも取り組んでいる。

研究業績
「夏の別れ」35mm劇場用劇映画　編集担当
1981年上映
「TECHNO ADVENTURE」16mmPR映画
脚本・監督・編集担当
1981年度産業映画コンクール奨励賞
「絵の中のぼくの村」35mm劇場用映画
ネガ編集担当
1996年度ベルリン国際映画祭銀熊賞
「田中純一郎〜人と仕事　映画にかけた生涯〜」16mm記録映画　監督・編集担当
1999年度産業映画コンクール奨励賞
「宇宙の夏」デジタルシネマ(30分)劇映画
製作・編集担当　2003年度WORLDFEST HOUSTON GOLD SPECIAL JURY AWARD(審査員特別賞)
「飛べ！ダコタ」2013年劇場用映画、DCP上映作品、118分、編集担当
「ソ満国境15歳の夏」2015年劇場用映画、DCP上映作品、94分、編集・制作担当

社会活動
日本映画・テレビ編集協会
日本映画テレビ技術協会

村山匡一郎　専任

生年月日
昭和22年11月27日生

略歴
昭和46年03月
早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業
昭和48年10月
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程(演劇)修了
昭和55年04月
フリーの映画評論家、研究者として本格的に活動を始める
平成12年04月
武蔵野美術大学造形学部映像学科非常勤講師
平成15年04月
多摩美術大学美術学部芸術学科非常勤講師
平成19年04月
多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科客員教授
平成21年04月
東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科非常勤講師
平成25年04年
日本大学芸術学部教授

研究領域
劇映画・ドキュメンタリー・アニメーション・実験映像などの分野を問わず、映画史・映画理論・映画批評を横断しながら映画のあり方を研究。近年は映画と時代の関係に焦点を当てドキュメンタリー映画やアヴァンギャルド映画に関心を寄せている。

研究業績
「世界映画全史」(12巻、共訳)国書刊行会
「映画100年STORYまるかじり」朝日新聞社
「映画史を学ぶクリティカル・ワーズ」(編著)フィルムアート社
「映画における意味作用に関する試論」(共訳)水声社
「日本映画叢書⑤映画は世界を記録する」(編著)森話社

社会活動
日本映像学会理事
NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭理事
一般社団法人コミュニティシネマセンター理事

増田治宏　専任

生年月日
昭和55年1月28日生

略歴
平成14年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成18年04月
日本大学芸術学部助手
平成19年04月
日本大学芸術学部助教
平成21年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成24年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
映画製作における撮影、照明、映画技術を研究しているが、創作を主にしている。撮影機材、機器の発達により、新たな映像表現へのアプローチをしている。

研究業績
短編映画
「青い魚」「夢に向かって」の撮影。
「米粒の神様」の照明。
ドキュメンタリー
「A Hundred-year Journey of the Family」カラーコレクション担当。
映画
「酒中日記」カラーグレーディング担当。
他PRビデオ、記録映像、撮影、カラーコレクション担当。

社会活動
日本映画撮影監督協会会員
映画テレビ技術協会会員
日本映像学会会員

落合賢一　専任

生年月日
昭和24年08月04日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和54年04月
日本大学芸術学部助手
昭和56年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和63年04月
日本大学芸術学部助教授
平成07年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
テレビ映像技術全般が専攻分野であるが、その中で特にテレビ映像の記録及び保存技術を主な研究対象としている。VTRやHD、メモリーに代表されるテレビ映像の保存技術は長期保存に疑問がある。テレビ映像は文化遺産として極めて価値が高い。従って、その保存性は長期間、安定なものでなければならないと考えている。
さらに、4K、8Kなどの高画質化が、テレビ番組制作や、視聴者にどのような変革や影響をもたらしているかについても研究中である。

研究業績
著書
「新版ニューメディア用語辞典」(共著)
「図解テレビ制作ハンドブック」(共訳)
「科学技術用語辞典」(共著)
論文
「音声情報記録とその保存性についての一考察」日本大学芸術学部紀要

社会活動
日本音響学会会員
映像メディア情報学会会員
日本映像学会

兼高聖雄　専任

生年月日
昭和35年02月02日生

略歴
昭和57年03月
慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業
昭和59年03月
慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了
平成02年03月
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了
（社会学博士取得）
平成02年04月
尚美学園短期大学専任講師
平成05年04月
尚美学園短期大学助教授
平成12年04月
尚美学園大学総合政策学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現実の広告表現とその効果について、消費者の心理プロセスを軸にして考えている。できるだけ表現そのものについて、コミュニケーションの枠組みからとらえている。また、メディアによる表現全般や文化・社会現象について、実証的な社会心理学の手法で研究している。

研究業績
「広告表現の制作プロセスの心理学的検討」
放送と表現Vol.1
「受け手の特性から見た広告メッセージのリーチについて」 放送と表現Vol.2
「広告コミュニケーションにおける受容者の自己過程について」 広告科学Vol.27
「若年層の広告接触と消費態度」 平成国際大学論集3
「活字表現の印象：書体・字体・サイズの効果」
尚美学園短期大学研究紀要10

社会活動
放送批評懇談会会員
FMナックファイブ番組審議委員

鈴木康弘　専任

生年月日
昭和33年09月06日生

略歴
昭和57年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和63年04月
日本大学芸術学部助手
平成04年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助教授
平成15年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映像演出、映像作品制作及び作品研究。
研究テーマとして扱っている作品分野は、ドキュメンタリーやテレビドラマである。ドキュメンタリーについては、テレビ・ドキュメンタリーの問題と可能性について探っている。また、映像人類学や映像文化の視点からのアプローチも試みている。テレビドラマについては、テレビの発展史を概観しながら社会との相関関係を考察している。

研究業績
「テレビ・ドキュメンタリー論再考
～知のドキュメンタリーの構築に向けて～」
日本大学芸術学部紀要第37号
「編集技法指南～映像編集の基本的な考え方を学ぶ」12回シリーズ　写真工業出版社
「日本のテレビ放送におけるドキュメンタリー番組の位置」日本大学芸術学部紀要第60号
ドキュメンタリー作品
『秘境の村のくらし～パキスタン・シムシャール村～』NHK教育テレビ
『道と電気が変えた村の風景～秘境の村は近代化をどう受け入れるか～パキスタン・シムシャール村』、『カンテムス少年少女合唱団』、『入善四季物語』、『カンテムスファミリー～その成功と秘密に迫る～』ほか

社会活動
ハンガリー音楽教育の取材活動およびそれに関するドキュメンタリー作品等ビデオ作品の制作（日本ハンガリー合唱交流委員会）
日本映像学会会員

中町綾子　専任

生年月日
昭和46年08月生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成08年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻博士前期課程修了
平成08年04月
日本大学芸術学部助手
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
テレビ番組の分析を行う。
主として、テレビドラマの脚本領域、および映像（演技、演出、ストーリーを含む）を分析・読解する。テレビドラマは制作される時代の影響を強くうけるメディアである。時代的な制約、あるいは表現技法（技術）の制約を前提として、そこに表現されるメッセージを読み解く。

研究業績
「なぜ取り調べにはカツ丼が出るのか？」（メディアファクトリー新書）
「ニッポンのテレビドラマ21の名セリフ」（弘文堂）
「テレビドラマに見る食の諸相」『放送と表現』Vol.1
「あの軽やかさを再び～バブル期のテレビ番組～」『AURA』（フジテレビ調査部）
「日本のテレビドラマにおけるメロドラマ概観」日本大学芸術学部紀要
「あのドラマこのセリフ」日本経済新聞（連載）

社会活動
日本マス・コミュニケーション学会
放送批評懇談会
WOWOW番組審議委員
ファミリー劇場番組審議委員

野田慶人　専任

生年月日
昭和25年05月12日生

略歴
昭和50年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和57年04月
日本大学芸術学部助手
昭和60年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成04年04月
日本大学芸術学部助教授
平成10年04月
日本大学芸術学部教授
平成21年04月～平成26年03月31日
日本大学総合学術情報センター長
平成17年09月～平成29年09月
日本大学理事・評議員
日本大学芸術学部長・日本大学大学院芸術学研究科長

研究領域
テレビCMの発想法、表現法の研究。
日本のテレビCMを中心に、今日までの変遷をふり返ると共に、諸外国のCMと比較して、多角的にその発想法、表現法を考察することにより、日本のテレビCM表現の課題と可能性を追求したい。

研究業績
「20世紀放送史」（共著）
日本放送協会
「広告白書」（共著）
日経広告研究所
「テレビ史ハンドブック改訂増補版」（共著）
自由国民社
「メディアと情報のマトリックス」（共著）
弘文堂
「不可解な成熟期を迎えたテレビCM」（単著）
日経広告研究所報175号

社会活動
（社）衛星放送協会理事
（株）スーパーネットワーク（Super! ドラマTV番組審議委員長／ヒストリーチャンネル番組審議委員）
（株）囲碁将棋チャンネル放送番組審議委員

Image Arts

星野　裕　専任

生年月日
昭和36年04月24日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和60年04月
第一企画株式会社入社　CMプランナー、コピーライター、プロデューサー
平成元年08月
株式会社電通入社　CMプランナー
その後クリエーティブディレクター、シニアクリエーティブディレクター
平成17年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成25年04月
株式会社電通クリエーティブX　執行役員
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
広告ビジネスにおけるコミュニケーション全般。現場経験を活かした視点からの考察を得意とする。
放送広告の表現と社会的役割の変遷に関する研究、広告表現のクリエーティブなアイディア発想の源泉についての研究などを行う。

研究業績
カタログハウス「通販生活」
再春館製薬所「ドモホルンリンクル」
イトーヨーカドー「いってみヨーカドー！」
ニベア花王「ニベアクリーム」など
わかりやすく広告効果の高いテレビCM等広告作品を多数企画、制作。
ACC賞、電通賞、読売広告大賞、カンヌ国際広告祭銀賞、IBA等国内外広告賞多数受賞。

社会活動
日本広告学会
日本映像学会
放送批評懇談会CM部門選奨委員

森中愼也　専任

生年月日
昭和35年08月05日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和60年04月
札幌テレビ放送株式会社入社
アナウンサーとして主に情報番組、ニュースに従事。
平成25年04月
日本大学芸術学部　教授

研究領域
現代マスメディアにおけるテレビ報道分析および情報番組の音声表現法の考察による現代キャスター論。テレビ史。

研究業績
日本テレビ系列共同制作『ズームイン！！朝！』『ズームイン！SUPER』『ズームイン！サタデー』、「第１回北方領土ビザなし渡航」取材・報道、「第４回世界陸上競技選手権シュトゥットガルト大会」取材・報道
「東日本大震災」NNN取材班にて報道
DVDナレーション録音『東日本大震災・宮城県石巻市災害記録（アーカイブス）』
『生放送～最高権力者との６分間～」放送と表現 Vol.18

社会活動
日本映像学会会員

金　龍郎　専任

生年月日
昭和35年07月09日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成09年04月
日本大学芸術学部放送学科非常勤講師
平成12年04月
日本大学芸術学部放送学科専任講師
平成18年04月
日本大学芸術学部放送学科助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部放送学科准教授

研究領域
テレビ番組の企画構成および放送表現と人権の研究。各種番組作品の企画構成に着目し、表現手法・演出手法、制作のスタンス、番組枠としての特徴等を検証・考察している。また、「表の自由」「報道の自由」と人権との調整につて、主に差別表現や報道被害の事例研究を通して可能性を探っている。

研究業績
「興行としての格闘技イベントとそのテレビ中継に関する一考察」芸術学部紀要第40号
「バラエティ番組における放送作家の役割とポジション」放送と表現　vol.8
「報道の品性に関する一考察～報道不信の要因として」芸術学部紀要第43号
「力道山が越えた海峡、越えられなかった38度線」放送と表現　vol.11
「スタジオ・ドキュメンタリー番組の可能性に関する一考察」芸術学部紀要第49号
「ドキュメンタリー番組におけるナレーションの演出的側面」芸術学部紀要第64号
創作（ゲームソフト、番組企画構成等）
「アンク２～ツタンカーメン王の謎」レイ・コーポレーション
「新格闘技伝説」TBS
「小椋佳　青春のかほり・ほのかに」NHK衛星第二
「木内みどりの元気診断」日本テレビ　等多数

社会活動
日本映像学会会員

小笠原隆夫　非常勤

生年月日
昭和14年05月11日生

略歴
昭和38年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和38年04月
ＴＢＳ調査部勤務
昭和38年10月
大映株式会社宣伝部勤務
昭和49年05月
日本大学芸術学部助手
昭和54年06月
日本大学芸術学部専任講師
昭和60年04月
日本大学芸術学部助教授
平成04年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映像（イメージ）理論の歴史的研究と映像の本質論、映画作家・作品、脚本、映画製作状況等の研究及びその研究に伴う資料調査研究の学術的視点からの検証。

研究業績
「エイゼンシュタイン」（共訳）L.ムシナック著 三一書房
「フィルモロジー」（共訳）G.コアン＝セア著 朝日出版
「文化と記号」（共著・共編）　北樹出版社
「日本戦后申影史」（単著）　北京広幡学院
「田中純一郎－人と仕事－映画に賭けた生涯」16mm映画　企画脚本　群馬県新田町
「表敬訪問」DVD作品2h 40m 企画監督　日本大学精神文化研究所
「大野一雄」DVD海外版 75m 脚本監督　日本大学精神文化研究所
「首くくり栲象・方法序説」42m「即身仏を訪ねて・涅槃の考古学」54m、いづれも脚本・監督　DVD作品 身体表出研究会制作

社会活動
日本映像学会会員・理事（昭和49年～平成20年、平成18年～20年）副会長
田中純一郎記念映画史フェスティバル委員会副委員長及び企画委員長
江古田文学会会員

青木研次　非常勤

生年月日
昭和33年01月31日生

略歴
昭和55年03月　日本大学芸術学部映画学科卒業。昭和60年より放送作家として数多くのテレビ番組を手がける。
平成10年より映画脚本を手がける。
平成19年より日本大学芸術学部映画学科非常勤講師

研究領域
映画映像に於ける脚本という言語による表現についての分析、研究。コントストラクションとテーマの関係についてのプロット論。ストーリーとドラマツルギーの関係についての研究分析。

研究実績
映画
「独立少年合唱団」　ベルリン国際映画祭アルフレート・バウアー賞受賞作
「いつか読書する日」　モントリオール映画祭審査員特別賞受賞作　菊島隆三賞　ヨコハマ映画祭脚本賞　芸術選奨文部科学大臣新人賞
「家路」　新藤兼人賞受賞作
「友だちと歩こう」
テレビ
「私立探偵濱マイク」（読売テレビ）
「青い眼の少年兵」（NHK）など
著作
小説「独立少年合唱団」（角川書店）
シナリオ本「いつか読書する日」（愛育社）

社会活動
協同組合日本シナリオ作家協会会員
日本脚本家連盟会員

小泉定弘　非常勤

生年月日
昭和16年09月26日生

略歴
昭和42年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和45年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
昭和49年01月
日本大学芸術学部専任講師
昭和56年11月
日本大学芸術学部助教授
昭和62年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
日常身辺を撮り続ける一方で写真の歴史と古今の作家について広範な研究を行っている。昭和50年には往時の文献を手掛かりに、日本では作ることが難しいと言われていたダゲレオタイプ（銀板写真）の再現に成功した。このように基本的な考察と制作を両輪に写真の基礎研究を重視している。
約半世紀の自分の写真をまとめること自体が研究領域になりつつある。オリジナルプリントの制作をほぼ終え、目下その索引となる写真集を制作している。

研究業績
「現代のダゲレオタイプ」（ニコンサロン）
小泉定弘作品展「浦安1965-1972」
（JC II フォトサロン）
"Time&Space"（富士フォトサロン）
『庭にて 東尾久8-14-3 vol. Ⅵ』
（リトルギャラリーブックス）
『神田川』（リトルギャラリーブックス4）
『1964-1972』（リトルギャラリーブックス6）

社会活動
東京都荒川区顧問
（公財）荒川区芸術文化振興財団芸術監督
東京ケーブルネットワーク放送番組審議委員長
都電荒川線写真コンテスト審査委員長
ドラマチック フォトコンテスト審査委員長

上滝徹也　非常勤

生年月日
昭和17年09月13日生

略歴
昭和41年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和44年05月
日本大学芸術学部助手
昭和53年01月
日本大学芸術学部専任講師
昭和56年11月
日本大学芸術学部助教授
昭和63年04月
日本大学芸術学部教授
平成24年09月
日本大学非常勤講師

研究領域
〈テレビ文化史〉
テレビドラマに記述される戦後思想史を、メッセージと方法論、作家の原風景、編成・制作システムの変容過程に解読する。現在の研究対象は、テレビドラマ史の解読と、テレビドラマ変革の検証。

研究業績
「連ドラ考現学」『AURA』Vol99, 101
「娯楽番組の思想」『メディアと情報のマトリックス』弘文堂
『テレビ史ハンドブック』自由国民社
「90年代テレビ作家論①～⑳」『GALAC』
『マスコミとくらし百科③テレビ・ラジオ』
日本図書センター
『世界映画大辞典』日本図書センター
『テレビ作家たちの50年』NHK出版
「テレビドラマ史」『ドラマ』①～㉟
「テレビドラマ変革の証言史」『民放』①～⑲

社会活動
放送批評懇談会理事
国際ドラマフェスティバル特別顧問
放送番組収集諮問委員会委員
日本脚本アーカイブス・コンソーシアム副代表理事

阪本善尚　非常勤

生年月日
昭和17年02月14日生

略歴
昭和39年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
以後フリーのカメラマンとして活動し、その後撮影監督として大林宣彦監督、原田眞人監督などの劇映画、Ｖシネマ、TV映画作品等に携わる。

研究領域
専門分野 映画撮影 映画映像技術
撮影監督として劇映画の他、コマーシャルやテレビ映画を多数手がけ、近年はデジタルカメラでフィルム画質な劇映画を撮影している。
1990年に、ある講演を聴き「ケミカルフィルムがあと10年ほどで終焉を迎えるのでは？」と感じてから、映画を支えてきたフィルムの持つ色の豊かさ（質感）をデジタルカメラでもどうにか表現できないか、とメーカーと共に研究を積み重ねてきた。今やほぼフィルムと変わらない質感の色表現ができるようになったデジタルカメラによる映画制作が主流となったが、今少し不満足な処理工程から満足ゆく結果へたどり着くことをめざし、本校の最新鋭の機器環境下、研究に取り組んでいる。

研究業績
劇映画・Ｖシネマ
大林宣彦監督作品「時をかける少女」など
原田眞人監督作品「金融腐蝕列島・呪縛」「突入せよ！あさま山荘事件」など
佐藤純彌監督作品「男たちの大和／YAMATO
日本アカデミー賞優秀撮影賞、毎日映画コンクール撮影賞、第53回日本映画技術賞など受賞
日本・香港・中国・韓国合作映画ジェイコブ・チャン監督作品「墨攻」
香港映画ツイ・ハーク監督作品「Missing」
瀧本智行監督作品「はやぶさ 遥かなる帰還」
「グラスホッパー」
ＴＶコマーシャル
「資生堂」など
ACC賞、ADC賞、クリオ賞、Venise Lion D'Argent賞受賞

Image Arts

鈴木保彦　非常勤

生年月日
昭和21年03月31日生

略歴
昭和43年03月
日本大学文理学部　史学科　卒業
昭和45年03月
日本大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和46年03月
立教大学博物館學講座　聴講修了（学芸員資格取得）
昭和46年08月～昭和56年03月
神奈川県教育庁社会教育部文化財保護課
昭和52年04月
日本大学芸術学部　非常勤講師
昭和56年04月
日本大学芸術学部　専任講師
昭和62年04月
日本大学芸術学部　助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部　教授
平成18年03月
博士（歴史学）（國學院大學）
平成28年03月
定年退職（非常勤講師）

研究領域
日本の先史文化のうち、縄文時代を主として研究している。最近は縄文時代の集落をテーマとし、縄文集落の変遷、縄文集落における祭祀と墓、縄文集落と配石墓、縄文集落における遺構群の構成と構造などについて総合的に研究をしている。また、考古学・歴史学等の研究成果をいかに社会的に還元するかという観点から博物館学も研究対象としている。

研究業績
『縄文土器大観』第２巻（共著）小学館
「縄文集落の隆盛と双環状集落・鼎立状環状集落の出現」『長野県考古学会誌』118号
『縄文時代集落の研究』雄山閣
『集落の変遷と地域性』（共著）雄山閣
「歌舞伎舞踊衣裳の博物館資料化と情報公開」『博物館学雑誌』32巻２号

社会活動
縄文時代文化研究会　代表
日本考古学協会
全日本博物館学会

瀬島久美子　非常勤

生年月日
昭和25年06月26日

略歴
1973年03月
東京音楽大学芸術学士取得卒業
2006年～2007年
名古屋学芸大学講師
2008年～2014年
名古屋学芸大学特任教授

研究領域
現代美術としての音・映像・情報の研究。

研究業績
1970年代：音・映像によるArt & Designの企画制作多数。
1980年代：Sound Designのためのオブジェ企画制作展示
1988-1992年映像空間から建築、都市へと活動領域を拡げ、都市開発、商業地形成事業に参画
1990年代：音・映像・情報のInstallation研究。「Installation Age」展、インスタレーションシリーズ「EIZO EXPLORER」展、“Video Art The First 25years”など。
2000年代：日韓共催FIFAワールドカップ記念文化催事映像制作
「愛・地球博」瀬戸日本館ギャラリーのキュレーション

社会活動
1989：通産省デザインイヤー企画調整委員
1993：東京都「東京フロンティアへの市民参加の有効実施に関する調査」研究委員
1996～2000：農林水産省日本農村システム協会地域活性化情報映像検討委員会専門委員
1999：地域創造アドバイザリー会議アドバイザー
1986～　映像学会会員

月岡貞夫　非常勤

生年月日
昭和14年05月15日生

略歴
1958年手塚治虫のアシスタント。59・東映動画入社。66年退社。67・虫プロダクション入社。68・日本テレビ「すばらしい世界旅行」契約スタッフ。70・アニメ工房ナック設立に参加。72・退社。74・桑沢デザイン研究所・講師受託。79・日本大学芸術学部・講師受託。83東京ムービー・アドバイザー受託。85・講座アニメーション編集委員。87・株）テクノ・クエスト相談役受託。88東映アニメーション研究所講師受託。95・CESA（コンピュータエンタティメント協会）倫理委員受託。98鹿児島頭脳センター講師受託。99・東京工芸大学アニメーション科教授就任。2007年工芸大学退職。07・宝塚造形芸術大学教授就任。14・宝塚大学定年により退職し特任教授となる。14・中国美術大学客座教授。14伝媒大学広南学院終身名誉教授受託。

研究領域
「ウケル」
あらゆる表現物はその鑑賞者を想定する。庇護者であった王の嗜好に従う時代からコンスーマー・オーディエンスの嗜好に従う時代である。ウケルとは俗な言葉つまり大衆至上主義のニュアンスがあるからだろう。日本の文化、とりわけ映画やアニメにおいての核心は情と意地にあると思う。意地については佐藤忠男の研究がある。漱石の「草枕」の冒頭「智に働けば角が立つ、情に棹させば流される、意地を通せば窮屈だ…」理と情は古来から人間が抱える葛藤だ。ミラーニューロンを通して他我問題を、今はやりのアイ・コンタクトはアダムスミスの「道徳感情論」を読みながらウケルを考えてみる。

寺脇　研　非常勤

生年月日
昭和27年07月13日生

略歴
昭和50年03月
東京大学法学部卒業
昭和50年04月
文部省入省
平成11年04月
文部省大臣官房政策課長
平成13年01月
文部科学省大臣官房審議官生涯学習政策担当
平成14年08月
文化庁文化部長
平成16年04月
日本大学芸術学部研究所教授（非常勤）
平成26年
日本大学芸術学部客員教授

研究領域
映画をはじめとする文化行政を担当した立場から、日本の文化政策の全体像及びその中で映画を取り巻く行政的環境と今後の方向性。韓国との文化交流に携わる立場から韓国映画の状況、産業構造及び日本映画との関係。映画評論家として8千本を超す日本映画を観てきた立場から、観客の側から見た映画の在り方について。ジャパンフィルムコミッション前理事長の立場から、日本及びアジアのフィルムコミッションの状況。近年プロデューサーとして映画製作に当たる立場から、現在の日本映画の制作、配給、興行の状況。

研究業績
「映画を追いかけて」　弘文出版
「映画を見つめて」　弘文出版
「映画に恋して」　弘文出版
「韓国映画ベスト100」　朝日新書
「ロマンポルノの時代」　光文社新書

社会活動
一般社団法人落語協会外部顧問
NPO日本映画映像文化振興センター顧問
NPO教育支援協会チーフコーディネーター
公益社団法人「小さな親切」運動本部理事

仲倉重郎　非常勤

生年月日
昭和16年08月21日生

略歴
昭和40年03月
東京大学文学部国史学科卒業
昭和40年04月
松竹株式会社大船撮影所の助監督となる
昭和58年06月
映画「きつね」で監督となる
昭和62年09月
フリーとなり、脚本家としての活動も始める
平成06年04月
日本大学芸術学部映画学科非常勤講師

研究領域
映画に目覚めたのは、高校時代、ヌーヴェルヴァーグの頃である。ゴダール、ルイ・マルらの作品に接したのが始まりであった。
また、大島渚、今村昌平の作品は、映画監督を目指す直接的なきっかけになった。
松竹大船での体験をもとに、日本映画にとってのヌーヴェルヴァーグについて考える。
同時に、これからの映画についても。

研究業績
監督作品
映画
「きつね」(83・松竹)
「マンゴーと赤い車椅子」(14・ISF)
テレビドラマ
「天平の王道～真備と清麻呂」(86・OHK)
「別れの予感」(87・KTV)
脚本作品
映画
「江戸川乱歩の陰獣」(77・松竹)
「ざ・鬼太鼓座」(91・松竹)
テレビドラマ
「銀行～男たちのサバイバル」(94・NHK)
「官僚たちの夏」(96・NHK)
FMドラマ
「幽界彷徨・桂木孝介の冒険」(00・NHK)

社会活動
日本映画監督協会理事
日本脚本家連盟会員
日本放送作家協会会員

南部英夫　非常勤

生年月日
昭和14年9月7日生

略歴
昭和39年3月
早稲田大学第一法学部卒業
昭和39年4月
日本ソノフイルム株式会社入社
昭和40年4月
松竹株式会社入社
松竹・大船撮影所で製作する映画作品の助監督を勤める
昭和51年7月
監督に昇進。以後フリーとなり、映画、テレビ、Vシネマ、ドキュメンタリー、教育映画等の監督・脚本家として活動
平成10年6月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
監督第一作からおよそ40年間にわたって劇場用映画、テレビドラマを中心にした映像作品製作の現場に立ち続けた。傍ら、実作と併行して、自らが映画を楽しみはじめた昭和25,6年頃より撮影所へ入り映画を職業とする迄の期間にしぼりこんで、この間の“日本映画”の歴史と作品の研究をすすめている。

研究業績
監督・脚本作品
映画
「愛と誠・完結編」
「カラテ大戦争」
「恋するトマト」
「格闘技オリンピック」(記録映画)
テレビドラマ
「喪失」
「誰かが私に恋してる」
「夢の余白」
「西条八十物語」(脚本のみ)
教育映画
「もっとフレンドリーに」「母たちの応援歌」

社会活動
日本映画監督協会会員

野末敏明　非常勤

生年月日
昭和18年02月19日生

略歴
昭和43年03月
東京大学文学部比較文学・文化学科卒業
昭和43年04月
(株)電通入社
平成08年11月
(株)電通クリエーティブ局長
平成11年06月
(株)電通常務執行役員
平成13年06月
(株)電通常務取締役
平成16年06月
(株)電通顧問(株)電通総研副会長
平成22年05月
JAC理事長
平成28年05月
JAC顧問

研究領域
広告クリエーティブに関する全領域。日本のみならず、世界に(カンヌ、クリオ、NY-ADC等の海外広告賞審査の経験を活かし)通用するクリエーティブ・アイデアの開発、ならびにその実践を通しての啓蒙。

研究業績
受賞
カンヌ国際広告祭金賞4度受賞―「小さなグランドピアノ」篇「シンバル」篇「留守番電話が来た日」篇「のっぽのムルワカさん」篇
論文
「ローカルからグローバルへ」(吉田秀雄記念事業財団広報研究誌「AO STUDIES」16巻)
出版
「コトバのイメージ学」(電通刊)
「新CMプランナー入門」(監修　電通刊)
「THE CM」(宣伝会議刊)

社会活動
JAC〈顧問〉
アドミュージアム東京企画委員
ニューヨークADC会員
ADFEST(アジアパシフィックアドバタイジングフェスティバル)理事(2005～9会長)

橋本勝次　非常勤

生年月日
昭和20年08月15日生

略歴
昭和43年02月
アオイスタジオ株式会社　入社
録音技術部　勤務
昭和43年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和52年04月
録音技師
平成07年04月
技術部次長
平成08年04月
映画学科非常勤講師
平成09年03月
アオイスタジオ退社
平成14年
日本映画テレビ録音協会事務局長
平成14年
PAS(プロフェッショナルオーディオソサエティー)事務局長
平成16年
録音協会退会
平成28年
PAS事務局長退任

研究領域
録音技術者として数々の作品を担当、映画における表現方法等の検証をする。

研究業績
各プロダクションの作品の録音を担当、産業映画祭、CM作品等の賞にも、貢献した。

Image Arts

広沢文則　非常勤

生年月日
昭和15年08月29日生

略歴
昭和38年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和38年04月
日本大学芸術学部非常勤助手
昭和51年08月
日本大学芸術学部専任講師
昭和58年05月
日本大学芸術学部助教授
平成02年04月
日本大学芸術学部教授
平成22年08月
日本大学芸術学部非常勤

研究領域
映画制作における諸技術、撮影、照明、現像等の歴史、発達史を研究テーマにしている。このことをふまえて、映像表現の新たな可能性もあわせ研究テーマとしている。また、フィルムレスの映画・デジタルシネマが登場したが、フィルムの持っている表現領域を現像技術者として映像表現へアプローチしている。

研究業績
「カラー映画フィルム技術史(1～8)」日本大学芸術学部紀要
「カメラマンから見た映画技術史(1～4)」日本大学芸術学部紀要
「個人別領域別・談話収録による映画史大系」ビデオ・16mmフィルム　PR・記録映画撮影
「映画制作のすべて」(共著) 写真工業

社会活動
日本映画テレビ技術協会会友

山田顕喜　非常勤

生年月日
昭和16年08月10日生

略歴
昭和39年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和39年04月
NHK入局・カメラマン
昭和63年07月
NHK照明副部長
平成03年06月
NHK撮影副部長
平成08年06月
NHK撮影部長
平成11年04月
日本大学芸術学部教授
平成23年09月
定年退職
平成23年10月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
撮影現場の実践をふまえ、映画、ドラマ及びドキュメンタリーの撮影全般にわたる、歴史的変遷と表現技術の発展をさぐり、撮影技術の現状を通してメディアとしての映像文化を考察。

研究業績
主な撮影担当作品
NHK総合テレビ「あすへの記録―廃液」科学放送賞受賞
NHK総合テレビ「NHK特集・日本の条件―教育」日本ジャーナリスト会議賞・テレビ大賞受賞
NHK教育テレビ「日曜美術館・いくさ世の画譜」地方の時代賞特別賞受賞
NHK総合テレビ「NHKスペシャル・野村万作〈狐〉に挑む」日本映画照明協会優秀賞受賞
NHK総合テレビ「NHKスペシャル・戦後50年その時日本は」橋田寿賀子賞・放送批評懇談会特別賞受賞
「映画製作のすべて」(共著) 写真工業出版
「テレビ番組制作技術の基礎」(共著) 映画テレビ技術協会

社会活動
日本映画テレビ技術協会会友
NHK会友・放送技術
社会福祉法人・那須若葉会理事
ディズニーチャンネル番組審議委員長

原　直久　非常勤

生年月日
昭和21年08月16日生

略歴
昭和44年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和47年06月
日本大学芸術学部助手
昭和55年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和61年04月
日本大学芸術学部助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
写真表現及び写真表現研究
写真表現の原点であるオリジナルプリントの価値と芸術性を追求し、ハイクオリティーな作品作りのため、特に大型カメラでの制作を中心に行い、ファインプリントによるバライタ紙やプラチナプリントでのイメージ表現の可能性を探究している。写真表現研究はE.アッジェをはじめ20世紀前半のパリを中心に活躍した写真家の研究。

研究業績
個展
「ヴェネツィア」虎の門・P.G.I　他多数
学術論文
「アッジェの撮影機材(レンズ)に関する研究」日本写真芸術学会誌第5巻第1号
「アッジェの仕事とその方法についての考察」日本写真芸術学会誌第9巻第1号
「アッジェ研究Ⅲ」
日本写真芸術学会誌第9巻第1号
出版
「時の遺産＝ヨーロッパとの出会い」
光村印刷(株)発行

社会活動
日本写真芸術学会理事
日本写真学会会員
日本映像学会会員
日本写真協会顧問

松田義弘　非常勤

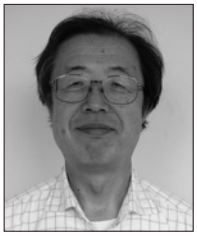
生年月日
昭和21年04月03日生

略歴
昭和44年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和47年06月
日本大学芸術学部助手
昭和55年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和57年04月
千葉大学工学部客員助教授
昭和61年04月
日本大学芸術学部助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
黒白写真の調子再現を中心に、感光材料の特性についての評価・研究を行うとともに、「私的時空間の表現」をテーマに心象風景の制作を行っている。
最近は、デジタル写真の研究を中心に行い、心象風景のイメージを視覚化するために、コンピュータによる画像処理を行った制作に取り組んでいる。

研究業績
「写真－写真の技術・カメラとレンズ」(共著)
ブリタニカ国際大百科事典8巻 TBSブリタニカ
「黒白フィルムの現像」(共著) 新アサヒカメラ講座4『撮影機材と暗室現像編』朝日新聞社
「ファインプリントのための露出と現像」(共著)
ファインプリントテクニック　写真工業出版社
「ファインプリント制作の立場から見た黒白感光材料」日本写真芸術学会誌 第1巻第2号
「日常の光景－Half Dome(CA)」
日本写真芸術学会誌第11巻第2号〈創作篇〉

社会活動
日本写真学会評議員
日本写真芸術学会副会長
日本広告写真家協会学術会員
中央技能検定委員(写真職種)



横田正夫

非常勤

生年月日
昭和29年1月28日生

略歴
昭和51年3月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和54年3月
日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了
昭和57年3月
日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程満期退学
昭和57年4月
群馬大学医学部精神神経医学教室教務員
平成4年3月
日本大学文理学部専任講師
平成6年3月
日本大学文理学部助教授
平成12年3月
日本大学文理学部教授

研究領域
アニメーションの心理学的研究を行っている。たとえば、キャラクターの好み、悪玉の印象評価の検討や作り手と創造性、ライフ・サイクルの関係など。

研究業積
「メディアから読み解く臨床心理学 漫画・アニメを愛し、健康なこころを育む」(単著・サイエンス社、2016)
「アニメーションの事典」(共編著・朝倉書店、2012)
Japanese Animation; East Asian Perspective. (共編著、University Pressof Mississipi, 2013)
「日韓アニメーションの心理分析」(単著、臨川書店、2009)
「アニメーションとライフサイクルの心理学」(単著、臨川書店、2008)
「アニメーションの臨床心理学」(単著、誠信書房、2006)

社会活動
公益社団法人日本心理学会理事長
日本アニメーション学会理事
日本映像学会監事

Fine Art and Design

有地好登　専任

生年月日
昭和24年08月17日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和54年06月
日本大学芸術学部助手
昭和56年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和63年04月
日本大学芸術学部助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：版画
研究テーマ：版表現の可能性
版を媒体にして成立する表現世界の中で、個々の版材の特質を生かしながら異なる版種（銅版、石版等）を併用することで派生する相乗効果や特徴を考慮し、版形式でしか成しえない独自な間接表現の世界を模索する。

研究業績
第4回バラト・バヴァン国際版画ビエンナーレ佳作賞（インド）
第14回ビンガムトン国際ミニ版画展第一席（アメリカ）
第8回プレミオ・アックイ国際版画ビエンナーレ審査員特別賞　（イタリア）
SKY-2011アジア主版／版画展　（台湾）
第40回カルメン・アロゼナ国際版画賞展（スペイン）
第17回セルヴェイラ国際ビエンナーレ（ポルトガル）
第3回ビルバオ国際現代版画賞展FIG2014（スペイン）
第1回アルゴナウティ国際版画賞展　（イタリア）

社会活動
版画学会会員
日本版画協会会員、理事

大槻孝之　専任

生年月日
昭和32年01月03日生

略歴
昭和54年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成11年04月
日本大学芸術学部助教授
平成17年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
主に鉄を素材として彫刻の制作発表を行っている。現在、彫刻と場との関係性について興味をもっている。無機的なホワイトキューブの美術の展示のために用意された空間や公園などの認知された公共の場ではなくて、日々移り変わる自然の中であるとか、歴史や文化を紡いできた日常の空間に直接に関わり、彫刻を通して特定の場を意識化していくことに彫刻の新たな可能性を探っている。

研究業績
「満ち潮を待って―Ⅱ」個展 メタルアートミュージアム光の谷
「水の風景」第22回現代日本彫刻展―07 宇部市野外彫刻美術館
「満潮を待って」個展 ギャラリーGAN
「風をのせて」NEW HEAVY展 神戸市CAP HOUSE
「迷宮の小径」雨引の里と彫刻展 茨城県大和村

社会活動
鉄の造形ワークショップ（神戸市CAP HOUSE）
N＋N展ワークショップ（練馬区立美術館）
日本美術家連盟会員

大庭英治　専任

生年月日
昭和25年05月30日生

略歴
昭和49年03月
東京芸術大学美術学部絵画科卒業
昭和51年03月
東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
昭和52年06月
フランス政府給費留学
（国立マルセイユ高等美術学校）
平成16年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成17年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成22年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：絵画
多種多様にわたる現代絵画の表現の中で、古い時代から用いられてきた油彩絵の具を材料として、その古典的な技法をベースに、自らの「造形意識」の表現を試みている。
具体的な形に拘らず、色彩の響きあい、コンポジション、マチエールなどを探究し、抽象的絵画の中に人の気配のする生活空間を描きたいと、その試行を続けている。

研究業績
個展「ヌーヴェル・ギャルリー」（フランス、1979年）
個展「ムゼウムドルフ」（ドイツ、1988年）
個展「東急Bunkamuraギャラリー」（1994年）
個展「髙島屋美術画廊」（1996、1999、2001、2005、2008、2011、2015年）
その他、個展、グループ展、立軌展等で発表

社会活動
日本美術家連盟会員
立軌会同人
ABC（文化系フランス政府給費留学生）の会幹事

笹井祐子（奥村祐子）　専任

生年月日
昭和41年12月19日生

略歴
平成2年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成7年04月
日本大学芸術学部美術学科副手
平成12年04月
日本大学芸術学部美術学科助手
平成16年04月
日本大学芸術学部美術学科専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部美術学科准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
平面による版画・絵画表現を専門としている。絵画表現では、線によるドローイングを中心に植物や人物といった生命力をかたちに表現している。版画表現では、版を使って「写す」ことをテーマに凹版、凸版、平版といった様々な版種を使い表現している。特に版画と活字を組み合わせた表現の研究を試みている。

研究業績
「現代日本の美術の動勢 版/写すこと/の試み」富山県立近代美術館
「現代版画の潮流展」町田市立国際版画美術館・松本市美術館
「ドローイングをめぐって」茨城県つくば美術館
「一期一会」メキシコ自治大学チョッポ美術館
「第28回損保ジャパン美術財団選抜奨励展」損保ジャパン東郷青児美術館
「第77回日本版画協会展 招待作家」東京都美術館

社会活動
版画学会

木村三郎　専任

生年月日
昭和23年03月21日生

略歴
昭和47年03月
東京大学文学部仏文学科卒業
昭和50年03月
東京大学大学院美術史学専攻修士課程修了
昭和56年01月
パリⅣ大学（ソルボンヌ）文学博士取得
平成03年04月
放送大学客員教授（平成11年まで）
平成04年04月
日本大学芸術学部教授
平成07年04月
コレージュ・ド・フランス招聘客員研究員
平成10年04月
東京大学文学部講師
平成28年04月
金沢美術工芸大学客員教授

研究領域
西洋美術史。その中でも、フランスの画家プッサンを中心とした西洋・日本のバロック時代の図像学とデジタル・アーカイブ作成も含むアート・ドキュメンテーションを特に専門とする。演習では、美術館学芸員養成を教育の柱とする。特に、学部で、各学科の諸芸術や、文学などの人文科学を先に学んで来た学生諸君たちに、短期・集中的に西洋美術史の基礎を習得させるための方法論を特色としている。

研究業績
「ダヴィッド」美術出版社　渋沢・クローデル賞
《La source écrite du Miracle de saint François-Xavier de Poussin》, La Revue du Louvre,1988,no.5-6
「西洋絵画作品名事典」三省堂
「名画を読み解くアトリビュート」淡交社
「17世紀フランスにおける挿し絵本と絵画の関係についての総合的研究」（科研報告書）
「ニコラ・プッサンとイエズス会図像の研究」中央公論美術出版
「17世紀フランスにおけるオウィディウスの挿絵と絵画についての総合的研究」（科研報告書・http://www.ovidmeta.jp アートドキュメンテーション学会同推進賞）
「西洋近代絵画の見方・学び方」左右社

社会活動
デジタル情報記録管理協会理事

鞍掛純一　専任

生年月日
昭和42年09月24日生

略歴
平成元年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
跡見学園短期大学生活造形科実習助手
平成04年04月
日本大学芸術学部学科補助員
平成06年04月
日本大学芸術学部非常勤助手
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成09年04月
武蔵野美術大学特別講師
平成13年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
鉄を主な表現素材とし、自然から受け取るものを作品に置き換えることを日常制作の元にしている。近年は個人の制作活動のみならず、ワークショップをはじめ、多くの人数で一つのものを造り上げる制作方法も同時に行っており、過疎化地域におけるアート制作による地域活性化を目標にしている。

研究業績
柳瀬荘アート・教育プロジェクト
大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ／脱皮する家2006／コロッケハウス2009／やまのうえした2012／大地のおくりもの2015
Monads2000[Galeria d'art zero SPAIN]
TAEGU ASIA ARTS EXHIBITION[韓国]
瀬戸内国際芸術祭2013夏

社会活動
KEENアンバサダー
星峠の棚田を守る会

髙橋幸次　専任

生年月日
昭和28年08月12日

略歴
昭和54年03月
東京大学文学部第1類（文化学）卒業
昭和59年03月
東京大学大学院美術史学専攻修士課程修了
昭和60年04月
東京国立近代美術館勤務（文部技官・研究職）
平成03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成11年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻は近代・現代美術史。もともとは特にロダンをはじめとする19世紀以降現代までの彫刻・立体作品の研究であるが、現代の芸術を考える際に、美術という制度やジャンルを越え出る領域に広く関心を持っている。例えば、セザンヌと現代美術の平面作品の問題、ダダイズム・シュルレアリスムの今日性、現代美術における映像・舞台・音楽などと美術のコラボレーション的領域等。専門領域の展覧会企画も行っている。

研究業績
「ロマン主義時代の彫刻」『世界美術大全集 西洋編　第20巻　ロマン主義』小学館
「新潮美術ROM　ロダン」（日本語版監修・翻訳）新潮社
「【日本でみる】西洋名画の鑑賞ブック」 淡交社
「横たわることと立つこと：ムーアとロダン」『ヘンリー・ムーア展』カタログ、川村記念美術館ほか
「未来のカミーユへ」『カミーユ・クローデル展』カタログ、軽井沢メルシャン美術館ほか

社会活動
財団法人イサム・ノグチ日本財団評議員
練馬区立美術館運営協議会委員
屋外彫刻調査保存研究会運営委員
財務省関税等不服審査会委員
岩手県美術品収集評価委員会委員

福島唯史　専任

生年月日
昭和42年03月28日生

略歴
平成01年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成04年04月
日本大学芸術学部実習助手
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助手
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
油彩画による絵画制作。
特に基底材及び溶材の研究が、油彩画の技法やマティエールに与える影響を試みている。油彩画の生命線とも言える堅牢な絵具のつき、それに伴う絵肌の美しさを大切に思いながら、特に色面、空間感、コンポジションに重きを置いて制作している。

研究業績
昭和会展招待出品（日動画廊）['92～'94]
第29回昭和会展日動美術財団賞受賞['94]
福島唯史展（日動画廊 東京／名古屋）['97]
前田寛治大賞展（日本橋髙島屋）['98 '01 '04]
和の会招待出品（銀座和光）['99～'01]
立軌展招待出品['99 '00]
立軌会同人となる['01～]
日本現代洋画の精鋭（笠間日動美術館）['01]
福島唯史展（日動画廊）['07]
昭和会受賞作家選抜展（笠間日動美術館）['11]
福島唯史展"PARIS-MAROC"（日動画廊）['11]
N+N展 油絵の魅力（練馬区立美術館）['14]
福島唯史展"GRIS CHIC"（日動画廊）['16]
その他、個展、グループ展

社会活動
立軌会運営委員
前田寛治大賞展推薦委員（倉吉博物館主催）
未来展実行委員、審査委員（日動画廊主催）

Fine Art and Design

木村政司　専任

生年月日
昭和30年11月29日生

略歴
昭和54年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和59年06月
米国ワシントン州立大学大学院修士課程修了
昭和60年12月
米国スミソニアン協会国立自然人類歴史博物館インターン修了
昭和63年10月
(株)アーリーバード設立(代表取締役　現在非常勤)
平成05年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
医学（解剖学）、昆虫学、動物学、博物学等の研究者や科学者とのコラボレーションから、知をわかりやすく表現するためのサイエンスコミュニケーションデザインを専門とする。特にミュージアムデザインにおけるサイエンスとデザインの融合を目指す。

研究業績
○平成25,26年度日本大学学長特別研究
『N.国際救助隊による災害復興、教育支援のための学生「絆」プロジェクト』
○平成27年度 29年度科研費　基盤研究(C)
生命40億年全史をタイムラインで可視化する科学教育コンテンツの開発

社会活動
○JSTサイエンスウインドウ委員会委員
○一般財団法人ワンアジア財団顧問
○日本サイエンスコミュニケーション協会会員
○日本グラフィックデザイナー協会会員
○文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官
○所沢市文化振興事業団評議員

熊谷廣己　専任

生年月日
昭和30年10月08日生

略歴
昭和54年03月
日本大学生産工学部建築学科卒業
昭和56年03月
日本大学大学院生産工学研究科修士課程修了
昭和57年04月
内井昭蔵建築設計事務所勤務
平成02年04月
前川建築設計事務所勤務
平成12年04月
日本大学芸術学部助教授
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：建築設計
建築デザインにおける設計過程に着目した方法論を主な研究領域とする。創造的なデザインプロセスのプログラムや開発を実践活動を通じながら取り組んでいる。

研究業績
作品
CURIOSITY
小丘舎
渡辺整形外科医院
論文
「混構造建築物における構造デザイン」日本大学芸術学部紀要42号
「生活拠点施設としてのサービスステーションに関する研究」委託研究

社会活動
日本建築学会
東京建築士会
日本デザイン学会
建築家・前川國男生誕100年記念展覧会発起人

桑原淳司　専任

生年月日
昭和27年12月07日生

略歴
昭和50年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和50年04月
(株)環境デザイン研究所勤務
昭和59年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
日本のこども達のあそび環境はあまりにも著しく変化し豊かさを失っている。時代に相応した新しいあそび環境を構築するため、遊具の開発と遊び環境を主な研究領域としている。常に等身大のスケール感を意識した社会的な提案を行いながら、遊具・家具・建築・造園・環境といったあらゆる分野を串刺しにするデザインのあり方を追求し、実験的な試作や実践的な開発研究の展開を試みている。

研究業績
練馬区立美術の森緑地 動物感覚をとぎすます道 2015年４月
ワークショップ＋講演
メモリーKISD(ドイツ・ケルン) 2014年５月
ワークショップ＋展示
大きな迷路の遊具ジャイアントメイズをみんなで作って遊ぼう
練馬区立美術館 Ｎ＋Ｎ展 2012年７月
個展
Ａ BOY IN MY MIND 私の原風景展
江古田校舎 A&Dギャラリー 2011年６月
論文
大型複合遊具の安全性と安全委員会の役割
大規模屋根付複合遊具における子どもと親の行動特性
幼児施設の園庭遊具における事故とその安全性について

社会活動
こども環境学会会員・評議員
日本建築学会会員
日本造園学会会員

肥田不二夫　専任

生年月日
昭和28年10月16日生

略歴
昭和52年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和52年04月
赤井電機株式会社勤務
平成05年04月
日本大学芸術学部専任講師
早稲田大学理工学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：インダストリアルデザイン
医療機器，福祉機器等これからの高齢社会における道具、機器をはじめとし、生活に関わる様々なものをユニバーサルデザインの視点から調査分析を行ない、新たな製品開発及びそのデザイン手法、方法論を研究。また併せて、企業からの委託研究、産学共同研究等、実践的研究を行っている。

研究業績
○「ユニバーサルデザインによるインフォメーション機器の研究開発」
○「産学コラボレーションに於けるデザイン教育効果」第58回日本デザイン学会研究発表大会
○「ハンドドライヤーから考える衛生環境」第61回日本デザイン学会研究発表大会
○「医学とデザイン学の融合による次世代型呼吸器診断ツールの開発」日本大学学術研究助成金総合研究(2015.4～2017.3)
○「UD視点による呼吸器プロダクトの可能性について－３」第64回日本デザイン学会発表大会(2017.7.2)
○産学連携デザインプロジェクト'16「車載オーディオ＆エアコン操作システムのデザイン開発」(株)ナガシマ化学工業所(2017.3)

社会活動
日本デザイン学会会員
人間工学会アーゴデザイン部会会員
(財)共用品推進機構メンバー
香りマーケティング協会理事

佐藤　徹　専任

生年月日
昭和43年11月29日生

略歴
平成03年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
三菱電気デザイン研究所勤務
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成15年04月
日本大学専任講師
平成20年04月
日本大学准教授
平成27年04月
日本大学教授

研究領域
持続可能なライフスタイルの実現に向けて、工業製品による環境負荷やエコロジー素材、再利用法などをエコデザインの観点から研究。JIDA環境委員会にて学生指導や主催展示も行っている。また工業デザインの現場におけるコンピュータの活用状況を調査し、3Dデータによる模型製作などを実践、検証している。

研究業績
「美しい椅子がわかる本」(共著)成美堂出版社
「エコデザイン」(共著)日本デザイン学会誌特集号
「conof. シリーズ」シュレッダー、電話機、デスクライトのシリーズ
「Slow coffee styleシリーズ」ドリッパー、カラフェ、マグ等のシリーズデザイン
「libroシリーズ」ソファベンチ、ソファテーブル等のシリーズデザイン

社会活動
日本デザイン学会会員
日本インダストリアルデザイナー協会　環境委員会副委員長
サステナブルデザイン国際会議　委員

森　香織　専任

生年月日
昭和36年01月27日生

略歴
昭和62年03月
筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了
昭和63年03月
筑波大学大学院芸術研究科博士課程研究生修了
昭和63年04月
東京純心女子短期大学美術科助手
平成01年04月
東京純心女子短期大学美術科専任講師
平成06年04月
東京純心女子短期大学美術科助教授
平成08年04月
東京純心女子大学現代文化学部助教授
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：基礎デザイン・視覚伝達デザイン
デザイン・造形の基盤となる形態や色彩の研究を通して美的秩序や構成を、歴史的・地域的・文化的などの多方面から探求する。特に日本の伝統的造形を対象にその「かたち」の結実された背景や造形思考を探るとともに、西欧の造形理論と比較対比しながら、新しい視点からの日本の造形論の組み立てがテーマである。

研究業績
○「グラフィックデザイン全史」(共訳)　淡交社
○「日本のかたちⅠ—構成要因と分類—」　東京純心女子短期大学紀要3
○「日本のかたちⅡ—連続と間—」　東京純心女子短期大学紀要4
○エディトリアルデザイン：雑誌「アイデア」「MJ無線と実験」(誠文堂新光社)、雑誌「Agora」(日本航空)
○「造形基礎と基礎デザイン—デザイン分野における基礎教育の目的と可能性」日本大学芸術学部紀要48号

社会活動
○日本デザイン学会評議員(教育部会幹事)
○基礎デザイン学会会員(運営委員)
○基礎造形学会会員

赤木範陸　非常勤

生年月日
昭和36年09月29日生

略歴
昭和63年03月
東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
平成02年03月
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了
平成07年09月
ドイツ政府給費（DAAD）/ミュンヘン国立芸術大学満期卒業 Dipl.M.A.取得、マイスターシューラー称号授与
平成08年04月
広島市立大学芸術学部非常勤講師（平成14年迄/平成24年～現在）
平成14年04月
尾道大学芸術文化学部非常勤講師(現在に至)
平成16年月
横浜国立大学教育人間科学部助教授
平成19年04月
横浜国立大学教育人間科学部准教授
平成24年04月
横浜国立大学教育人間科学部教授

研究領域
古代、及び古典絵画技法、材料に於ける当時の使用方法に関する文献研究を基礎研究と位置づけている。金地テンペラではボルスの代替品として蜜蝋を用いる研究、エンカウスティークに於いては、下層画きに色を排除した技法研究をしている。メチエとしての使用には換骨奪胎が必要であり、私たちが生きる時代にふさわしい肉付けの後、後代に伝える価値が生まれる。古典技法の自己作品への応用では西洋の過去の真似にしかならない。

研究業績
美術館企画展：
赤木範陸展(由布院美術館、1991年)
EXHIBITION-Landshuter Hochzeit－N.AKAGI（ドイツ、ランツフート市庁舎ギャラリー、2001年）
赤木範陸－錬金術師の軌跡－展（大分市美術館、2001年）
赤木範陸－湯あみ－展(浅倉文夫記念美術館、2002年)
赤木範陸展；濡れ色の神秘－ENKAUSTIK（MOU尾道市立大学美術館、2012年）

社会活動
日本美術家連盟会員、UNESCO国際美術家連盟会員、大学美術教育学会会員、DAAD（ドイツ学術交流会）会員、教育大学協会美術会員

大熊敏之　非常勤

生年月日
昭和34年01月01日生

略歴
昭和57年03月
早稲田大学美術史学専攻卒業
昭和58年04月
北海道立近代美術館学芸員
昭和61年04月
北海道立函館美術館学芸員
平成04年04月
北海道立近代美術館主任学芸員
平成05年04月
宮内庁三の丸尚蔵館研究員
平成10年01月
宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官
平成17年10月
富山大学芸術文化学部准教授
平成23年04月
富山大学大学院芸術文化学研究科准教授
平成26年01月
富山大学大学院芸術文化学研究科教授

研究領域
日欧近世近代美術交流史と伝統的造型技芸史を主な研究分野とする。江戸後期以降の日本美術を対象とした歴史研究にみられる記述手法の問題点を多角的に検証する一方、置物やレリーフ画、額縁等のこれまで日本美術史では論じられることの少なかった複数の造型分野の境界線上に存立する造型物や書、生花、盆栽、人形、模型、手芸など美術史記述の枠外に排除されてきた多様な視覚・造型領域を史的に位置づけ直す試みを研究課題としている。

研究業績
「美術のゆくえ、美術史の現在－日本・近代・美術」(共著) 平凡社
「感覚と構成のはざまで－1930年代の日本画のモダニズム」(日本美術院百年史第6巻)
日本美術院
「工芸と美術史学：絵画性と彫刻性の相克－近代日本における浮彫表現の位相をめぐって」(日本における美術史学の成立と展開) 東京国立文化財研究所
第4回 倫雅美術奨励賞・美術史研究評論部門受賞

社会活動
富山県立近代美術館収蔵作品評価委員ほか

Fine Art and Design

大西若人　非常勤

生年月日
昭和37年05月13日生

略歴
昭和61年03月
東京大学工学部都市工学科（都市デザイン研究室）卒
昭和62年03月
東京大学大学院修士課程中退
昭和62年04月
朝日新聞社に入社、宮崎支局記者
平成02年04月
朝日新聞西部本社学芸部記者
平成06年04月
朝日新聞東京本社学芸部記者
平成11年05月
朝日新聞大阪本社学芸部記者
平成13年09月
朝日新聞東京本社学芸部（のち文化部）記者
平成16年09月
朝日新聞東京本社文化部次長
平成19年09月
朝日新聞東京本社文化部記者
平成22年04月
朝日新聞編集委員

研究領域
美術、建築、写真などの領域に関し、長年取材・執筆してきた経験を踏まえ、こうした視覚表現を現代文化、社会全体のなかに位置づけることを目指す。とりわけ、領域を横断する軸として、「身体」を巡る表現に着目。一方、こうした表現が生まれる背景となっている様々なシステムや文化的、社会的意志の存在も注視している。

研究業績
朝日新聞紙上での執筆のほか、『大地の芸術祭――越後妻有アートトリエンナーレ』（現代企画室）、『リファイン建築へ　青木茂の全仕事』（建築資料研究社）、『文藝別冊　［永久保存版］荒木経推』（河出書房新社）などに寄稿。シンポジウムなどへの参加も多数。

社会活動
国立新美術館評議員
ヒロシマ賞選考委員

小倉洋一　非常勤

生年月日
昭和18年01月15日生

略歴
昭和41年03月
慶應義塾大学経済学部卒業
昭和45年09月
彫刻家助手、造形職人として各種の造形制作に従事、その後イタリアに滞在し制作活動
昭和53年08月
伊国立カラーラ・アカデミア彫刻科卒業
帰国後国内にて制作活動
平成05年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
専門分野：彫刻
人間を作りたいと思って始めた彫刻制作もずいぶん違った様相になってしまった。それでも‘人間’の領域を、手を通して確認する作業を続けていることに変わりはない。また、制作者の視点から彫刻史及び近・現代美術の検証も行なっている。

研究業績
「人・ERODING」、「道」から「ロトの妻／彫刻的植物学」にいたる一連の個展（愛宕山画廊・他）。「体感する美術'96」（佐倉市立美術館）、「ロダン大賞マケット秀作展」（箱根彫刻の森美術館）等。「デイヴィッド・スミス」訳（美術出版／アベヴィル・プレス）、「『西洋の美術』展」等の寄稿（三田評論）、「彫刻家の対話－カロ・チリダ」（彫刻研究室）等。

社会活動
美術館でのワークショップや公開制作相談会。大学や社会人セミナーでの特別講義。

海崎三郎　非常勤

生年月日
昭和27年04月03日生

略歴
昭和50年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和59年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成12年09月
東北芸術工科大学非常勤講師
平成16年04月
跡見学園女子大学短期大学部非常勤講師
平成16年04月
共立女子大学非常勤講師

研究領域
専攻分野は彫刻であり、表現素材は鉄である。扱い方の比較的自在である鉄に対して、負の無垢性とそこから生じるエネルギーに焦点を置きその在り方を探求している。
また、野外空間においては彫刻がもつ内と外の関係を空と大地、場所の特殊性も含めて作品化し、内側に対する志向性と現代彫刻の可能性の接点について試行している。

研究業績
「ROVER02-5」個展　ギャラリーOM
「熱より08-6」個展　ギャラリーせいほう
「左手の能力より」ねりまの美術'91―彫刻の現在―　練馬区立美術館
「ROVER03-1」TUKUBA現代美術の磁場2003展　茨城県つくば美術館
「ROVER03-2」NEW HEAVY展　神戸市CAP HOUSE
「ROVER05-1」麻生の道彫刻展　川崎市
「能力Ⅰ」雨引の里と彫刻2008　桜川市茨城

社会活動
第12回全国健康福祉祭ふくい大会美術展彫刻部門審査員
ワークショップ　福井市立美術館

金子啓明　非常勤

生年月日
昭和22年03月01日生

略歴
昭和48年03月
慶應義塾大学文学研究科修士課程修了
昭和51年05月
東京国立博物館美術課彫刻室研究員
平成07年04月
東京国立博物館法隆寺宝物室長
平成15年04月
東京国立博物館事業部長
平成18年09月
東京国立博物館副館長
平成20年04月
興福寺国宝館長
平成22年04月
慶應義塾大学教授、日本大学芸術学部客員教授

研究領域
日本彫刻史を中心とする日本美術史。文化史の新しいデザインの企画。博物館・美術館等における企画事業（実績：「東京国立博物館・法隆寺宝物館設立事業」、特別展「仏像　一木にこめられた祈り」、「国宝　薬師寺展」、「国宝　阿修羅展」、「国宝　仏頭展」他）

研究業績
（著書）『運慶と快慶』小学館、『文殊菩薩』至文堂、『興福寺の仏たち』東京美術、『法隆寺の仏たち』東京美術、『仏像のかたちと心―白鳳から天平へ―』岩波書店、他。

社会活動
デジタル文化財創出機構理事、日本の象牙彫刻会審査委員長、他。

金澤健一　非常勤

生年月日
昭和31年2月11日

略暦
昭和54年03月
東京藝術大学美術学部工芸科卒業
昭和56年03月
東京藝術大学大学院美術研究科修了
昭和56年～平成08年
株式会社オーヤマデザイン研究所に照明デザイナーとして勤務
平成元年～03年
東京藝術大学美術学部デザイン科非常勤講師
平成24年04月
多摩美術大学美術学部工芸学科非常勤講師
平成24年04月
東北芸術工科大学美術科非常勤講師
平成28年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
工業製品としての金属を出発点とし、幾何学的な構成作品では規則性や偶然性による造形とそれに関わる空間を考え、形と音の関わりをテーマとした作品では科学的、物理的な側面から素材を捉え制作している。ともに金属という素材をいろいろな視点から観察し、その造形の可能性を思考しているといえるだろう。専攻の美術教育研究では、美術と他分野との接点、音楽、科学、身体表現など幅広い視点を持つことを基礎に置く教育の可能性を探っている。

研究業績
「第1回岡本太郎記念現代芸術大賞」準大賞
「はがねの変相—金沢健一の仕事」川崎市岡本太郎美術館
「共鳴する空間　金沢健一　音のかけら」新潟市新津美術館
「第20回記念　現代日本彫刻展」宇部市野外彫刻美術館　毎日新聞社賞、市民賞
「金沢健一「音のかけら」とワークショップ展」川越市立美術館
「金沢健一展　出発点としての鉄　1982－2011」川越市立美術館

社会活動
美術館、小学校,科学館におけるワークショップ及び大学の特別講義。

河東義之　非常勤

生年月日
昭和18年03月22日生

略歴
昭和42年03月
東京工業大学理工学部建築学科卒業
昭和42年07月
東京工業大学理工学部助手
昭和51年04月
国立小山工業高等専門学校助教授
昭和64年10月
国立小山工業高等専門学校教授
平成02年03月
工学博士（東京工業大学）
平成11年04月
千葉工業大学教授
平成11年07月
国立小山工業高等専門学校名誉教授
平成19年04月
日本大学大学院生産工学研究科非常勤講師
平成20年03月
千葉工業大学定年退職
平成23年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成25年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

研究領域
近代日本建築史。特に、「わが国建築界の父」と呼ばれたジョサイア・コンドルに関する研究、明治以降の上流住宅に関する研究など。文化財保存。特に近世・近代の歴史的建造物の調査研究、伝統的町並みの調査研究など。

研究業績
『明治の西洋館』新人物往来社
『ジョサイア・コンドル建築図面集Ⅰ～Ⅲ』中央公論美術出版
『建築探偵術入門』（共著）文芸春秋社
『図説日本建築年表』（共著）彰国社
日本建築学会賞（業績）平成14年

社会活動
東京都文化財庭園の保存・復元・管理等に関する専門委員会委員
千葉市、我孫子市、青梅市、栃木市、小山市等の文化財保護審議会委員

木下　晋　非常勤

生年月日
昭和22年6月4日

略歴
平成11年4月
東京大学工学部建築学科非常勤講師
平成13年4月
武蔵野美術大学造形学部非常勤講師
平成21年4月
金沢美術工芸大学大学院教授
平成25年4月
武蔵野美術大学造形学部客員教授
平成26年4月
金沢美術工芸大学客員教授
平成27年4月
日本大学芸術学部・日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師
平成29年4月
金沢美術工芸大学名誉客員教授

研究領域
私の作品は鉛筆画材10Hから10Bも22段階の濃淡を使い分けて制作している。
だが美術の分野では、油絵の具より古い伝統ながらデッサン等の補足的画材の域を出ていないだろう。未だに文房具が主流なのだ。しかし最近画材としての鉛筆が見直され、今年から高校3年生の美術教科書にも紹介されている。私も携わるものとして啓蒙したいと想うのだ。

研究業績
個展-池田20世紀美術館，平塚美術館，沖縄県立博物館美術館
グループ展－「瀬戸内芸術祭」豊島／香川，「東京＋ベルリンコミュニケーション展」FREIES美術館／ベルリン，「鉛筆のチカラ・木下晋・吉村芳生展」熊本市現代美術館／熊本
北日本新聞芸術選奨（富山県）受賞，紺綬褒章
横浜トリエンナーレ展出品

河野　実　非常勤

生年月日
昭和22年02月11日生

略歴
昭和46年03月
国学院大学文学部史学科卒業
昭和48年07月
町田市立博物館学芸員
昭和59年11月
町田市立国際版画美術館学芸係長
平成12年04月
町田市立国際版画美術館主幹兼学芸係長
平成22年03月
町田市立国際版画美術館退職
平成23年04月1日
鹿沼市立川上澄生美術館館長

研究領域
日本の近世・近代の版画史を専攻する。近世においては、錦絵の登場を技術的側面からの中に求めて、実証研究を行っている。近代については、版画が芸術活動の一端を担うことになる明治時代後期から大正、昭和までの間を、版画家達の動向を骨格に、当時の各種版画運動とその時代的背景についても言及しながら近代版画史を研究している。現在は、昭和前期の版画界の動向について調査を進めている。

研究業績
「版の絵から絵画への萌芽」中央公論美術出版（「近代日本版画の諸相」収録）
「小川破笠画『風のすゑ』の挿図と詩箋」
べりかん社（「江戸文学」収録）
「文学」岩波書店（「第６巻第２号」）
「再考」「小川破笠画『風のすゑ』の挿図と詩箋」
『詩歌とイメージ—江戸の版本・一枚摺に見る夢—』編・著

Fine Art and Design

小林昭世　非常勤

生年月日
昭和30年10月21日生

略歴
昭和56年3月
武蔵野美術大学大学院修士課程修了
平成4年4月
武蔵野美術大学専任講師
平成8年4月
武蔵野美術大学助教授
平成12年4月
武蔵野美術大学教授
この間、(株)三菱総合研究所社会システム部、育英工業高等専門学校講師、イリノイ工科大学研究員、日本大学、名古屋大学大学院、慶応義塾大学大学院、早稲田大学等非常勤講師。

研究領域
デザイン、特に、情報デザインやインタラクションデザインを対象とするデザイン方法論とその理論。また記号論に基づくデザイン理論研究。デザインという概念の成立と変遷に関する歴史、デザイン史。色と形についての、美術、表象文化、生物学等の学際的な思想とその歴史。

研究業績
『意味論的転回―デザインの新しい基礎理論』共訳、『プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ』共著、『現代デザイン事典2010』-『現代デザイン事典2015』共著、『かたち・機能のデザイン事典』共著、『グラフィックデザイン』共著、等

社会活動
日本デザイン学会、日本記号学会、等。

櫻井孝美　非常勤

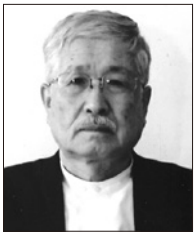
生年月日
昭和19年11月16日生

略歴
昭和43年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和43年04月
山梨県繊維工業試験場勤務(研究員・研究職)
平成07年04月
常葉短期大学非常勤講師
平成18年04月
了徳寺大学日本文化芸術学部教授
平成22年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成27年04月
日本大学客員教授

研究領域
油彩による絵画制作であるが、時には日本画の材料である顔料・岩絵具・紙等を用いた制作研究も行っている。テーマとして意識することは、人間賛歌・自然賛歌・緑と水と太陽であり、更に言えばどんなことがあっても人生に“イエス”と言うような絵を描きたいと願っている。具体的には目に見えない空気・気配・太陽・大地・水等であり、私の生活する富士山とそこに生きる人々を表現する研究制作を行っている。

研究業績
第31回安井賞受賞
第22回昭和会賞受賞
85' 東京セントラル美術館油絵大賞展大賞受賞
IBM I&P展大賞受賞
現代美術の祭典準大賞受賞
山梨県立美術館新人選抜展美術館賞受賞
富士吉田市文化功労者賞受賞
櫻井孝美展(韮崎大村美術館)
紺綬褒章

社会活動
社団法人日本美術家連盟会員
社団法人日本建築美術工芸協会会員
公益社団法人山梨科学アカデミー協会会員
土日会会員
富士吉田市文化協会理事
富士吉田文化振興協会評議員



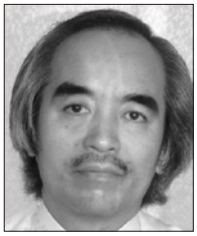
清水敏成　非常勤

生年月日
昭和13年12月05日生

略歴
昭和37年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和43年08月
日本大学芸術学部助手
昭和47年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和53年07月
日本大学芸術学部助教授
昭和58年05月
日本大学芸術学部教授
平成20年12月
定年退職

研究領域
インダストリアルデザイン及びその発想法の研究。ユニバーサルデザインをキーワードにして、様々な製品や製品によって構成される空間等をテーマとした先行的デザインを試みている。また, 最近は企業からの委託研究にも積極的に応えている。併せて、それらの手法・発想法ー生活フィールドの観察から問題を捉えて発想する一連のデザインプロセス研究にも強い関心をもっている。

研究業績
耐熱ガラス製品のデザイン(Gマーク賞等多数)
ユーゴスラビア国際コンペ1席
都市型自転車類のデザイン(世界コンペ2席、環境省サイクルコンペ優秀賞等)
車椅子デザインコンペ(金賞)
秩序と非秩序(平成6〜8年日本大学総長指定総合研究)
ユニバーサルバイクコンペ(優秀賞・環境省)
香りと空間・製品デザイン研究
(大学技術移転・特許申請等多数)



鷲見洋一　非常勤

生年月日
昭和16年12年11日生

略歴
1972年03月
モンペリエ大学文学博士号取得
1973年04月より2007年まで慶応義塾大学に勤務

研究領域
ヨーロッパ18世紀思想・文化史。フランス『百科全書』研究。文化現象を領域横断的方法で複合的・重層的に解釈・解読する態度を貫いている。

研究業績
Le Neveu de Rameau:caprices et logiques du jeu.,Librairie France Tosho,1975(モンペリエ大学博士論文)。
「翻訳仏文法」上・下, 新装改版。ちくま学芸文庫, 筑摩書房、2003年。
「『百科全書』と世界図絵」、岩波書店、2009年。
ジル・ラプージュ「ワグラムの戦い」(翻訳)、新潮社, 1989年。
A・コルバンほか監修「身体の歴史Ⅰ」(監訳)、藤原書店, 2010年。

社会活動
日本フランス語フランス文学会会員。
日本18世紀学会会員。

鷹尾俊一　非常勤

生年月日
昭和25年2月18日生

略歴
昭和48年03月
日本大学芸術学部美術学科中退
昭和48年04月
彫刻家
平成10年10月
創価大学教育学部　非常勤講師
平成13年04月
日本大学芸術学部　非常勤講師
平成27年04月
日本大学大学院芸術学研究科　非常勤講師

研究領域
人体彫刻、人間像を主たる研究分野としている。素材はブロンズ及び樹脂を中心に制作している。
彫刻の長い歴史の中で人間像は、多くの作品と経験を持っているが、彫刻としての人間像はその内に内包される生命とその形の問題、それを形作る物質の問題、それが存在する空間の問題として捉えることが出来るだろう。この問題を変化と関係性という視点から見つめ、現代における人間像の新たな意味と可能性について探っている。

研究業績
第16回昭和会展　優秀賞　日動画廊　東京
神戸具像彫刻大賞展　優秀賞　神戸ポートアイランドパーク　兵庫
第3回高村光太郎大賞展　特別優秀賞　美ヶ原高原美術館　長野
「秘められたフォルムを刻む」鷹尾俊一彫刻展　西武アートフォーラム　東京
丸の内仲通り彫刻展　有楽町　東京
TUES1996鷹尾俊一彫刻展　美ヶ原高原美術館　長野
鷹尾俊一彫刻展「像」　A&Dギャラリー、アートギャラリー　日本大学芸術学部　東京

社会活動
公益財団法人　東京富士美術館　理事

土田　修　非常勤

生年月日
昭和18年01月02日生

略歴
昭和41年03月
日本大学芸術学部美術学科工業デザイン専攻卒業
昭和41年04月
(有)古川卓一デザイン事務所勤務
昭和47年01月
デザインオフィス デコム設立に参画
昭和48年04月
赤井電機株式会社デザイン部長
昭和63年09月
カシオ計算機株式会社デザインセンター長
平成03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成16年04月
カシオ計算機株式会社デザインセンター長退任後
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)
平成25年01月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
デザインオフィス、製造業のデザイン部門等の物作りの現場勤務の経験から「使い手側の要件を、作り手側の限られた条件で如何に充たすか(含、商品企画開発)」を、実践的工業デザインで追求する。また工業デザインと言う行為から生ずる文化的、社会的、経済的効果に対しても強い関心を持つ。産学協同研究、デザイン研究委託業務にも積極的に関わりを持つ。

研究業績
(財)関西自転車産業協会デザインコンペティション　特選
ユーゴスラビア国際デザインコンペティション特選1席
(財)日本産業デザイン振興会国際デザインコンペティション　特選2席
(財)日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞金賞
英国　D&AD賞
昭和48年～63年　赤井電機株式会社のオーディオ、ビデオ、電子楽器等の同社製品全てをデザイン・ディレクション
昭和63年～平成16年　カシオ計算機株式会社の電子楽器、電子カメラ、映像機器、セルラー、時計、電子文具、電子辞書、電卓等の同社製品全てをデザイン・ディレクション

寺内曜子　非常勤

生年月日
昭和29年07月27日生

略歴
昭和52年03月
女子美術大学芸術学部造形学専攻卒業
昭和53年03月
女子美術大学芸術学部造形学専攻研究科修了
昭和56年07月
英国Saint Martin's School of Art彫刻専攻Postgraduate Advanced Course修了
昭和58年09月-昭和59年08月
ヘンリー・ムーア財団フェローとして、アーティスト・イン・レジデンス(ロンドン)
平成02年02月-平成09年01月
英国Winchester School of Art非常勤講師
平成11年04月-平成13年03年
実践女子短期大学非常勤講師
平成14年10月
愛知県立芸術大学美術学部油画専攻助教授
平成19年04年
愛知県立芸術大学美術学部油画専攻教授

研究領域
専攻分野:美術(彫刻・インスタレーション)
「物」を創るというよりも、「事」から必然的に表れる形や状況を提示する方法で制作をしている。観客の立つ展示空間ごと巨大な作品に取り込んでしまう場所限定のインスタレーション『空中楼閣』で、見える世界がいかに見えないままにあるかを経験させる場を提供する等、素材や媒体にこだわらずに、私たちの世界認識の限界を具現化することを試行している。

研究業績
「The Sculpture Show」Hayward Gallery
「色彩とモノクローム」東京国立近代美術館
「空間体験」国立国際美術館
＜個展＞ かんらん舎／ Victoria Miro ／ギャラリー小柳／Chisenhale Gallery ／メンヒェングラッドバッハ市立美術館 他
＜パブリックコレクション＞国立国際美術館／Victoria& Albert Museum他多数

社会活動
第47回神奈川県美術展審査員

中島安貴輝(中島忠家)　非常勤

生年月日
昭和18年01月30日生

略歴
昭和41年03月
日本大学芸術学部美術学科造形卒業
昭和41年04月
株式会社高島屋宣伝部勤務
昭和47年
ピクトリアル研究所設立
昭和48年01月
財団法人沖縄国際海洋博覧会協会
企画調整室デザイン担当
昭和51年01月
デザイン事務所アートアンドグラフィック主宰
平成05年04月
愛知県立芸術大学非常勤講師
武蔵野美術大学非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野:視覚言語、シンボル、タイポグラフィ、サインシステム、ロゴマーク
研究テーマ:グーテンベルク、印刷技法、組版、紙、ピクトグラム、イデオグラム、ペトログリフ、錯視、形の意味性、視覚詩、文字デザイン、デザインの知的所有権

研究業績
ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ入賞
ニューヨークタイプディレクターズクラブ入賞
日本タイポグラフィ年鑑ベストワーク賞
全国カタログ・ポスター展グランプリ
日本サインデザイン協会SDA賞
IOCベストセレクションポスター
パーマネントコレクション:ドイツ・グーテンベルクミュージアム、ドイツ・クリングスポールミュージアム、武蔵野美術大学資料館

社会活動
日本グラフィックデザイナー協会会員
日本タイポグラフィ協会会員
日本デザイン学会会員
ドイツ・グーテンベルグゲゼルシャフト会員
一般社団法人国際文化研究所理事
日本キャンプ協会専門委員

Fine Art and Design

深谷基弘(中山光美)　非常勤

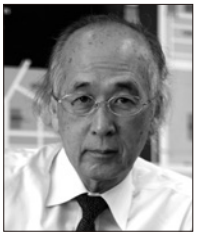
生年月日
昭和17年05月15日生

略歴
昭和43年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和43年04月
高田秀三建築設計研究室勤務
昭和46年04月
深谷研究室(建築設計)主宰
昭和47年06月
日本大学芸術学部助手
昭和52年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和58年05月
日本大学芸術学部助教授
平成02年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野:建築一伝統技法
〈伝えるということは、教える側にあるのではなく、仕事を覚えてやろう、盗んでやろうとする側の血の出るような一方的な努力のサイクルの中にある〉という伝統の本質と普遍性を棟梁達の生き様から学び確信した意義は大きい。〈思いて取る、味わいて知る〉は「五重塔」の作者である幸田露伴の言葉に対峙した姿勢である。露伴に習い〈想いて盗る、実践をして識る〉を建築に対する基本姿勢としている。

研究業績
著作
「図解・木造建築伝統技法事典」　彰口社
「図解・木造伝統工法・基本と実践」　彰口社
論文
「棟梁の技術思想に学ぶ」
新建築連載全16回
「棟梁に学ぶ家の総括＝丸ごとつかめ」
新建築
作品
日本建築学会三宅島研修所(旧・棟梁に学ぶ家)
山村再生計画(不造住宅推進システムの構築)

社会活動
日本建築学会
新日本建築家協会
棟梁に学ぶ家代表



西川　潔　非常勤

生年月日
昭和21年5月27日生

略歴
昭和44年03月
東京教育大学教育学部美術学科卒業
昭和46年03月
東京教育大学教育学部研究科修士課程修了
昭和54年07月
筑波大学講師芸術学系
平成08年04月
筑波大学教授芸術学系
平成09年03月
博士(デザイン学)取得(筑波大学)
平成16年04月
国立大学法人筑波大学芸術専門学群長
平成21年04月
国立大学法人筑波大学副学長
この間信州大学、長崎大学、愛知県立芸術大学、武蔵野美術大学の非常勤講師や銘伝大学、ブライトン大学の客員教授を務める

研究領域
視覚伝達デザイン分野。特に環境に関わるサイン計画、環境グラフィック、色彩計画、屋外広告景観等の調査及び制作に努める。また標識や信号等を撤去し安全な道路づくりを目指すShared Spaceの研究にも取り組んでいる。

研究業績
著書:「広告景観」2015 ぎょうせい 「屋外広告の知識・デザイン編」監修/執筆 2006 ぎょうせい 「医療施設のサイン計画デザインマニュアル」2002 学芸出版社 「ビレッジ サイン/英国フォークロアのデザイン」(共著) 1987 玉川大学出版会
学術論文:「交通機関のサインフェイスデザインリニューアル試案」(共著) 2005 筑波大学芸術学研究(JR東日本との共同研究成果の一部)「LANDMARKS IN THE LARGE-SCALE MEDICAL FACILITIES」(共著) 2005 THE 2ND CONFERENCE, BRASIL
制作:「ひたち医療センターサイン・アート計画 2014 「東京都立健康長寿医療センターサイン・アート計画」2013 「文京区サイン計画」共同 2012 「筑波大学学生宿舎色彩計画」共同 2011 「つくば市サイン計画」共同 2009 (日本デザイン学会作品賞)
社会活動:「首都高中央環状線換気棟デザイン選考委員」共同 2010 グッドデザイン大賞

藤戸幹雄　非常勤

生年月日
昭和24年05月20日生

略歴
昭和48年03月31日
東京造形大学インダストリアルデザイン学科卒
昭和48年04月01日
日産自動車入社
昭和55年08月
Royal College of Art Automotive Design Course 留学
平成02年01月
商品企画室　主担
平成09年07月
Nissan Design Europe GmbH Managing Director 平成12年01月
Helsinki University of Technology, Managing Researcher
平成27年04月
京都工芸繊維大学名誉教授

研究領域
デザインとイメージの関係を研究しております。デザインがどのように社会、企業活動、我々の生活に役に立つのか？どのような書物を見てもあいまいとしています。これをできるだけ定量でとらえ、どうしたらデザインを広く有効利用できるかを研究しています。
デザインをうまく利用すれば、環境、イメージ、品質、また団体においては、その活動に広がりを持たせることができます。

研究業績
製品デザイン開発における日欧米自動車メーカーの比較研究
Enlargement of the Design Domain and Front-loading of Design Decision- Making in a Product Development Process
Comparative Research on Japanese, European and American Automobile Industries in Product Design Development,
Basic research on transition of design domain and design role in Japanese electric industry -By the use of "Design domain map

社会活動
日本デザイン学会
日本インダストリアル協会

前田富士男　非常勤

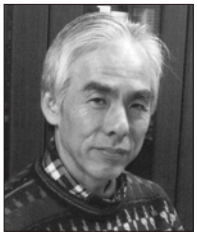
生年月日
昭和19年02月04日生

略歴
昭和41年03月
慶應義塾大学工学部管理工学科卒業
昭和43年03月
慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻卒業
昭和46年03月
慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和49年03月
慶應義塾大学大学院博士課程単位取得退学
昭和49年11月
神奈川県立近代美術館(鎌倉)学芸課
昭和50年10月
西ドイツ政府DAAD留学(西ドイツ・ボン大学)
昭和53年04月
北里大学教養部専任講師
昭和60年04月
慶應義塾大学文学部助教授
平成03年04月
ドイツ・ミュンヘン大学客員研究員
平成22年04月
中部大学人文学部教授
平成27年04月
中部大学客員教授／慶應義塾大学名誉教授

研究領域
ヨーロッパ近代絵画史絵画論、美術史学方法論、芸術理論史、アート・ドキュメンテーション。とくにパウル・クレー研究、ゲーテの色彩論・形態学、20世紀初めにおけるデザイン理論や生命主義的芸術観、アーカイヴ論など。

研究業績
ゲーテ『色彩論・完訳版』、工作舎、1999年。『パウル・クレー　絵画のたくらみ』(とんぼの本)、新潮社、2007年。『パウル・クレー　造形の宇宙』慶應義塾大学出版会、2012年。『色彩からみる近代美術』、三元社、2013年。『ディルタイ全集第5巻　詩学・美学』、法政大学出版局、2015年。

社会活動
アート・ドキュメンテーション学会会長
形の文化会副会長
DNP文化振興財団評議員



吉岡正人

非常勤

生年月日
昭和28年08月15日生

略歴
昭和55年03月
武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
昭和57年03月
筑波大学大学院芸術研究科修了
昭和60年04月
埼玉大学教育学部講師
昭和61年04月
埼玉大学教育学部助教授
平成04年08月
文化庁芸術家在外研修員として渡伊（～平成05年8月）
平成09年04月
東京学芸大学大学院連合学校博士課程Ｓ教員併任
平成13年04月
埼玉大学教育学部教授
平成24年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成28年04月
武蔵野美術大学非常勤講師

研究領域
専攻分野：絵画（洋画）
主に卵テンペラと油彩による絵画作品を制作している。平面としての強さと美しさを求めており、その絵画性をもって深い精神性の追求を目的としている。古典から近代の絵画を研究し絵の具の扱い方と平面性の関係を研究している。

研究業績
二紀展に於いて文部科学大臣賞他受賞
第3回前田寛治大賞展大賞受賞（1995年）
個展「パラッツォプレトリオ」（イタリア1998年）
個展「日本橋三越本店」（1991年より7回）
「思い出のファンタジー二人展」（パラッツォベネチア国立美術館・イタリア）
作品収蔵・文化庁、埼玉県立近代美術館他
著書「モネ・名画に隠れた謎を解く」（中央公論新社・平成19年）他

社会活動
一般社団法人二紀会理事
越生町教育委員会委員（平成7年～16年）
大学美術教育学会会員

Musical Arts

池田直樹　専任

生年月日
昭和25年06月24日生

略歴
昭和48年03月
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
昭和51年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程卒業
昭和55年10月～56年10月
文化庁芸術家在外研修員としてドイツ留学
平成20年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
声楽曲全般を研究対象とし、オペラでは、モーツァルトの作品を中心に、ドイツ語圏のオペラを研究し、新国立劇場公演や東京二期会オペラ劇場公演に多数出演し、演奏体験も重ねている。歌曲の分野ではドイツ歌曲、中でもシューベルトの作品に深く興味を持ち、その芸術性の分析を継続している。また、日本歌曲についても、日本語歌唱の技術の確立と、伝承に努めている。

研究業績
演奏
在京のプロ・オーケストラの全て、さらに日本各地のプロ・オーケストラとベートーヴェンの「第九交響曲」他で共演。共演した指揮者は、ズデニェク・コシュラー、ラファエル・フリューベック・デ・ブルゴス、ハインリッヒ・ホルライザー、ヘルベルト・プロムシュテット、オンドレイ・レナルト、朝比奈　隆、小澤征爾、秋山和慶の諸氏の他多数。オペラは、新国立劇場、二期会オペラ劇場の公演で『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』など多数出演。
出版
平成14年04月
「声の力」
O
岩波書店刊

社会活動
財団法人東京二期会幹事

伊藤弘之　専任

生年月日
昭和38年04月01日生

略歴
昭和61年03月
山形大学教育学部卒業
昭和62年08月
東京音楽大学研究科中退
平成01年06月
カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部大学院修士課程修了（MAを得る）
平成06年09月
カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部大学院博士課程修了（PhDを得る）
平成14年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成22年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
作曲。「揺れるイメージ」「フラジャイルな美しさ」と言うコンセプトのもと、独奏、室内楽、合唱、オーケストラと多様な編成で作品を書いている。邦楽器を用いた作品もある。細部まで緻密に構成し四分音を多用する音響づくりが特徴的である。現代の記譜法の研究、作曲ツールとしてのコンピュータの使用、コンサートのプロデュース活動なども行っている。

研究業績
受賞歴：芥川作曲賞、ヌオヴェシンクロニー国際作曲コンクール第１位、他
作品：オーケストラのための「ミラー II」（サントリー音楽財団委嘱、新日本フィルハーモニー交響楽団により初演）、「弦楽四重奏曲」（武生国際音楽祭委嘱、アルディッティ弦楽四重奏団により初演）、他多数
CD：「伊藤弘之作品集：Swaying time, Trembling time」（ミュージックスケイプ）、「伊藤弘之作品集：Swaying into Darkness」（フォンテック）、他
論文："Swaying Sensation and Fragile Beauty" in *Music of Japan Today* (Newcastle: Cambridge Scholars Publishing, 2008), 6-11.

社会活動
芥川作曲賞、武生作曲賞などの審査員
武生国際作曲ワークショップ講師
JML音楽研究所理事
アンサンブル・コンテンポラリーα副代表

今泉　久　専任

生年月日
昭和28年08月27日生

略歴
昭和51年03月
日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和53年03月
日本大学芸術学部芸術研究所修了
昭和58年04月
日本大学芸術学部助手
昭和63年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助教授
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
指揮と打楽器を研究領域とする。指揮についてはこれまでオーケストラ、吹奏楽、オペラ、打楽器アンサンブル、フルートオーケストラ、合唱等の指揮活動を行なってきた。打楽器については独奏曲、打楽器合奏曲、オーケストラ等の打楽器パートの演奏法の研究をしている。「今泉久とパーカッション・グループ"打弾打団"」を主宰している。

研究業績
演奏会
第２回打楽器リサイタル
練馬文化センター小ホール　1987
新星日本交響楽団演奏会
五反田ゆうぽうとホール　1994
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団特別演奏会　新宿文化センター大ホール2002
今泉久とパーカッション・グループ"打弾打団"演奏会　浜離宮朝日ホール　2004
フランス近代の室内管弦楽の愉しみ
石橋メモリアルホール　2004

社会活動
日本管打・吹奏楽学会会員
吹奏楽コンクール審査員
日本クラシック音楽コンクール審査員

萩原貴子（緒方貴子）　専任

生年月日
昭和45年9月25日生

略歴
平成6年　東京藝術大学音楽学部器楽科卒業
平成3年　ミュンヘン国立音楽大学中退
平成9年　東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程卒業
平成9年～平成17年　武蔵野音楽大学非常勤講師
平成13年～現在　東京藝術大学非常勤講師
平成12年～13年　洗足学園音楽大学非常勤講師
平成21年～現在　洗足学園音楽大学非常勤講師
平成27年～平成28年　日本大学芸術学部非常勤講師
平成28年04月～現在　日本大学芸術学部教授

研究領域
フルート奏法及び、フルート教育法研究。バロックから現代までの幅広いレパートリーに対応した演奏表現の実践。
"人の心に響く""音を出す"ということが何であるか、特に、管楽器奏法の基礎である呼吸法、物理的に理にかなった体の動かし方と結びつけることを研究テーマにしている。

研究業績
第61回日本音楽コンクールに於いて、当時史上最年少優勝。加藤賞受賞。ソリストとして国内外の主要オーケストラや演奏家とコンチェルトや室内楽を演奏する。
CD　美空ひばりオン・フルート「愛燦燦」（日本コロムビア）
CD　カルメンファンタジー2001（日本コロムビア）
CD　モーツアルトフルート四重奏曲集with ザルツブルク・モーツァルテウム弦楽四重奏団～トルコ行進曲～（日本コロムビア）
CD　アジアに吹く風（NHK-BSサウンドトラック）
など録音活動は全24枚に及ぶ。
バンドジャーナル連載
ワンポイントレッスン

社樹活動
全日本学生音楽コンクール審査員
全日本吹奏楽コンクール審査員
大学評価・学位授与機構音楽部会委員
アジアフルート連盟理事

川上　央　専任

生年月日
昭和43年08月08日生

略歴
平成14年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程中退
平成17年07月
フランス国立音楽音響研究所（IRCAM）招聘研究員
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
生態音響学をベースにした音の研究。
音とは物質の振動によるものであり、物質の振動には励起が必要である。この生態音響学的な考え方をベースにして、振動に関わる諸情報を分析し、コンピュータによってシミュレーションを行っている。また、バーチャル環境とリアル環境での音の知覚の違いを検討することによって、より人間の知覚に基づいた音の研究を行う。

研究業績
・小西、福本、三浦、三戸、川上、「平均モーション法を用いたスネアドラム練習曲における感情演奏の動作解析」、音楽知覚認知研究、17（1&2）, pp.35-40, 2012
・Tardieu, J., Susini, P., Poisson, F., Kawakami, H., McAdams, S.(2009). The desigh and evaluation of an auditory way -finding system in a train station, Applied Acoustics, Vol.70 (9), 1183-1193
・Kawakami, H.(2009). Research on reduction of unpleasantness while continuous listening to Acoustic Signs. Proceedings of the 10th Western Pacific Acoustics Conference.

社会活動
日本音響学会幹事
日本音楽知覚認知学会常任理事

斉田正子　専任

生年月日
昭和33年09月25日生

略歴
昭和57年03月
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
昭和59年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和63年04月
昭和音楽大学非常勤講師
平成04年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了〈博士（音楽）〉
平成12年04月
日本大学芸術学部研究所助教授（非常勤）
平成20年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
学生からの研究テーマとして、修士課程ではヴェルディのオペラ、博士後期課程では19世紀イタリアベルカントオペラを取り上げ、オペラにおける発声法及び歌唱法について研究を続けている。国際文化教育交流財団の奨学生としてイタリアにて（1984～86）研鑽を積み日本における数々のオペラやコンサートへの出演を通し、留学前からの課題としての現代における日本のオペラのあり方及び上演方法について、その発声法及び演奏法について研究を続けている。

研究業績
1. 第35回ミュンヘン国際音楽コンクール声楽部門第２位入賞他、国内外のコンクールにて入賞
2. エクソンモービル音楽賞奨励賞他数々の賞を受賞
3. 藤原歌劇団公演オペラ「椿姫」ヴィオレッタ役でデビュー後、数々のオペラコンサートに出演

社会活動
国際文化教育交流財団評議委員
日本演奏連盟会員
藤原歌劇団正団員

田代幸弘　専任

生年月日
昭和33年06月15日生

略歴
昭和57年03月
日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和59年04月
日本大学芸術学部副手
昭和63年04月
日本大学芸術学部助手
平成05年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成11年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
ピアノ奏法および教育法の研究
バロックでは、バッハ、古典派では、ハイドン、ベートーヴェン、ロマン派では、ショパン、シューマン、ブラームス、近・現代では、ラフマニノフ、スクリャービン、ドビュッシー、ラヴェルの楽曲を研究し、様式感、心理的高揚の表現法を探求する。ピアノ、ソロ曲に限らず、室内楽曲にまで幅を広げている。

研究業績
・田代幸弘ピアノ・リサイタル　平成04年11月　FM東京ホール
・田代幸弘ピアノ・リサイタル　平成11年12月　ルーテル市ヶ谷センター
・田代幸弘ピアノ・リサイタル　平成17年12月　IMAホール
・田代幸弘ピアノ・リサイタル　平成19年11月　オペラシティ・リサイタルホール
・オデッサ第6回室内楽フェスティバル2台ピアノ・リサイタル　平成25年11月

社会活動
・練馬区演奏家協会会長
・公益財団法人日本ピアノ教育連盟評議員
・北関東コンクール審査委員長
・国際デュオ協会理事
・日本演奏連盟会員

土野研治　専任

生年月日
昭和30年10月07日生

略歴
昭和53年03月
国立音楽大学音楽学部声楽科卒業
昭和53年04月
埼玉県立越谷養護学校教諭
平成09年03月
認定音楽療法士（日本音楽療法学会）
平成13年04月
昭和音楽大学音楽芸術運営学科助教授
平成14年04月
国立音楽大学非常勤講師
平成17年04月
神奈川県立保健福祉大学非常勤講師
平成18年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成22年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
発達障がい児の音楽療法を中心に実践研究を行い、近年は後天性脳損症児や重度重複障がい児の音楽療法も実践している。音楽療法における「声」や「身体」を研究テーマとしている。また仏教的ホスピス ビハーラでの音楽療法も研究課題としている。バリトンリサイタルを開催し自己表現力を探求している。

研究業績
障害児の音楽療法～声・身体・コミュニケーション（春秋社）
心ひらくピアノ　自閉症児と音楽療法士の14年（春秋社）
音楽療法を知る -その理論と技法-（杏林書院）
日本の文化土壌と音楽療法～日本の音楽療法を〈声〉と〈身体〉から考える～　日本音楽療法学会誌第13巻1号 2013年
土野研治 独唱会　平成28年5月　音楽の友ホール

社会活動
日本音楽療法学会常任理事
日本音楽療法学会編集委員長（学会誌）
日本芸術療法学会理事

Musical Arts

楊　麗貞（蛭子麗貞）　専任

生年月日
昭和24年03月07日生

略歴
昭和46年03月
桐朋学園大学音楽学部卒業
昭和49年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成03年04月
桐朋学園大学音楽学部非常勤講師
平成05年04月
日本大学芸術学部研究所教授（非常勤）
平成22年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
古典から近現代まで幅広い音楽の研究に取りくんでいる。その中でロマン派音楽、特にショパンにおいては、大半の曲を演奏会で取り上げ思考を重ねている。演奏するにあたり、それぞれの作曲家の生きて来た背景、音楽感を考えてみる。また、実際の演奏上の奏法、レガート、強弱、ニュアンス、美しい音色、タッチ、充実感のある音、歌心…と、ピアノの可能性を充分に引き出す魅力ある演奏を追求していきたい。

研究業績
第36回日本音楽コンクール第１位
第１回日本ショパン協会賞受賞
リサイタル
東京文化会館、紀尾井ホール、カザルスホール、Ｎ響、都響、読響、日本フィル、新日フィル、東フィル等主要オーケストラと共演
公開講座開催
CD「ショパン名曲集」　ビクター
CD「24の前奏曲」　アートユニオン
CD「ワルツ集」　キング
CD「ショパンアルバム」　ライヴノーツ

社会活動
日本音楽コンクールを始め、各コンクール・オーディション審査員
毎年チャリティコンサートを企画、出演
日本演奏連盟会員
（公財）日本ピアノ教育連盟会員
日本ショパン協会理事

芦川紀子　非常勤

生年月日
昭和22年06月22日生

略歴
昭和50年03月
お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程修了
昭和50年04月
洗足学園大学音楽学部非常勤講師
昭和53年04月
お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師
昭和62年04月
日本大学芸術学部非常勤講師（現在に至る）
平成13年04月
九州芸術工科大学助教授
平成15年10月
九州大学大学院芸術工学研究院准教授
平成24年03月
九州大学大学院退職
平成25年04月
法政大学スポーツ健康学部兼任講師

研究領域
音楽学・西洋音楽史・音楽マネジメント論
19世紀前半のビーダーマイヤー時代におけるサロンとコンサートについての研究。ルネサンス・バロックから20世紀までの歴史と体系的視点から発想したコンサートのプロデュースから、マネジメント論の構築を目指す。

研究業績
「西洋音楽史―西洋音楽の遺産―」（共訳）新時代社
「ミューズの贈り物　―西洋音楽史の旅」（単著）河出書房新社
「モーツアルトをひらく鍵」（共著）　春秋社
「ドイツ・リート研究ノート　その１～４」洗足論叢
「ベネディクト・ラントハルティンガーのリート」音楽学第40巻（3）

社会活動
科学振興調整費プロジェクト「ホールマネジメントエンジニア育成ユニット」サブリーダー（九州大学）
《音楽の実験室Ⅰ－Ⅹ》企画制作（グリーンホール相模大野）（2004年７月：第４回大宮眞琴音楽賞受賞）
オペラ実験工房（2003年―2009年）

板倉駿夫　非常勤

生年月日
昭和21年04月12日生

略歴
昭和45年03月
東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
昭和45年04月
（財）日本フィルハーモニー交響楽団入団
昭和47年04月
（財）読売日本交響楽団入団
平成13年04月
日本大学芸術学部研究所教授（非常勤）
平成15年04月
日本大学芸術学部教授
平成26年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
管楽器における奏法の基礎、筋肉の働き、呼吸法、口蓋の変化、動きについての研究。また、金管奏者にとってのメインテーマである高音域での奏法についての研究。管楽アンサンブルにおける各楽器群の音色、バランス、様式についての研究。古典より現代までの作曲家による作品の中より、特に管弦楽、吹奏楽、室内楽、独奏作品を基として、演奏様式、合奏での音色、役割、表現法、楽曲分析などの研究。

研究業績
「トランペット・コルネット教本」
ドレミ楽譜出版社
「うまくなろう！トランペット」
音楽之友社
「クラッシック・名曲プロムナードⅠ・Ⅱ」監修
ドレミ楽譜出版社
「ワンポイント・レッスン」
バンドジャーナル連載
「新しい楽器学と演奏法」
ヤマハ株式会社編（共著）

社会活動
日本管打楽器コンクール審査員
日本音楽コンクール審査員
日本管打吹奏楽学会
日本トランペット協会常任理事
宮崎日日新聞社音楽コンクール審査員

稲川榮一　非常勤

生年月日
昭和20年08月06日生

略歴
昭和44年03月
東京藝術大学音楽学部器楽科卒業
昭和45年11月
読売日本交響楽団へ入団
昭和48年09月
ケルン市立ギュルツェニッヒ管弦楽団へ入団
昭和49年06月
ベルリン藝術大学卒業
昭和55年09月
国立R. シューマン音楽大学非常勤講師
昭和56年09月
ドイツ連邦共和国軍音楽教育隊非常勤講師
昭和64年09月
読売日本交響楽団プランニング・ディレクター
平成07年04月
東京藝術大学音楽学部専任講師
平成25年04月
東京藝術大学名誉教授

研究領域
専門楽器の奏法、古典から現代までのレパートリー研究、楽器開発。小編成室内楽から管弦楽、吹奏楽等大編成におけるアンサンブル法。

研究業績
ドイツ各地、日本各地でチューバ・リサイタルを開催、ケルン金管５重奏団を結成、ビッテン市現代音楽祭に出演、読売日本交響楽団及びニッポン・シンフォニーと協奏曲を共演。ロニー金管５重奏団結成。ケルン市より栄誉音楽家の称号を得る。チューバ教本（ドレミ出版社）
ワンポイントレッスン（音楽の友社）
CD／ロニー金管５重奏団“ブラスアンサンブルの世界”“クリスマス物語”
DVD／吹奏楽指導法“これからの指揮法・合奏指導法”（まじかるふぇいす社）

社会活動
日本管打楽器コンクール審査員
フランス.アルザス国際音楽コンクール審査員
ドイツ.マルクノイキルヒェン国際音楽コンクール審査員、コンセール・マロニエ21審査員
ドイツ.デトモルト音大にてマスターコース特別講師
オランダ.マーストリヒト国際チューバ・フォーラム特別講師
楽器開発（ヤマハ）（アレキサンダー）（アントン）（ミラフォーン）（ヨゼフ・モンケ）各社

上原興隆　非常勤

生年月日
昭和18年08月09日生

略歴
昭和41年03月東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。
昭和43年日独交換留学生（DAAD）として西独に留学。ひき続き、ポーランド、イタリアで研鑽を積む。通算在欧5年。日本音楽コンクール入賞。国際ロベルトシューマンコンクール入賞。
昭和49年より昭和58年まで愛知県立芸術大学にて講師、助教授を歴任。
昭和58年より平成21年まで東京学芸大学にて助教授、教授を歴任。その間、他にお茶の水女子大学、フェリス女学院大学、桐朋学園大学等で非常勤講師を歴任。

研究領域
ピアノ楽曲全般にわたる中、特にドイツ音楽の古典ロマン派の楽曲を得意とする。
特にベートーヴェン、シューマン、ブラームス等の演奏曲目多数。

研究業績
・ハンガリー政府主催第4回インターフォーラムにて演奏（プロコフィエフソナタ6番等）
・第125回毎日ゾリステン（ベートーヴェンのソナタ等）
・演奏生活20周年3夜連続リサイタル
　ベートーヴェンのタ
　シューマンのタ
　ブラームスのタ
・続3夜連続リサイタル
　シューベルトのタ
　シューマンのタ
　ベートーヴェンのタ
・後期のベートーヴェンのソナタ群のリサイタル

社会活動
日本ピアノ教育連盟審査員
毎日新聞社主催学生音楽コンクール審査員
ちばコンクール審査員
ソレイユコンクール審査員

笠羽映子　非常勤

生年月日
昭和24年06月25日生

略歴
昭和47年03月
東京芸術大学音楽学部楽理科卒業
昭和51年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和56年03月
パリ第4大学音楽学研究科博士課程修了
昭和58年04月
早稲田大学社会科学部専任講師
昭和60年04月
早稲田大学社会科学部助教授
平成02年04月
早稲田大学社会科学部教授

研究領域
西欧近・現代の芸術音楽史及び作品研究
ドビュッシーからブーレーズに至るフランスの作曲家の作品研究及び音楽思想の研究を軸に、幅広く西欧音楽芸術の変遷を考察しつつ、日本における音楽芸術の諸問題や芸術・文化の国際交流などをも探究している。

研究業績
学術論文
《La musique de Debussy au Japon》（Cahiers Debussy No 10）
《Retour sur *Le Martyre de Saint Sébastien*》（Cahiers Debussy No 24）
Claude Debussy,《*Le Martyre de saint Sébastien*》
《Œuvres Complètes de Claude Debussy, SérieVI, volume 4, édition de Pierre Boulez et Eiko Kasaba, Éditions Durand, 2009》
訳書
ドビュッシー『ドビュッシー書簡集』
ルシュール『伝記クロード・ドビュッシー』（以上音楽之友社）
ブーレーズ『クレーの絵と音楽』（筑摩書房）
ブーレーズ『現代音楽を考える』（青土社）

社会活動
日本音楽学会会員
日本フランス語フランス文学会会員
Société Française de Musicologie 会員

北岡晃子　非常勤

生年月日
昭和41年09年08日生

略歴
平成02年05月
テキサスキリスト教大学音楽学部ピアノ科卒業
平成02年09月―平成03年09月
カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（UCLA）大学院音楽学部修士課程在籍
平成04年05月
南カリフォルニア大学大学院音楽学部修士課程修了
平成12年04月―平成13年03月
仁愛女子短期大学非常勤講師
平成12年05月
ボストン大学大学院音楽学部音楽芸術博士課程修了
平成15年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成21年04月
宮城大学共通教育センター准教授
平成24年04月
東京福祉大学准教授

研究領域
芸術に関する英語文献を解読して、音楽作品の創作、表現、技術、鑑賞、評論を研究する。
日常から、音楽学、理論、音楽教育、情報音楽、音楽療法など、音楽家としての知識・教養を与えるものから作品分析や演奏解釈まで、幅広い内容と多様な形式の英語文献に触れ、通訳・翻訳も数多く手がける。特にピアノ音楽の研究講演と演奏に力を注ぎ、国内外で活動している。

研究業績
論　文「Study of Beethoven' s String Quartet Op.131 No.1.」
「The Piano Works of Akio Yashiro」
ブラゾスバリー交響楽団演奏会「モーツァルトピアノ協奏曲」

社会活動
日本ピアノ教育連盟中央運営委員
日本音楽学会会員
Pi Kappa Lambda会員
国際ピアノデュオ協会会員

佐々木　伸　非常勤

生年月日
昭和31年01月06日生

略歴
昭和53年03月
武蔵野音楽大学卒業
昭和55年07月
藤原歌劇団入団
第20回日伊声楽コンコルソ（東京）1位入賞
後ミラノに6年間在住
平成03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成20年
洗足学園音楽大学非常勤講師

研究領域
演奏家育成のための歌唱法指導を研究領域とするため、学生を数々の演奏会へ招致するなど、より実践的な指導を実施する。また門下生にはコンクールにて入賞等の実績を収める。
演奏家育成に際し、学生個々の特性を活かした5段階の歌唱法指導が必要と考え、基礎部としての呼吸法の見直しにはじまり、それぞれの芸術性と個性を観客に理解してもらうための演奏法及び舞台マナーまでを教示する。
18年間の歌唱法指導の経験を基に、自身執筆論文でも取り上げた、イメージ伝達指導法も交えながら、学生育成に努める。

研究業績
第20回日伊声楽コンコルソ（東京）1位入賞。
イタリアにてベニア・ミーノ・ジーリ国際コンクール2位入賞及びTV・ラジオ等に出演。
オペラ「蝶々夫人」にタイトルロール出演等、オペラ公演に多数出演。論文「声楽家育成における発声テクニックのイメージ伝達」。
門下生のコンクール実績一部抜粋：全日本学生音楽コンクール入選・日本クラシック音楽コンクール入賞／入選・日本声楽コンクール入選／読売新人演奏会出演等。

社会活動
藤原歌劇団団員
日本クラシックコンクール審査員
株式会社チッタエンタテイメント主催オペラコンサート音楽監修

Musical Arts

澤崎眞彦　非常勤

生年月日
昭和19年07月15日生

略歴
昭和46年03月
東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了
昭和46年04月
東京学芸大学教育学部助手
平成05年11月
東京学芸大学教育学部教授
平成22年04月
東京学芸大学名誉教授

研究領域
芸術教育：音楽教育学・日本音楽教育史
日本の音楽教育の史的展開について、学校教育を対象として研究を行っている。特に、明治５年以降今日までを対象とし、音楽教育界をはじめ音楽界の動向、教育思想、教育行政、更には社会的背景等をも含めたものである。その中でも、音楽教育（唱歌教育）成立への過程、制度の確立、音楽教育観、教材の変遷などを主な研究対象としている。また、日本人と洋楽との出会いについて、版画（長崎絵、横浜絵、錦絵等）なども研究の対象に含めている。

研究業績
編著　「唱歌」大空社
共編著　「なつかしの音楽教科書」ヤマハミュージックメディア
監修・解説　CD「新訂尋常小学唱歌」東芝ＥＭＩ
論文　「明治初期における唱歌教育の試み―『音楽取調掛』設置前にみる―」　音楽教育学の展望Ⅱ（上）　日本音楽教育学会「日本の音楽教育・人間とその軌跡－幾尾純と唱歌教育（１～10）－」　音楽教育研究第16巻第１～11号　音楽之友社
「歌唱教材の変遷」「教材学」現状と展望（下）・日本教材学会

社会活動
日本教材学会会員・常任理事
音楽学習学会会員

四戸世紀　非常勤

生年月日
昭和26年03月27日生

略歴
昭和49年03月
東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
昭和49年03月
ベルリンフィルハーモニーオーケストラアカデミー入学
昭和50年09月
ベルリン交響楽団ソロクラリネット奏者
平成07年10月
読売日本交響楽団首席クラリネット奏者
平成18年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成23年01月
東京音楽大学客員教授
平成27年04月
東京音楽大学教授

研究領域
オーケストラのスタンダードレパートリーにおけるクラリネットの音色と表現の研究。古今のソロレパートリーの伝統的表現とテクニックの追求。20世紀・21世紀の作品の要求する表現をカバーする新しいテクニックの研究（重音奏法、スラップ、フラッタータンギング等）

研究業績
第一回国際ブラームスコンクール入賞特別賞も受賞。ベルリンフィルオーケストラアカデミーメンバーとしてカラヤン指揮ザルツブルク音楽祭に参加。平成24年同アカデミー40周年記念オーケストラに招待されサイモン・ラトル指揮ベルリンフィルハーモニーで演奏
CD「ブラームスクラリネット室内楽４曲」（DENON）
CD「モーツァルトクラリネット五重奏曲」（TDK）
CD「ベートーヴェン七重奏曲」（TDK）
CD「四戸世紀クラリネットリサイタル20世紀の音楽を集めて」（カメラータ）
CD「ドイツロマン派の光と陰」（カメラータ）

社会活動
日本音楽コンクール審査員
日本管打コンクール審査員
ジャックランスロー国際コンクール審査員
ベルギー・ゲント国際クラリネットコンクール審査員
クラリネット協会常任理事

清水泰博　非常勤

生年月日
昭和32年10月21日生

略歴
昭和55年03月
日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和56年04月
日本大学付属高等学校講師
昭和57年03月
日本大学芸術学部芸術研究所修了
昭和58年04月
東京都公立小・中学校教諭
平成05年09月
文科省海外派遣研修員（Pleasant Hill District）
平成10年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科研究生修了
平成16年03月
東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了
平成16年04月
日本大学芸術学部音楽学科非常勤講師

研究領域
生涯学習の基盤となる音楽科教育における、ティーチング・スキルの習得と新たな教材開発を主たるテーマとしている。特に、世界の諸民族の音楽・我が国の音楽・20世紀の音楽の教材化に焦点をあて、既存のカテゴリーを越えたパフォーミング・アーツ、ファイン・アーツ、リテラリー・アーツ、モーション・ピクチャー、サウンド・デザイン、メディア等からの多様なアプローチによる開発の可能性を発信し、理論と実践とを結ぶより実際的な研究に取り組んでいる。

研究業績
論文
「小学校音楽科における音と動きのアプローチ」
「創造的な表現力を育成する魅力ある学習活動の工夫」他
著書
「文部科学省学習指導要領音楽解説」
「音楽教育実践指導全集　全７巻」（共編著）
「教員養成基礎シリーズ」（共著）
「器楽学習指導図集」（単著）

社会活動
文部科学省学習指導要領作成協力者（音楽）
NHK学校放送番組制作委員
日本音楽教育学会
都小音研作曲コンクール審査委員

髙木雄司　非常勤

生年月日
昭和18年09月14日生

略歴
昭和42年03月
東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
昭和42年04月
㈶日本フィルハーモニー交響楽団入団
平成19年03月
日本大学芸術学部音楽科非常勤講師

研究領域
いかに無理をせずに上手に身体を使って楽器を鳴らすか。聴き手に魅力ある音楽を伝えるか、長年の体験を室内楽、独奏作品に時代の演奏様式、表現法を研究指導すること。

研究業績
40年間のオーケストラ演奏。
バッハ無伴奏チェロ組曲全曲演奏（アコスタジオ）
ハイドン，二長調　ドボルザーク、チャイコフスキー、サンサーンス、ボッケリーニ、ブラームス二重協奏曲等協奏曲の演奏
年間20回～40回の室内楽の演奏

社会活動
ピティナアドバイザー

寺田悦子（渡邊悦子）　非常勤

生年月日
昭和25年生

略歴
昭和46年05月
ウィーン国立アカデミーピアノ科卒業
昭和48年05月
ジュリアード音楽院大学院ピアノ科修了
昭和49年08月
インディアナ大学ピアノ科アーティストディプロマ在籍（昭和52年まで）
平成12年04月
日本大学芸術学部研究所助教授（非常勤）
平成15年04月
日本大学芸術学部研究所教授（非常勤）

研究領域
バロックから近現代までの幅広いレパートリーにおいて各時代様式を踏まえた演奏スタイルとピアノという楽器の機能を最大限に生かした独自の音色の確立をめざす。特にショパンやシューマン等に代表されるロマン派の楽曲の演奏には定評があり、東京における定期的なリサイタルの他、これまでにＮ響を始め国内の代表的なオーケストラとの協演、外国でのリサイタルや協演も数多い。近年はデュオピアノの演奏も多く、またＣＤも数多くリリースしている。

研究業績
第２回アルトゥーロ・ルービンシュタイン国際コンクール金賞受賞・日本ショパン協会賞
第６回リーズ国際ピアノコンクール入賞
リサイタル
東京文化会館大ホール
東京文化会館小ホール「ウィーンへの回帰」
サントリーホール大ホール（６回）
紀尾井ホール（平成12年以降毎年２回定期的に開催）
共演
Ｎ響、日本フィル、読響、都響、東フィル、東響他　日本の各オーケストラ
「プラハの春」　プラハ放送交響楽団
イスラエルフィル、ドレスデンフィル、他オーケストラ

社会活動
ＮＨＫ毎日新聞社主催日本音楽コンクール審査員及び楽壇委員
全日本学生コンクール全国大会審査員
東京音楽コンクール審査員
ピティナコンクール全国大会審査員
フィンランド、ドイツ等ヨーロッパにおいてマスタークラスを行う

丹羽勝海　非常勤

生年月日
昭和13年08月02日生

略歴
昭和36年03月
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
昭和36年09月
米国カルファルニア大学大学院・ジュリアード音楽院大学院留学
昭和45年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和44年06月
日本大学芸術学部専任講師
昭和47年07月
日本大学芸術学部助教授
昭和58年05月
日本大学芸術学部教授
昭和20年08月
日本大学教授定年退職

研究領域
声楽唱法（ベル・カント唱法、カウンターテナー唱法等）
イタリア古典から現代声楽曲、ドイツ古典、近代現代歌曲、フランス中世から現代に至る声楽曲、特にフランス歌曲、日本歌曲等を個人レッスンで教授する。オペラ、バロックから現代まで、オペレッタ、ミュージカル等フランス歌曲における詩と音楽の関係、自作を含めた日本現代声楽曲の研究には特に力を注いでいる。

研究業績
修士論文「カウンターテナー概論」
論文「柴田南雄の声楽作品に於けるカウンターテナー的唱法」について
サントリー音楽財団推薦「丹羽勝海リサイタル」
他リサイタル数10回
二期会オペラ「オテロ」、「タンホイザー」、「ローエングリン」のタイトルロールはじめオペラ出演数百回
Ｎ響はじめ日本の主要オーケストラと年末ベートーヴェン「第九交響曲」テノールソロ数百回

社会活動
元日本声楽発声学会理事長（4期12年）
二期会会員
日本歌曲研究会「あぽろんの会」
及び「フランス声楽曲研究会」主宰

平野　昭　非常勤

生年月日
昭和24年09年21日生

略歴
昭和54年03月
武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了
昭和54年04月
武蔵野音楽大学音楽学科研究員
昭和56年04年
武蔵野音楽大学教育文化研究所助手
平成元年04月
尚美学園短期大学講師・翌年助教授
平成08年04月
沖縄県立藝術大学音楽学部助教授
平成11年04月
沖縄県立藝術大学大学院音楽芸術研究科教授
平成12年04月
静岡文化芸術大学文化政策学部教授
平成21年04月
静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長
平成23年04月
慶應義塾大学文学部美学美術史学教授

研究領域
西洋音楽史学及び美学。音楽学全般と音楽評論。専門研究対象は18世紀及び19世紀の音楽様式変遷、とりわけ古典派とロマン派の器楽作品の様式研究。J.S.バッハから新ウィーン楽派にいたるドイツ・オーストリアの音楽史を作品研究だけではなく、社会学的観点から音楽受容史と文化史の脈略で読み直している。ベートーヴェン研究を生涯課題とし、特に交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノソナタ創作に共通する表現語法と理念を探求したい。

研究業績
編著訳書：『音楽キーワード事典』（春秋社）『ベートーヴェン』（新潮社）、『鳴り響く思想：現代のベートーヴェン像』『ベートーヴェン事典』（東京書籍）、『ベートーヴェン大事典』（平凡社）、『人と作品：ベートーヴェン』（音楽之友社）他。
論文：「19世紀のベートーヴェン受容：楽譜出版から見えてくるもの」、「21世紀のベートーヴェン像：新しい評伝の可能性」、「もうひとつのディアベッリ変奏曲」、「ベートーヴェン神話の形成とその音楽」。

社会活動
日本音楽学会会員、国際音楽学会会員、日本18世紀学会会員、三田芸術学会会員。日本音楽コンクール・ピアノ部門審査員、浜松国際ピアノコンクール運営委員。浜松市楽器博物館運営協議会委員、新日鉄住金文化財団洋楽委員。音楽評論活動（毎日新聞他）。

古澤　泉　非常勤

生年月日
昭和21年03月10日生

略歴
昭和46年03月
東京芸術大学音楽部声楽科卒業
昭和47年04月
尚美高等音楽学院非常勤講師（昭和52年３月退職）
昭和49年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和55年09月
ベルリン国立芸術大学声楽科卒業
昭和59年04月
群馬大学教養学部非常勤講師（平成17年３月退職）

研究領域
専攻分野は、ドイツ歌曲、オラトリオ、日本歌曲、オペラ、発声である。研究テーマとしては、ドイツ歌曲を専門的に学ぶと同時にイタリア発声を学び、それらを通してドイツ歌曲、日本歌曲との融合、より高度な品格を備えた芸術的自己表現を試みている。また、歌曲、オペラアリア等声楽演奏における最も自然な息の流れ、体の使い方等を具体的に考察し、発声習得を試みながら、歌詞と旋律のかかわりや内面的表現を研究する。

研究業績
あだ「雪之丞」三木稔作曲　日本オペラ協会
黒船「領事」山田耕筰作曲　日本オペラ協会
修禅寺物語「頼家」清水脩作曲　日本オペラ協会
愛の妙薬「ネモリーノ」愛知芸術劇場日生劇場協催
魔笛「タミーノ」日中国交正常化15周年記念

社会活動
日本オペラ協会会員

Musical Arts

堀江真理子　非常勤

生年月日
昭和30年02月01日生

略歴
昭和54年06月
パリ国立高等音楽院ピアノ科 室内楽科卒業
昭和56年12月
パリ国立高等音楽院第三課程（大学院）修了
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成15年04月
愛知県立芸術大学音楽学部非常勤講師（平成19年03月退職）
平成26年04月
尚美学園大学及び同大学院教授

研究領域
フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルを中心にクープラン、ラモー以来のフランス音楽の伝統と和声語法、音楽語法、ピアニズムを研究している。フランス音楽独特の和声は色彩感に富み、リズムや動きは光や風などの自然の営みに合致している。それらを音で表現するためには、指の精緻なメカニズム、打鍵のコントロール、ソノリティに対する総合的な感覚と心身の柔軟性が非常に重要だと考え、合理的で自然な奏法と音色の探求を続けている。

研究業績
ジュネーブ国際音楽コンクール　ピアノ部門第3位
ガブリエル・フォーレピアノ曲・室内楽曲全曲演奏会〈8回シリーズ〉カザルスホール
ガブリエル・フォーレ生誕150年記念コンサート
サル・ガヴォー（パリ）
フォーレの肖像〈3回シリーズ〉日本大学カザルスホール
明治から大正にかけて生まれた日本の作曲家のピアノ作品の演奏、並びに楽譜の出版、CD制作
レクチャーシリーズコンサート「日本のクラシック音楽の歩み」
著作
「堀江真理子のピアノペダルテクニック」
〈基礎編・教則DVD付〉〈実践編〉
「ペダルの練習帳Ⅰ」
ヤマハミュージックメディア

社会活動
日本ピアノ教育連盟運営委員
日本フォーレ協会会員
国際ピアノデュオ協会理事

三浦章宏　非常勤

生年月日
昭和36年06月09日生

略歴
昭和59年03月
筑波大学第二学群人間学類卒業
昭和60年04月
NHK交響楽団（平成10年12月退団）
平成03年04月
国立音楽大学非常勤講師
平成11年04月
新星日本交響楽団首席コンサートマスター
平成13年04月
東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター
平成19年04月
洗足学園大学非常勤講師
平成28年04月
日本大学芸術学部客員教授

研究領域
ヴァイオリン奏法の基礎から応用への手順、それぞれの楽曲の具体的演奏方法。
アンサンブル、オーケストラでの役割を理解した上での奏法。

研究業績
第53回日本音楽コンクールヴァイオリン部門入選
第21回東京国際コンクール弦楽四重奏部門で斉藤秀雄賞受賞
第25回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第2位入賞（第1位なし）
コンサート
コンチェルトリサイタル　徳永二男指揮・東京フィル　東京オペラシティコンサートホール
バッハ無伴奏ヴァイオリン全曲リサイタル
千川アヴェニューホール
ブラームス　ヴァイオリンソナタ全曲リサイタル　東京文化会館小ホール
2013室内楽シリーズ　ヴェーラ弦楽四重奏団
ベートーヴェン全曲演奏会（完結編）　横浜みなとみらいホール小ホール

守山光三　非常勤

生年月日
昭和19年10月30日生

略歴
昭和42年03月
東京藝術大学音楽学部器楽科卒業
昭和47年08月
旧西独ベルリン音楽大学器楽科卒業
昭和43年09月
ベルリン交響楽団
昭和46年02月
ベルリン・ドイツオペラ管弦楽団
昭和47年09月
ライン・ドイツオペラ／ドゥイスブルク交響楽団
昭和53年09月
新日本フィルハーモニー交響楽団
東京音楽大学非常勤講師
昭和54年04月
東京藝術大学非常勤講師
昭和62年04月
東京藝術大学助教授
平成11年04月
東京藝術大学教授
平成24年04月
東京藝術大学名誉教授
茨城大学教育学部特任教授
平成26年04月
日本大学藝術学部非常勤講師

研究領域
ホルンをはじめとする金管楽器奏法の科学的解明を土台とする金管楽器指導法の研究。
ホルンを中心とする楽曲に関する歴史的アプローチ。

研究業績
新潟大学工学部原研究室との共同研究「歯頻面接触圧力による金管楽器奏者のアンブシュア制御パラメータの同定」　2001年
日本体育大学芸術研究室清田研究室との共同研究「HORN吹奏時における口腔内圧と呼出速度の関係」　2003年
「フレンチホルン演奏技法」フィリップ・ファーカス著・訳本／全音楽譜出版社　1995年
「管楽器のためのスケール・トレーニング」東亜音楽社／音楽の友社　1999年　他

社会活動
日本音楽コンクール運営委員及び審査員、ジュネーブ国際音楽コンクール審査員、チェジュ国際コンクール審査員

Performing Arts

穴澤万里子　専任

生年月日
昭和41年02月17日生

略歴
平成04年06月
パリ第３大学（ソルボンヌ）演劇学科卒業
平成06年06月
パリ第３大学大学院演劇研究科修士課程修了
平成08年06月
パリ第３大学大学院演劇研究科博士課程D.E.A.修了
平成11年04月
パリ第３大学交換留学制度で慶応義塾大学大学院文学研究科に特別学生として留学（平成12年03月まで）
平成13年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成18年04月
日本大学芸術学部准教授
平成25年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年03月
ストラスブール大学大学院比較文学博士号取得

研究領域
専門分野：西洋演劇美学
主にメーテルリンクを中心とする象徴主義演劇と、その時代の演劇と美術の関わりをライフワークとして研究している。
フランスを中心に、今、世界でどんな演劇が行われ、どんな作品が人々の心を捕えるのか、演劇という媒体を通して“今”を探っていきたい。

研究業績
「演劇学の教科書」（共訳）国書刊行会
「ユビュ王」日本大学芸術学部紀要28、29号
「20世紀の日本の女性演劇人５人」仏・Editions des femmes
「メーテルリンクと日本人」ベルギー、Textyles

社会活動
日本演劇学会会員
国際演劇評論家協会理事、同日本センター事務局長
日仏演劇協会会員

大久保惠児　専任

生年月日
昭和28年02月11日

略歴
昭和52年3月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
以後、ホログラフ作家を目指し渡米。
昭和55年
（株）ノーマンインターナショナル（セールスプロモーション）入社
昭和57年
（株）共立　舞台照明契約社員
以後フリーランスとして多数の音楽イベントツアー、ミュージカル等々にオペレーター・プランナーとして従事する。
平成12年4月
日本大学芸術学部演劇学科専任講師
平成18年4月
日本大学芸術学部演劇学科助教授
平成19年4月
日本大学芸術学部演劇学科准教授
平成24年4月
日本大学芸術学部演劇学科教授

研究領域
各ジャンルに於ける舞台照明デザイン。舞台上で使用される光に関わる視覚表現全般についてのデザインを対象としている。

研究業績
串田和美演出『ユビュ王』、照明デザイン
加藤直演出『周辺飛行』＜ボクたちの安部公房＞―イメージの展覧会より―照明デザイン
加藤直演出「地図マニア」―ボクたちのNowhere Land韓国公演（韓国ソウル　中央大学校アートセンター大劇場）照明デザイン。
加藤直演出「地図マニア・扉編」（日中韓合同公演）照明デザイン

社会活動
照明学会会員

神永光規　専任

生年月日
昭和23年09月05日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和49年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
昭和53年04月
日本大学芸術学部助手
昭和57年03月
日本大学芸術学部専任講師
平成元年04月
日本大学芸術学部助教授
平成07年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：演出論・日本近代演劇史
劇性が多様化し、骨太な人間が創出するドラマが稀薄となっている今日、近代人が刻んだ劇的世界を検証することは大切である。そこから自己実現への道筋が見えてくるからである。演出者とは、自他の関係において潜在下の能力をいかに惹き出すかの一点に極まる。ドラマが現代に劇場性をとり戻し、その力をいかに発揮するか普遍的問いかけとしている。韓国を中心にアジアのコモンセンスを追求している。

研究業績
「演出者・岡倉士朗の軌跡」
日本大学芸術学部紀要
「農民劇作家・大島萬世」『芸術学』
「講座日本の演劇　近代の演劇Ⅰ・Ⅱ」（共著）勉誠社
「講座日本の演劇　現代の演劇Ⅱ」（共著）勉誠社
「20世紀の戯曲Ⅱ　現代戯曲の展開」（共著）社会評論社

社会活動
東洋演劇学会（在ソウル）設立など日韓演劇学術交流

小林直弥　専任

生年月日
昭和44年07月10日生

略歴
平成04年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成04年04月
日本大学芸術学部演劇学科補助員
平成08年03月
日本大学大学院芸術学研究科舞台芸術専攻修了
平成08年04月
日本大学芸術学部演劇学科副手
平成12年04月
舞踊文化研究所主任研究員
平成14年03月
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻満期退学
平成14年04月
日本大学芸術学部助手（助教）
平成18年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部准教授
平成26年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
日本の演劇史及び芸能史、また民俗芸能の立場から日本芸能や日本舞踊をはじめとする我が国の舞踊文化について研究している。また、中国や韓国をはじめ、広くアジアの舞踊・芸能との身体的かつ歴史的な観点からの比較研究や実践的な文化交流を行いながら、現在は、これからの日本の舞踊文化における創作舞踊領域の可能性について研究している。

研究業績
『アジアの舞踊表現における共通言語の発見Ⅱ―日本の舞踊における「振」、その意義と役割―』日本大学芸術学部紀要第64号
『創作舞踊試論（二）―日本舞踊を用いた創作舞踊の技法と表現・方法論の構築―』日本大学芸術学部紀要第65号

社会活動
日本演劇学会会員
舞踊学会会員
民族藝術学会会員
藝能学会会員
社団法人日本舞踊協会会員

Performing Arts

千早正美　専任

生年月日
昭和25年11月11日生

略歴
昭和48年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和60年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専門分野：演出、舞台監督、劇場技術
上演芸術における舞台監督（舞台監督論・テクニカルディレクター論）の在り方を研究している。また、多目的ホールの概念から専門ホールへの移行、創造空間への試み、コミュニティー文化の核としてのホールを中心に公立文化ホールから公共劇場へのテアトロジーを考察している。

研究業績
「大学における照明教育について」　舞踊学
「スタッフへの道・舞台監督を志す人へ」　テアトロ
「写実舞台における照明デザインの考え方～構想と設計～」　日本大学芸術学部紀要
「光学技術と舞台芸術」　化学工学
「光と演出・中村吉蔵『剃刀』における照明の一考察」　日本大学芸術学部紀要
「科学技術用語辞典」（共著）三修社

社会活動
日本照明家協会広報委員
日本舞台監督協会
舞踊公演等における演出・舞台監督

原　一平　専任

生年月日
昭和25年07月14日生

略歴
昭和49年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和51年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
昭和55年04月
日本大学芸術学部助手
昭和59年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成03年04月
日本大学芸術学部助教授
平成09年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
〈かぶき〉を戯曲構造の面からとらえ、鶴屋南北を始めとする18世紀以降の演劇史を専攻研究。また、民俗芸能としての地芝居・人形浄瑠璃の実情調査も行っている。さらに、京劇を始めとする中国伝統演劇にも研究領域を拡げたい。

研究業績
共著「アジアの芸術論－演劇理論集」　勉誠社
共著「現代／実用・日本舞踊曲大全集」　組本社
論文「大鹿歌舞伎の芸態－『六千両後日文章』を例に－」（長野県下伊那郡大鹿村教育委員会調査報告書）
地芝居、アマチュアかぶき、学生かぶき等の演出、演技指導、出演など多数
中国・中央戯劇学院客員教授、中国戯曲学院客員教授
日中演劇交流・話劇人社理事

范　旅（FAN LYU）　専任

生年月日
昭和34年07月20日生

略歴
昭和59年07月
中国国立北京舞踊学院卒業
昭和59年09月
中国広東省歌舞劇院入団（舞踊教師として）
昭和63年09月
留学のため来日
平成02年03月
東京サンシャイン外国語学校修了
平成05年03月
日本大学芸術学部芸術研究所修了
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成07年04月
日本大学芸術学部演劇学科副手
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成14年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
アジアの文化と伝統芸能の視点から東洋的な身体表現法を中心に、その歴史と体系、現状と形態を研究する。また従来の東洋的な表現特徴を分析しながら西洋の身体論と比較し、現代における舞踊表現の可能性と作品創作法を探る。

研究業績
論文
「胡楽・胡舞～日・中芸能史研究の課題として～」日本大学芸術学部紀要第32号
「時代に翻弄された京劇舞台の裏表」日本大学芸術学部紀要第56号
創作
肉体表現演劇『蛛網』演出・振付
自主公演と舞踊創作『エンのメッセージ』／演出・振付
自主公演と舞踊創作『ミズカガミ』／演出・振付
主な現代舞踊作品『極』『砂塵』『輪』等

社会活動
アジア演劇教育研究センター日本支部連絡担当

藤崎周平　専任

生年月日
昭和32年06月29日生

略歴
昭和55年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成02年12月
日本大学芸術学部助手
平成06年12月
日本大学芸術学部専任講師
平成13年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現代演劇における演技及び方法の研究。
近代以降の主にナチュラリズムの表現のための基幹となったスタニスラフスキーの方法論及び、その派生であるメソード演技の実践研究。それらの方法を土台とした演技訓練法の開発など。

研究業績
A・チェーホフ作『かもめ』演出における—考察　日本大学芸術学部紀要23号
Animal Exercise—その内容と実践について—　日本大学芸術学部紀要33号
「役」と「演じる役者」の関係について　日本大学芸術学部紀要45号
演劇の「専門」学科における「基礎」教育をめぐる問題　演劇学会紀要44号
新演技の基礎のキソ（単著）

社会活動
日本演劇学会理事
東京演劇大学連盟理事

丸茂祐佳（丸茂美惠子）　専任

生年月日
昭和29年11月19日生

略歴
昭和52年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成元年04月
東京国立文化財研究所芸能部調査員（非常勤）
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成09年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成12年03月
韓国国立韓国芸術綜合学校舞踊院招聘講師
平成13年03月
日本大学より博士（芸術学）取得
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
動作分析を中心に日本舞踊の本質と理論を探っている。近年はモーションキャプチャを用いた舞踊研究に従事し、日本舞踊の身体の科学的な解明を試みた。それらの成果を発展させ、現在、舞踊と美術、文系と理系の融合によって日本舞踊の身体の源流を探り、日本舞踊学の確立を目指している。

研究業績
単著
「二世花柳壽應 一期一會」花柳壽應
「舞曲扇林－日本舞踊 基本と本質－」私家版
「おどりの譜－日本舞踊 古典技法の復活－」国書刊行会
「舞踊 正派若柳流史 第Ⅱ期」正派若柳会
「日本舞踊　西川流史」西川流宗家
論文
「日本舞踊の基礎動作『オクリ』に現れる女らしさの特徴解析」舞踊学27

社会活動
舞踊学会常務理事
文化審議会委員（文化功労者選考分科会）
文化庁芸術祭審査委員
国立劇場舞踊公演専門委員などを歴任

織田紘二　非常勤

生年月日
昭和20年03月01日生

略歴
昭和42年03月
国学院大学文学部日本文学科卒業
昭和42年04月
特殊法人国立劇場入社。芸能部制作室
平成元年04月
芸能部制作室・公演監事室室長
平成11年04月
調査養成部部長
平成15年04月
芸能部部長
平成19年10月
独立行政法人日本芸術文化振興会理事
平成22年04月
同　顧問

研究領域
研究対象というほどのこともないが、長年たずさわってきた歌舞伎の演出の巾を広げてみたいし、戯曲研究にも力を注いでみたい。伝統芸能全般に渡り、ありうべき創作の可能性を探ってみたいとも思う。現在の伝統芸能の姿の中から、新らしい方向を目指して伸びる芽も必要だが、何が正しい伝統なのかを見極わめる目も必要であり不可欠だ。正統を評価するより高い能力を身に付けることが、目指す領域である。

研究業績
「歌舞伎モノがたり」淡交社
「ぜんぶ芸のはなし」淡交社
「新版歌祭文」白水社
「松緑芸話」講談社
「三島由紀夫芝居日記」中央公論社
「芸と人一戦後歌舞伎の名優たち」演劇出版社

社会活動
社団法人日本演劇協会専務理事
社団法人日本舞踊協会副会長
芸能学会理事　ほか

小田幸子（渡辺幸子）　非常勤

生年月日
昭和24年03月14日生

略歴
昭和47年03月
立教大学文学部日本文学科卒業
昭和47年04月
法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻修士課程入学
昭和56年03月
法政大学大学院博士課程単位修得
平成10年03月
法政大学より（博士論文提出）文学博士号授与
昭和53年10月
武蔵野女子大学非常勤講師
昭和57年04月
法政大学文学部非常勤講師。同能楽研究所兼任所員
平成04年04月
聖徳大学助教授
平成12年04月
東京文化財研究所芸能部調査員
平成14年04月
日本女子大学非常勤講師
平成20年04月
明治学院大学非常勤講師

研究領域
能狂言研究・演劇批評
能狂言の作品研究および演出史。
型付・装束付等の演出資料をもとに、能の古態を究明し、現在に至る変化の相を辿る。作品研究では、特に世阿弥以後の作者に焦点を当てる。平成12年以降、古典劇を取り入れた現代劇に関する批評を執筆。復曲・新作・古演出のドラマトゥルクなど、古典と現代、研究と舞台を橋渡しする活動を行なう。

研究業績
学術論文
「能の舞台装置―作り物の歴史的考察―」
「能の演技と演出―装束付・型付をめぐる諸問題―」
「修羅能出立の変遷」
「女能のエロティシズム」
「ホラーとしての能―現代能楽集Ⅰ AOI／KOMACH再演」
「シェイクスピア狂言の可能性―『国盗人』を中心に」

社会活動
平成22～24年 文化庁主催芸術祭 審査員（演劇部門）

加藤みや子（畦地みや子）非常勤

生年月日
昭和23年05月14日生

略歴
昭和43年04月
桑沢デザインスクール卒業
昭和52年10月～同53年10月
文化庁在外派遣研修員としてNY、パリで研修。帰国後、加藤みや子ダンススペースを設立。
平成01年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成16年09月
日本女子体育大学非常勤講師
平成19年04月
お茶の水女子大学非常勤講師
平成19年12月
文化庁在外特別派遣研修員として米、仏、独で研鑽。アーティストインタビューを重ねる。
平成25年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師
平成25年09月
日本女子体育大学非常勤講師

研究領域
振付家ソロダンサーとして多くの先駆的な作品を発表し、内外に認められ多くの作品を発表。ヨーロッパ、アメリカ等巡演。08年にはブラジルの五都市を国際交流基金主催事業として巡回する。コラボレーションを作品に取り組み、Hot Head Worksを立ち上げ、ジャンルを越えてアーティストが集結するフェスティバルのディレクションをする。
ダンスアーカイブの活動の中に過去の発見と今が繋がっている事を実感し検証している。一方、未来に向い五感フル活用のワークショップを地域や学校で展開。創造力を育む教育の大切さを伝えている。

研究業績
東京新聞主催全国舞踊コンクール三部門第一位文部大臣賞江口隆哉賞ニムラ舞踊賞等受賞
「からだの知性が次代の文化を創造する」gapan forram 21

社会活動
国加藤みや子ダンススペース主宰
現代舞踊協会常務理事
全国舞踊コンクール創作部門審査員
ニムラ舞踊賞審査員

Performing Arts

戸田宗宏　非常勤

生年月日
昭和17年09月16日生

略歴
昭和40年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和49年04月
日本大学芸術学部助手
昭和53年01月
日本大学芸術学部専任講師
昭和60年04月
日本大学芸術学部助教授
平成04年04月
日本大学芸術学部教授
平成15年10月
中国中央戯劇学院客員教授

研究領域
アートシアター新宿文化、アンダーグランド蝎座、安部公房スタジオなどの演劇企画制作の経験をもとに、アートマネージメントにおける諸要素を考察し、社会学・経済学などの立場から演劇の価値を研究。また、演劇のもつ可能性を追求し、教育・医療・福祉などの領域での活用を考究している。

研究業績
戸田宗宏プロデュース公演「動物園物語」企画制作
安部公房スタジオ公演「愛の眼鏡は色ガラス」企画制作
三島由起夫追悼公演「近代能楽集」企画制作
自主公演「語・演・歌」企画制作
東京室内ミュージカル公演「赤ずきんちゃん」・「白雪姫」演出

社会活動
内外（アメリカ・カナダ・ブラジル等）の高齢者に対する福祉文化活動
精神障害者共同作業所「ひあしんす城北」演劇療法活動

貫　成人　非常勤

生年月日
昭和31年07月05日生

略歴
1980年　東京大学文学部哲学科卒業
1985年　東京大学大学院人文科学研究科哲学専修博士課程単位取得満期退学
1988年　埼玉大学教養学部専任講師
1990年　同助教授
2000年　専修大学文学部教授

研究領域
[1] 舞踊に関しては、①舞踊の制作、また、観客としての舞踊体験のメカニズムについての、現象学や哲学的美学、認知心理学、引き込み理論などの諸観点からの分析、②日欧の舞踊をめぐる社会史・経済史・政治史などの分析にもとづく舞踊史の再構築、③上演実態調査などにもとづく日欧など各国文化政策、アートマネジメントの研究。[2]身体文化論（哲学、各地域の身体文化史など）、歴史理論（物語論、世界システム論、複雑系理論など）、現象学、哲学史研究。

研究業績
『経験の構造：フッサール現象学の新しい全体像』（勁草書房、2003年8月）
『歴史の哲学　物語を超えて』233+xxiv、2010年8月、勁草書房
『バレエとダンスの歴史：欧米劇場舞踊史』鈴木晶編、平凡社、2012年3月14日310頁、「コンテンポラリーダンス」229–253頁）
「身体の拡散とダンスの豊穣化」『Who Dance? 振付のアクチュアリティ』早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、2015年12月20日、82～92頁。
Übersetzbarkeit von Tanz: Der Fall Butoh, in Tanz anderswo: Intra- und interkulturell, hrsg. von K. Kruschkova und N. Lipp, Lit Verlag, 2004, S.121–133.

社会活動
2010、2014年度 京都賞選考専門委員会委員
2015年 青山ダンスDNA実行委員会理事
2015年 ドイツ学術交流会（DAAD）奨学生選考委員
『照明家協会雑誌』『ダンスマガジン』『読売新聞』などに舞踊評執筆

宮尾慈良　非常勤

生年月日
昭和23年11月09日生

略歴
昭和51年03月
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程修了
昭和55年06月
ハワイ大学大学院博士課程留学
ハワイ・イースト・ウエスト・センター研究員
平成03年04月
東京女学館大学助教授
平成09年04月
早稲田大学文学部非常勤講師
慶応義塾大学文学部非常勤講師
平成12年03月
博士（芸術学）取得

研究領域
日本演劇の歴史は、アジアから渡来した外来文化と固有文化の混交からなりたってきた。豊かな文化や新たな芸能は、今日では世界演劇を代表する能、狂言、文楽、歌舞伎などに発達した。現在、視点を変えて、アジア演劇のなかで、日本演劇は独自性をもつかどうかを考察してみる。アジア演劇における精神性を研究するには、民俗に根ざした芸能の伝承形態を分析することによって、明確にすることができると考える。

研究業績
「アジアの人形劇」三一書房
「アジア舞踊の人類学」PARCO出版
「宇宙を映す身体－アジアの舞踊」新書館
「アジア演劇人類学の世界」三一書房
「アジア人形博物館」大和書店
「舞踊の民族誌」彩流社
「東南アジア演劇史の研究」鼎書房
「比較芸能論」彩流社

社会活動
ユネスコ・アジア文化センター視聴覚教材共同製作事業委員　BESETO演劇祭・アジア舞踊国際会議（ITI）企画委員

The Arts

赤澤立三　非常勤

生年月日
昭和15年生

略歴
昭和39年03月
日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和45年05月
日本大学芸術学部助手
昭和54年06月
日本大学芸術学部専任講師
昭和60年04月
日本大学芸術学部助教授
平成05年04月
日本大学芸術学部教授
平成22年06月
日本大学定年退職

研究領域
ピアノ教育を中心とした器楽教育の教材研究、指導方法及び比較研究を主とする。特にロシア（旧ソヴィエト）におけるピアノ教育事情の調査研究に重点をおき、その関連の研究論文、紹介記事を学会、専門誌等に多数発表する。併せて導入期における諸問題にも関心を持って考察している。

研究業績
「R.レティ著：ベートーヴェン・ピアノソナタの構築と分析」（共訳）音楽之友社
「最新ピアノ講座」（共著）音楽之友社
「グリークピアノ名曲集」（監修・校訂）ドレミ楽譜出版社
「ソヴィエトのピアノメソードにみる教育観について」（研究論文）日本音楽教育学会
「ソヴィエト・児童音楽学校のピアノ科カリキュラムを巡って」（共編）ムジカノーヴァ誌連載
EPTA（ヨーロッパピアノ教育連盟）ストックホルム（スウェーデン）大会において「日本におけるピアノ教育の軌跡と現況について」を講演(2012.9)。

社会活動
西東京市文化芸術振興会副会長
西東京市文化芸術振興推進委員会委員長

峰村澄子　非常勤

生年月日
昭和16年12月19日生

略歴
昭和41年03月
日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和47年06月
日本大学芸術学部助手
昭和52年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和60年04月
日本大学芸術学部助教授
平成07年04月
日本大学芸術学部教授
平成24年07月
日本大学名誉教授

研究領域
専攻分野：作曲
現代音楽の創作をしてゆく中で、これまで日本の伝統音楽（雅楽・能楽等）についての研究をしつつ、また民族性に強い関心を持っている。創作にその特性を生かしながら咀嚼して独自の語法により作品を書いている。現在は、民族性の中の“言葉”と旋律（音楽表現）、“リズム論”に強い関心を持っている。

研究業績
「峰村澄子歌曲集」音楽之友社
「風韻～ヴァイオリンとピアノのための～」日本作曲家協議会（楽譜出版）
「謡～クラリネットとピアノのための～」国際芸術連盟（第４回日本現代音楽展出品・楽譜出版）
「峰村澄子・室内楽作品集“舞”」（CD出版）
「クラリネット、チェロ、ピアノのための三重奏曲」日本作曲家協議会（2000年の作曲家出品・楽譜出版）
峰村澄子作品展（個展）Ⅰ～Ⅷ　東京文化会館他
「ファンタジア～４手連弾のためのわらべうた」音楽之友社

社会活動
日本現代音楽協会会計監査役
国際ピアノデュオ協会会長、理事長
国際芸術連盟室内楽コンクール審査委員及び作曲コンクール審査委員
国際ピアノデュオコンクール（作曲部門）審査委員長（演奏部門）審査委員

山中敏正　非常勤

生年月日
昭和32年生

略歴
昭和55年03月
千葉大学工学部工業意匠学科卒業
昭和57年03月
千葉大学工学研究科工業意匠学修了
昭和57年04月
旭光学工業株式会社（現リコー株式会社）工業デザイン室
平成02年10月
イリノイ工科大学特別研究員
平成06年02月
筑波大学芸術学系講師
平成14年04月
デルフト工科大学招待研究員
平成17年03月
博士（感性科学）（筑波大学）
平成17年04月
筑波大学人間総合科学研究科教授
平成23年10月
筑波大学芸術系教授

研究領域
デザインプロセスにおける感性の働き方、感性情報の働きおよび感性による評価について、デザイン方法論と人間工学／認知科学／感性科学の立場から研究を進めている。また、情報デザイン／プロダクトデザインの実践に、感性科学の知見を応用している。

研究業績
学術論文・著書
LEVY Pierre, YAMANAKA Toshimasa, Kasnei Studies Description and Mapping through Kansei Study Keywords, Kasnei Engineering International Journal vol.8 No.2, Japan Society of Kansei Engineerig, 2009/05
山中敏正：カメラデザインにおける設計要件の構造的分析，日本デザイン学会，1989
山中敏正：プロダクトデザインの広がり 第２部 統合化技術としてのデザイン、第３部 デザインの仕事は考えること、工業調査会,2000

社会活動
日本デザイン学会会長
日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞審査員（2001.2003）
日本感性工学会参与

綿村松輝　非常勤

生年月日
昭和16年12月02日生

略歴
昭和39年03月
日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和48年04月
日本大学芸術学部助手
昭和53年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和60年04月
日本大学芸術学部助教授
平成05年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
作曲専攻
自然と人と音のかかわりを深く思惟し、その始原での音楽表現の原点をみつめ、室内楽の作品を中心として創作活動をしている。

研究業績
チェロとピアノのための「遠い光へ…」CD
現代室内楽の諸相　国際芸術連盟制作
エレクトーンとテープのための「水紋」CD
1stアルバム「エスパス」J.DNARCOREDS
「環の素描」～フルートとバスクラリネットとコンピュータのための～
ピアノのためのプレリュードⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
弦楽四重奏曲第６番　出版・CD
日本の作曲家'91　日本作曲家協議会
ピアノのための「散華」、歌曲「西行法師の歌三首」、弦楽三重奏のための「無量譜」。

社会活動
日本現代音楽協会会員
日本作曲家協議会会員
オーパス・メディウム主宰
作曲家集団アルビレオ会長

INDEX

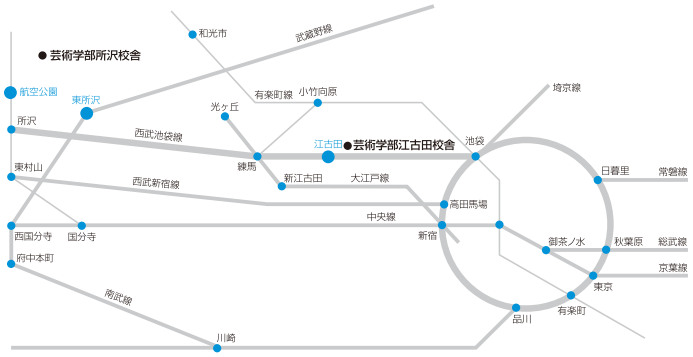
五十音順 (敬称略)
●博士**前期**課程と●博士**後期**課程を担当する教員が見分けられるようになっています。
Ⓟは掲載頁の場所を示します。
※は平成28年度開講していません。

	博士前期	博士後期	Ⓟ
青木敬士	●		10
青木研次	●		23
赤木範陸	●		31
赤澤立三		●	49
浅井　譲	●	●	16
芦川紀子	●		40
穴澤万里子	●		45
有地好登	●	●	28
池田直樹	●	●	38
石﨑　等	●	●	13
板倉駿夫	●	●	40
伊藤弘之	●	●	38
稲川榮一	●	●	40
今泉　久	●		38
上田　薫	●	●	10
植月惠一郎	●	●	10
上原興隆	●		41
大久保惠児	●		45
大熊敏之	●	●	31
大谷尚子	●		17
大槻孝之	●	●	28
大西若人	●		32
大庭英治	●	●	28
小笠原隆夫	●	●	22
奥野邦利	●	●	17
小倉洋一	●		32
小田幸子	●		47
(渡辺幸子)			
落合賢一	●		20
織田紘二	●		47
海崎三郎	●		32
笠羽映子	●	●	41
加藤みや子	●		47
(畦地みや子)			
金澤健一	●		33
金子啓明	●		32
兼高聖雄	●	●	21
上倉　泉	●	●	18
神永光規	●	●	45
川上　央	●	●	39
河東義之	●		33
北岡晃子	●		41
木下　晋	●		33
木村三郎	●	●	29
木村政司	●	●	30
金　龍郎	●		22
久保陽子	●		12
熊谷廣己	●	●	30
鞍掛純一	●	●	29
桑原淳司	●	●	30
小泉定弘	●	●	23
甲田謙一	●		16
上滝徹也	●	●	23
河野　実	●		33
肥田不二夫	●	●	30
古賀　太	●	●	18
小林昭世	●	●	34
小林直弥	●		45
此経啓助	●	●	13
斉田正子	●	●	39
齊藤裕人	●	●	18
阪本善尚	●		23
櫻井孝美	●		34
笹井祐子	●		28
(奥村祐子)			
佐々木　伸	●		41
佐藤　徹	●		31
佐藤英裕	●		16
佐藤洋二郎	●	●	11
(佐藤洋二)			
澤崎眞彦	●	●	42
四戸世紀	●		42
清水敏成	●		34
清水　正	●	●	11
清水泰博	●		42
鈴木孝史	●	●	16
鈴木保彦	●	●	24
鈴木康弘	●	●	21
須藤温子	●		13
(香田温子)			
鷲見洋一	●	●	34
瀬島久美子	●		24
鷹尾俊一	●		35
髙木雄司	●		42
髙橋幸次	●	●	29
高橋則英	●	●	17
田島良一	●	●	18
田代幸弘	●	●	39
立石弘道	●	●	13
玉木則順	●	●	19
千早正美	●	●	46

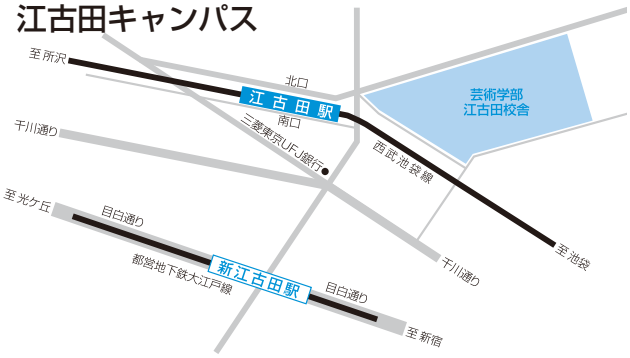
	博士前期	博士後期	Ⓟ
月岡貞夫	●	●	24
土田　修	●		35
土野研治	●	●	39
寺内曜子	●		35
寺田悦子※	●	●	43
(渡邊悦子)			
寺脇　研	●	●	24
唐須教光	●		14
戸田宗宏	●		48
鳥山正晴	●	●	19
仲倉重郎	●		25
中島安貴輝	●	●	35
(中島忠家)			
中町綾子	●	●	21
中村文昭	●	●	14
南部英夫	●		25
西垣仁美	●	●	17
西川　潔	●	●	36
丹羽勝海	●	●	43
貫　成人	●		48
野末敏明	●		25
野田慶人	●	●	21
野村康治	●		14
萩原貴子	●	●	38
(緒方貴子)			
橋本勝次	●		25
原　一平	●	●	46
原　直久	●	●	26
范　旅	●		46
平野　昭	●	●	43
広沢文則	●	●	26
深谷基弘	●	●	36
(山中光美)			
福島唯史	●		29
藤崎周平	●	●	46
藤田一美	●	●	14
藤戸幹雄	●		36
古澤　泉※	●		43
星野　裕	●		22
堀　邦維	●	●	11
堀江真理子	●		44
前田富士男	●	●	36
増田治宏	●		20
松島哲也	●	●	19
松田義弘	●		26
松本　洸	●	●	15
丸茂祐佳	●	●	47
(丸茂美惠子)			
三浦章宏	●		44
峰村澄子		●	49
宮尾慈良	●		48
三宅理一	●		15
宮崎正弘	●		19
宮沢誠一	●	●	20
村山匡一郎	●	●	20
森　香織	●	●	31
森中慎也	●		22
守山光三	●		44
山内　淳	●	●	11
山下聖美	●		12
山田顕喜	●	●	26
山中敏正		●	49
山本雅男	●	●	12
楊　逸	●	●	12
(百木逸楊)			
楊　麗貞	●	●	40
(蛭子麗貞)			
横田正夫	●		27
吉岡正人	●		37
綿村松輝		●	49

(平成29年10月現在)

MAPS

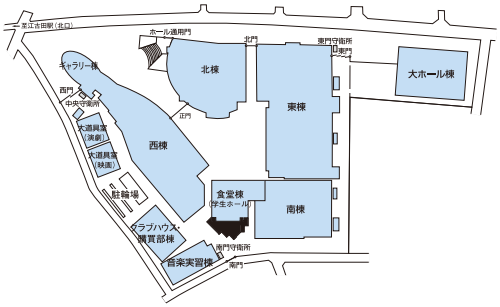


江古田キャンパス



■ JR池袋駅より西武池袋線各駅停車にて
江古田駅下車 北口より徒歩1分

■ 都営地下鉄大江戸線にて
新江古田駅下車 徒歩13分



所沢キャンパス

【所沢校舎へのアクセス】

西武池袋線：池袋駅 —24分 急行→ 所沢駅 —3分 西武新宿線→ 航空公園駅

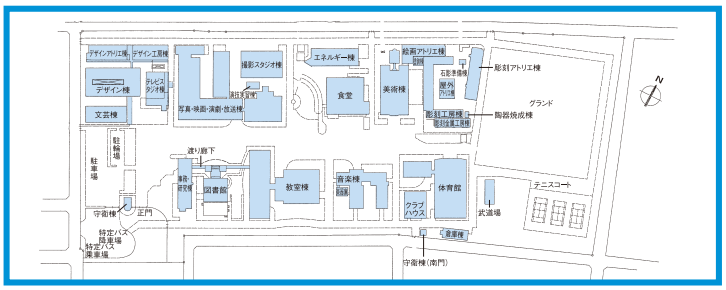
西武新宿線：高田馬場駅 —40分 急行→ 航空公園駅

航空公園駅
- 特定バスにて15分「大学正門前」下車
- 西武バス —15分 エステシティ所沢行→ エステシティ中央下車 徒歩3分

ＪＲ武蔵野線：東所沢駅のりかえ西武バス

東所沢駅
- 特定バスにて12分「大学正門前」下車
- 西武バス —15分 所沢車検場経由エステシティ所沢行→ エステシティ中央下車 徒歩3分
- 西武バス —20分 南永井経由エステシティ所沢行→ エステシティ所沢下車 徒歩8分

※特定バスは，西武バスとの契約により授業実施日のみ運行しています。
特定バスの利用には，「利用券」が必要です。



GSA

Art Direction, Design & Digital Operation
by Masashi Kimura,
Department of Design
Text : General Affairs Section & Academic Affairs Section
Printing Company : TASP
Many thanks to
The People Who Understand
the Art & Design
Nihon University Graduate School of Art
Octorber 2017.

GSA

www.art.nihon-u.ac.jp

日本大学大学院芸術学研究科

東京都練馬区旭丘2-42-1〒176-8525

Telephone.03·5995·8202 Facsimile.03·5995·8209

NIHON UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF ART

2-42-1, Asahigaoka Nerima-ku, Tokyo 176-8525 JAPAN